

【男女共同参画に関する市民意識調査票】

(1) 男女の人権尊重について

問1. あなたは、次の①～⑥の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

(1) 平成27年度調査

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性優遇”の割合が、①家庭生活で44.0%、②職場で63.5%、⑥しきたりや習慣で58.5%と高くなっています。

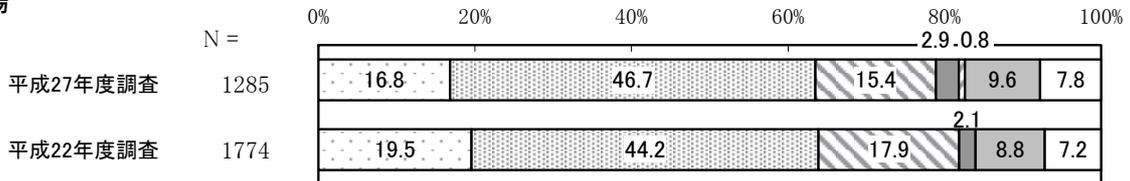
平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

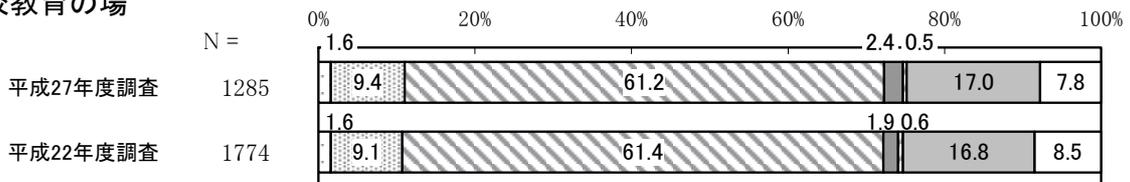
①家庭生活



②職場



③学校教育の場

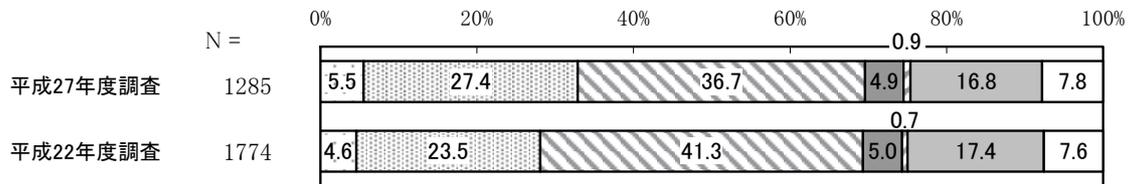


④地域社会



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

⑤ 法律や制度



⑥ しきたりや習慣



【参考／内閣府・愛知県との比較】

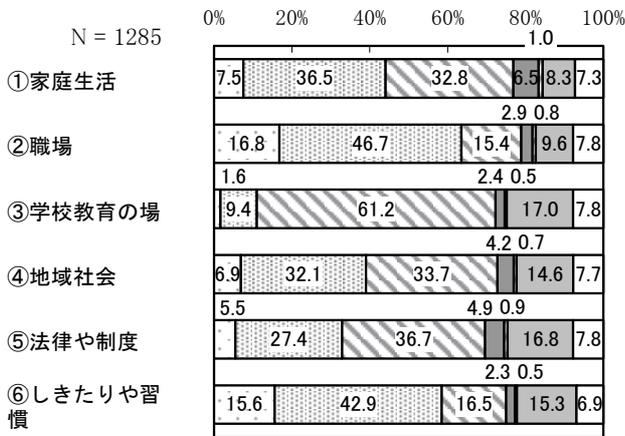
内閣府調査との比較でみると、すべての項目で「平等」の割合が低くなっています。また、⑤法律や制度で“男性優遇”の割合が低くなっています。

愛知県調査との比較でみると、④地域社会を除いたすべての項目で“男性優遇”の割合が低くなっています。

あま市

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

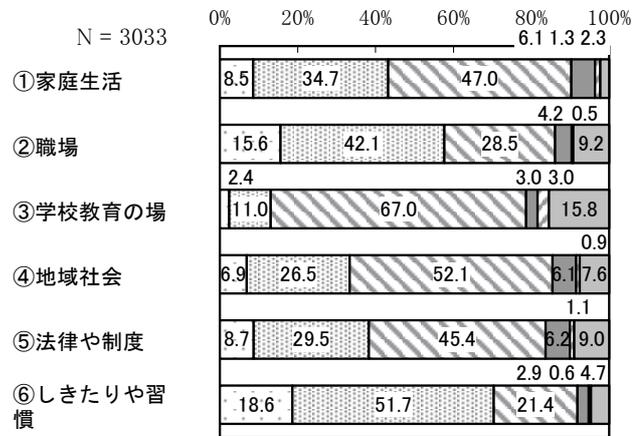
N = 1285



内閣府（平成 24 年度調査）

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない

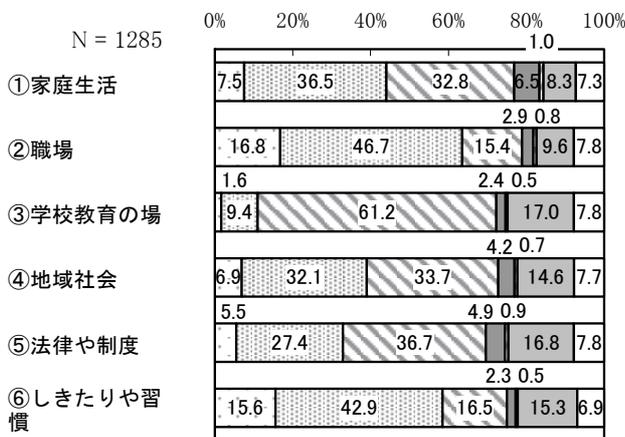
N = 3033



あま市

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

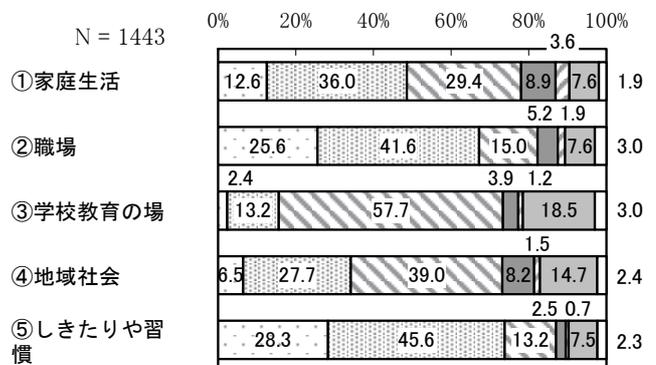
N = 1285



愛知県（平成 26 年度調査）

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない・無回答

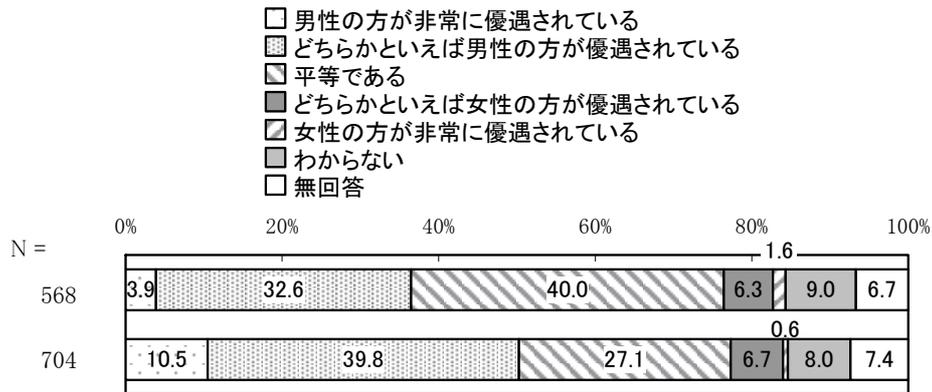
N = 1443



① 家庭生活

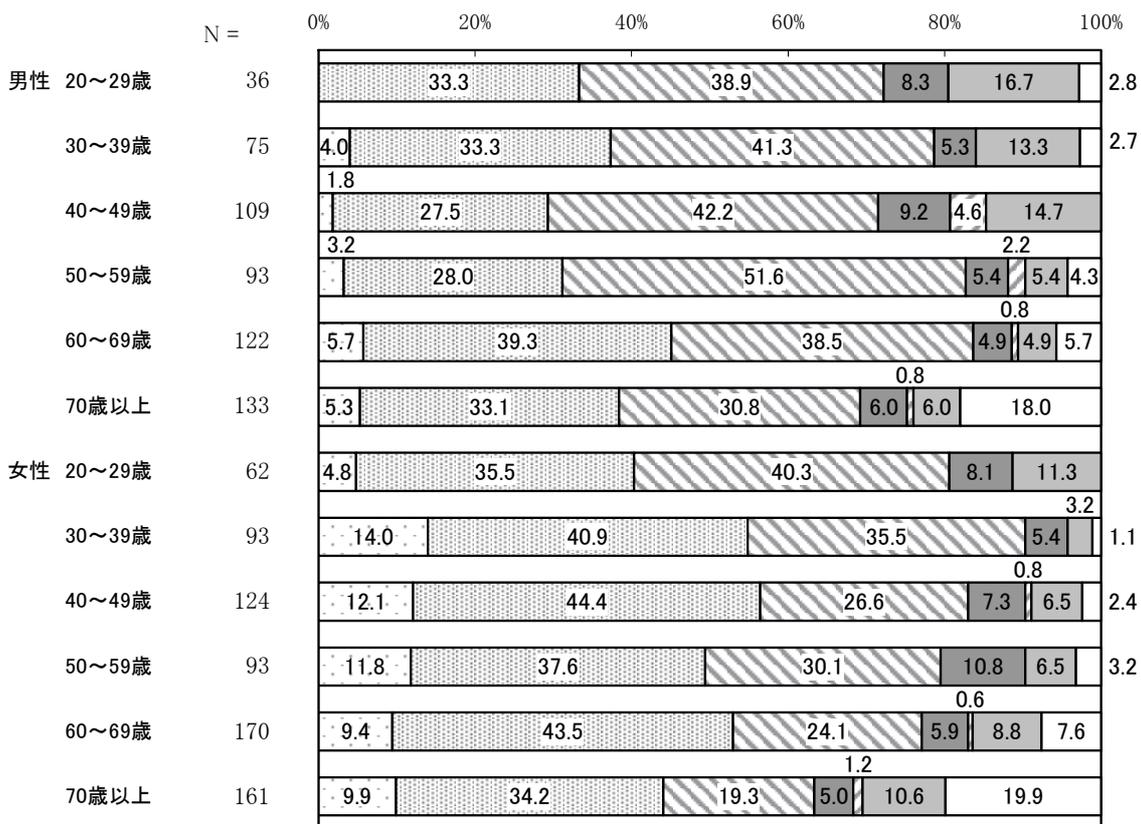
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

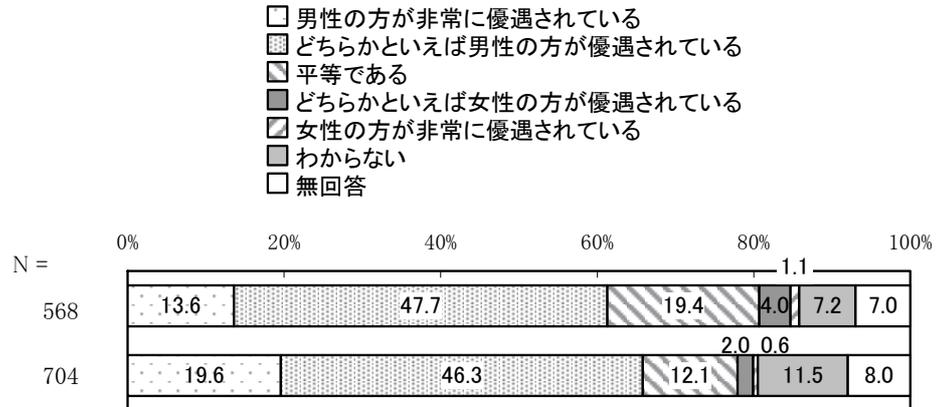
性・年齢別でみると、女性の30～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の50～59歳で「平等」の割合が高くなっています。



② 職場

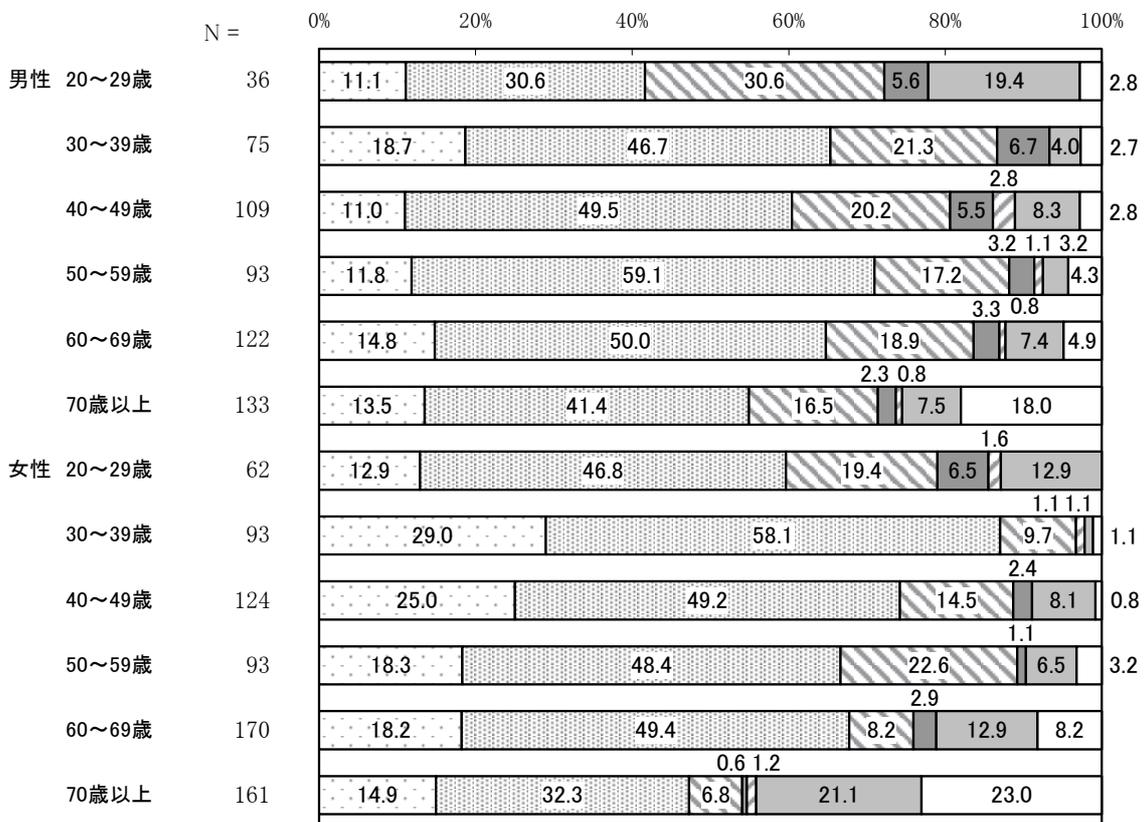
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

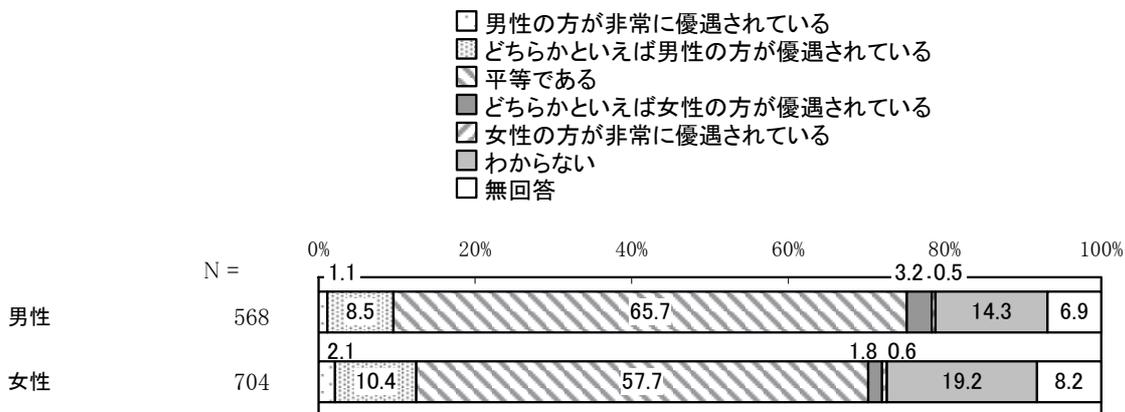
性・年齢別でみると、女性の30～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



③ 学校教育の場

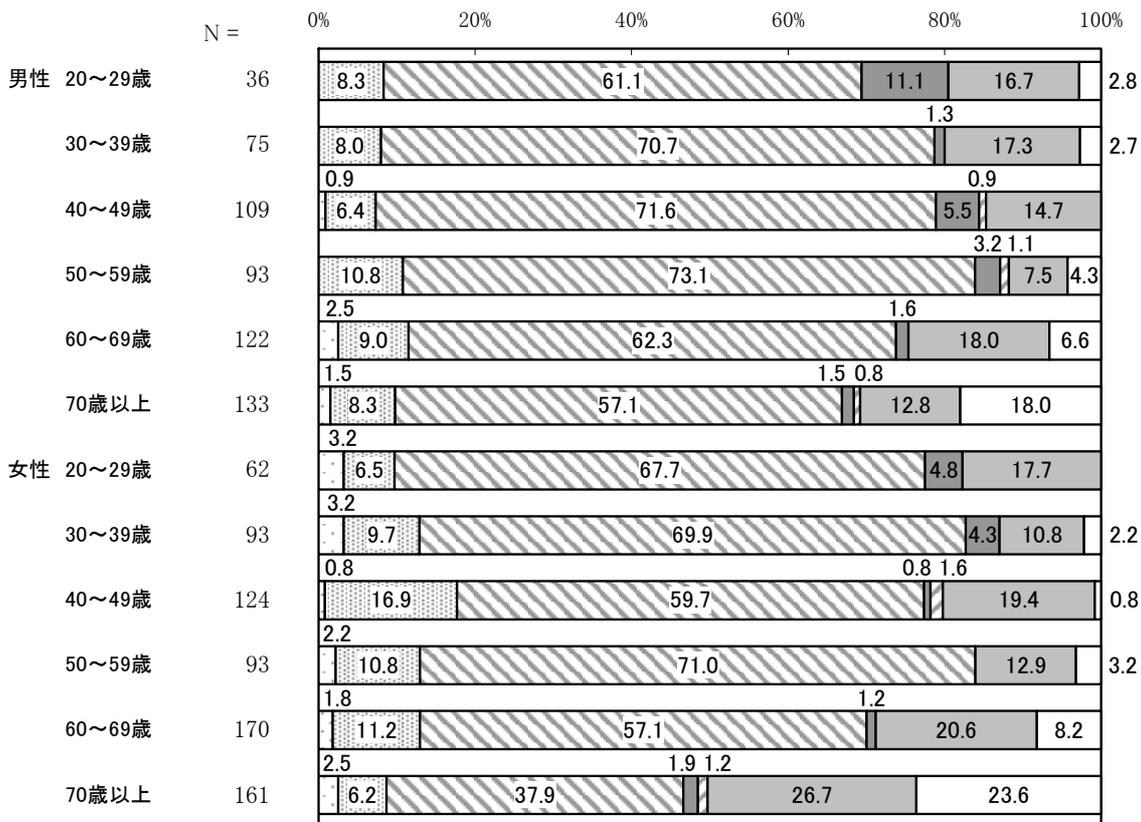
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

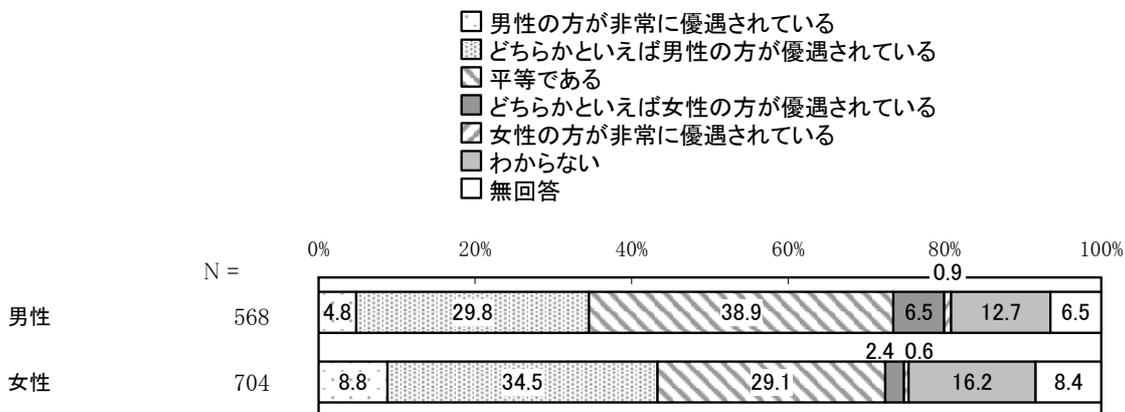
性・年齢別でみると、男女ともに50～59歳で「平等」の割合が高くなっています。



④ 地域社会

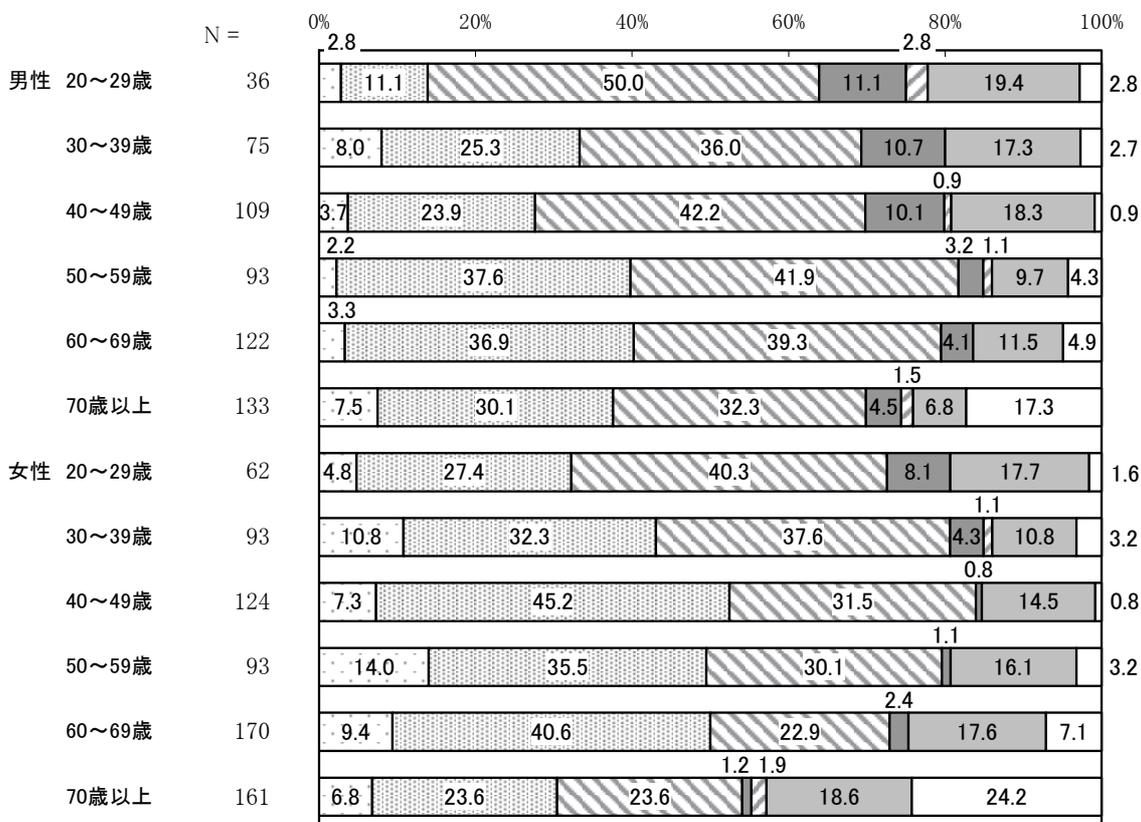
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

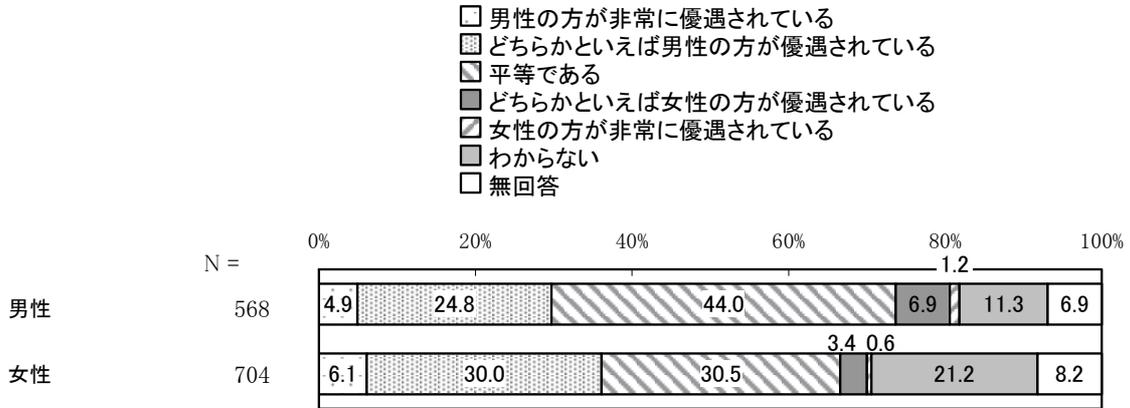
性・年齢別でみると、女性の40～69歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



⑤ 法律や制度

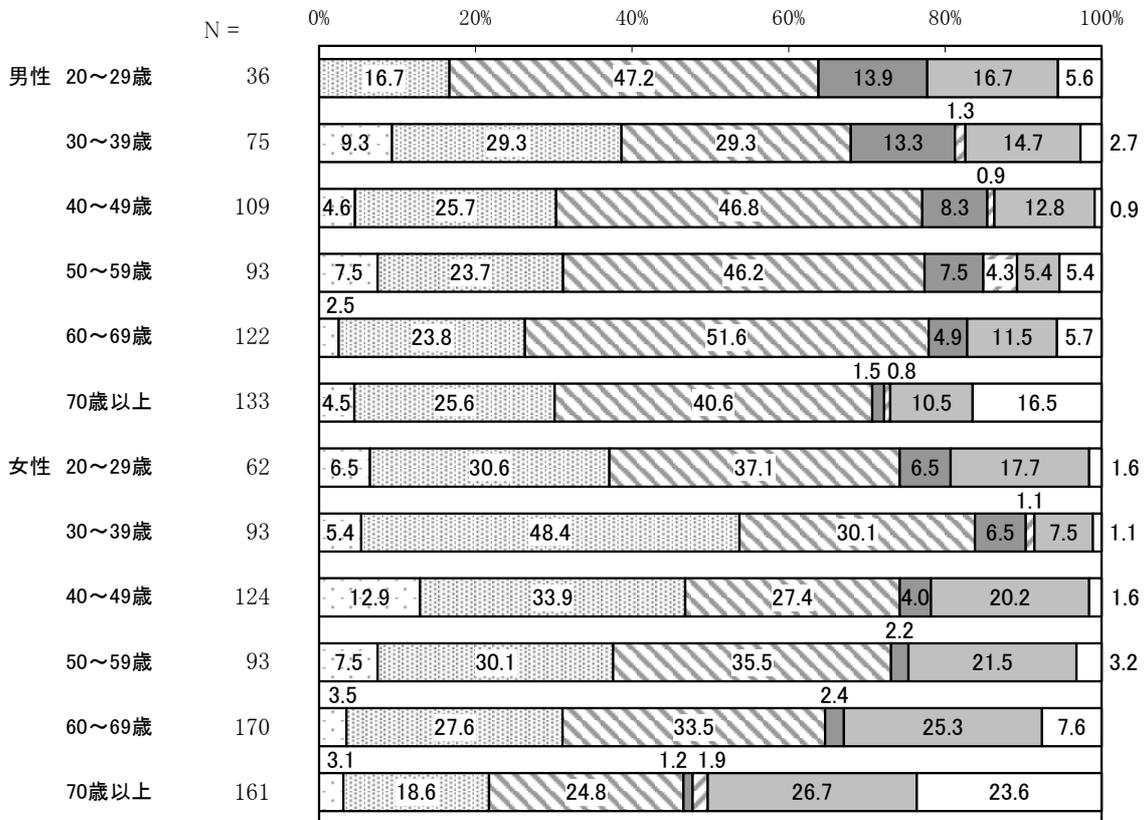
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で“男性優遇”の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「平等」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

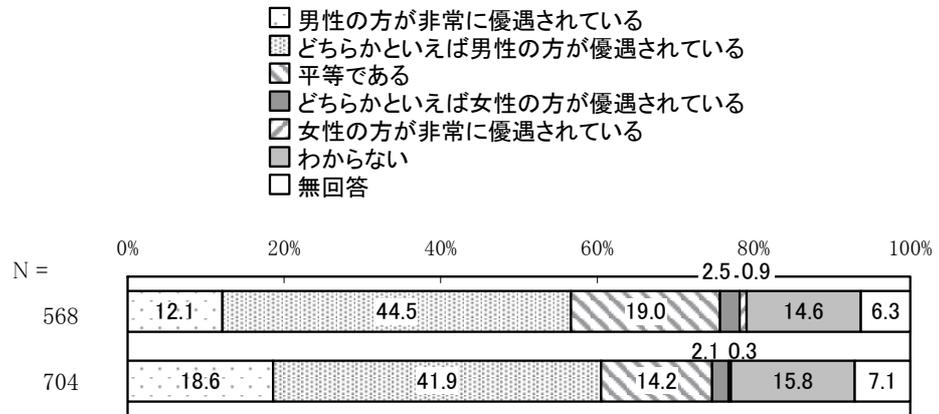
性・年齢別で見ると、女性の30～49歳で“男性優遇”の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～69歳で「平等」の割合が高くなっています。



⑥ しきたりや習慣

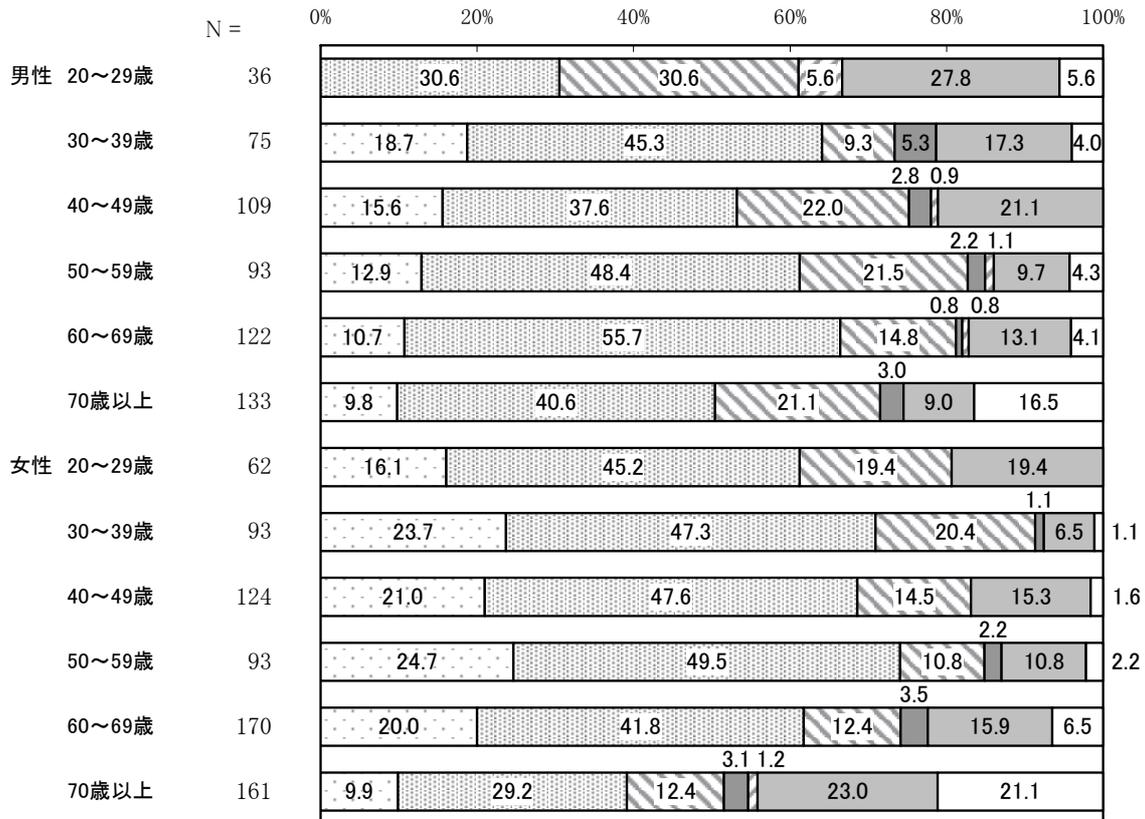
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



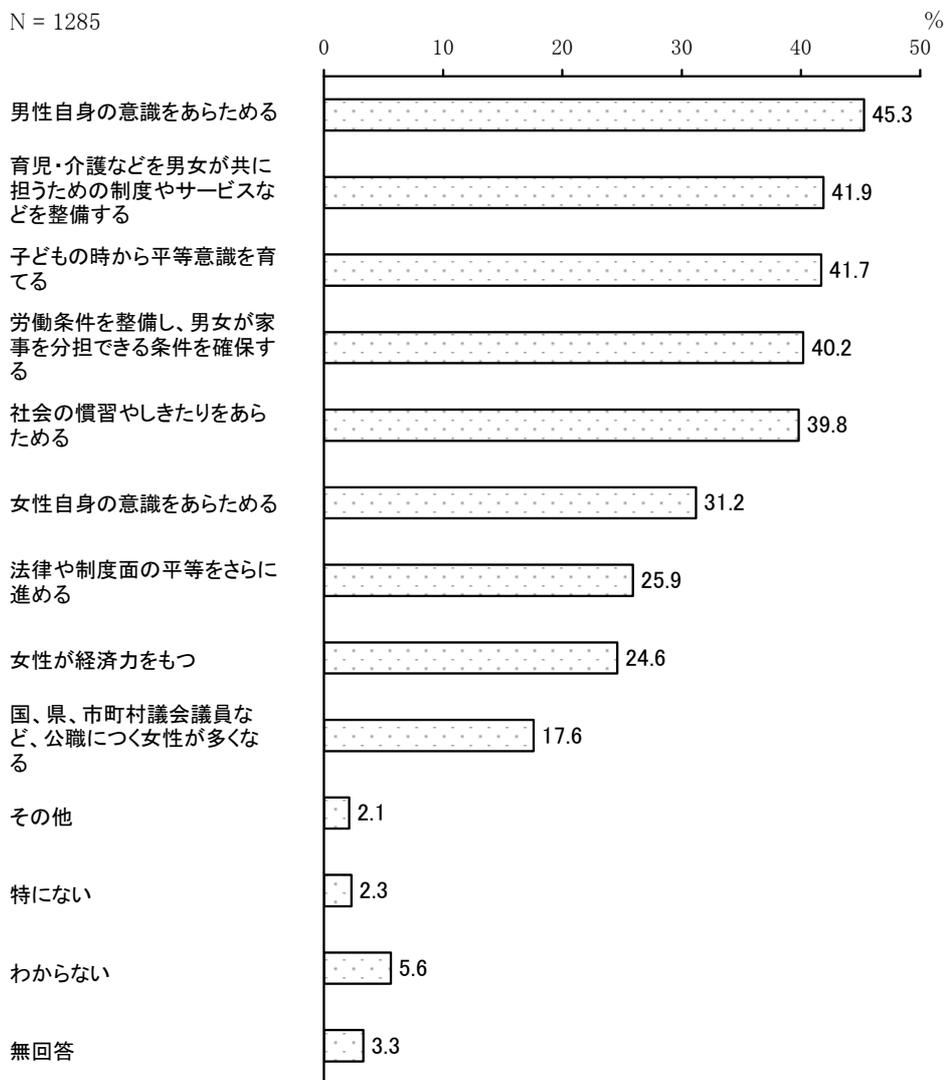
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の30～59歳で「男性優遇」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「平等」の割合が高くなっています。



問2. あなたは、男女が平等な立場で協力し合っていくためには、どんなことが大切だと思いますか。(〇印いくつでも)

「男性自身の意識をあらためる」の割合が45.3%と最も高く、次いで「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が41.9%、「子どもの時から平等意識を育てる」の割合が41.7%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「女性が経済力をもつ」「子どもの時から平等意識を育てる」「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」「国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性が経済力をもつ	女性が自身の意識をあらためる	男性自身の意識をあらためる	社会の慣習やしきたりをあらためる	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	20.2	29.4	45.2	39.1	26.2	37.9	35.0	33.8	14.3	3.0	2.5	6.2	3.0
女性	704	28.1	32.7	45.2	40.5	25.6	45.0	44.9	49.0	20.3	1.4	2.0	5.3	3.4

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～49歳、60～69歳で「女性が経済力をもつ」の割合が高くなっています。女性の50～69歳で「女性自身の意識をあらためる」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の40～69歳で「男性自身の意識をあらためる」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、70歳以上、女性の60～69歳で「社会の慣習やしきたりをあらためる」の割合が高くなっています。また、男性の30～39歳、女性の40～49歳で「法律や制度面の平等をさらに進める」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「子どもの時から平等意識を育てる」「国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる」の割合が高くなっています。女性の20～69歳で「労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する」の割合が高くなっています。女性の20～49歳、60～69歳で「育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する」の割合が高くなっています。

単位：％

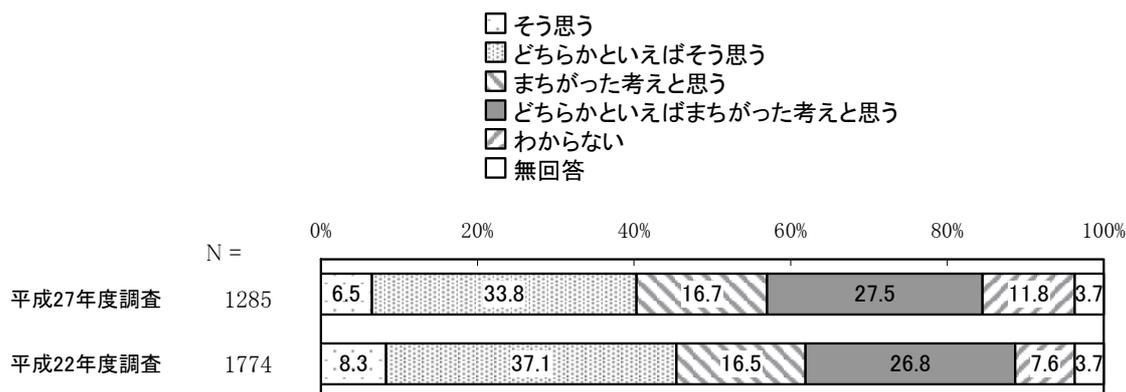
区分	有効回答数(件)	女性が経済力をもつ	女性自身の意識をあらためる	男性自身の意識をあらためる	社会の慣習やしきたりをあらためる	法律や制度面の平等をさらに進める	子どもの時から平等意識を育てる	労働条件を整備し、男女が家事を分担できる条件を確保する	育児・介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどを整備する	国、県、市町村議会議員など、公職につく女性が多くなる	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	13.9	25.0	47.2	55.6	30.6	44.4	44.4	36.1	13.9	2.8	2.8	2.8	2.8
30～39歳	75	9.3	18.7	49.3	37.3	34.7	28.0	34.7	33.3	22.7	4.0	2.7	6.7	1.3
40～49歳	109	22.0	34.9	43.1	36.7	21.1	33.0	36.7	30.3	8.3	3.7	0.9	4.6	0.9
50～59歳	93	20.4	32.3	40.9	28.0	22.6	41.9	24.7	30.1	8.6	3.2	1.1	10.8	1.1
60～69歳	122	19.7	27.0	51.6	39.3	22.1	43.4	33.6	33.6	13.1	3.3	4.9	4.9	2.5
70歳以上	133	27.1	32.3	41.4	45.1	30.8	37.6	39.8	39.1	19.5	1.5	2.3	6.0	7.5
女性 20～29歳	62	14.5	32.3	41.9	40.3	25.8	45.2	53.2	53.2	16.1	4.8	3.2	6.5	—
30～39歳	93	28.0	24.7	45.2	41.9	21.5	45.2	51.6	52.7	21.5	2.2	2.2	3.2	—
40～49歳	124	31.5	30.6	50.0	41.9	39.5	49.2	46.0	54.0	25.0	1.6	1.6	4.0	—
50～59歳	93	28.0	41.9	50.5	32.3	18.3	46.2	49.5	44.1	15.1	—	—	4.3	2.2
60～69歳	170	30.0	41.2	55.9	47.6	28.2	45.9	45.3	54.1	21.2	1.2	0.6	3.5	4.7
70歳以上	161	29.2	24.8	28.6	35.4	18.6	39.8	34.2	38.5	19.3	0.6	4.3	9.3	8.7

(2) 家庭生活について

問3. あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。
(○印1つ)

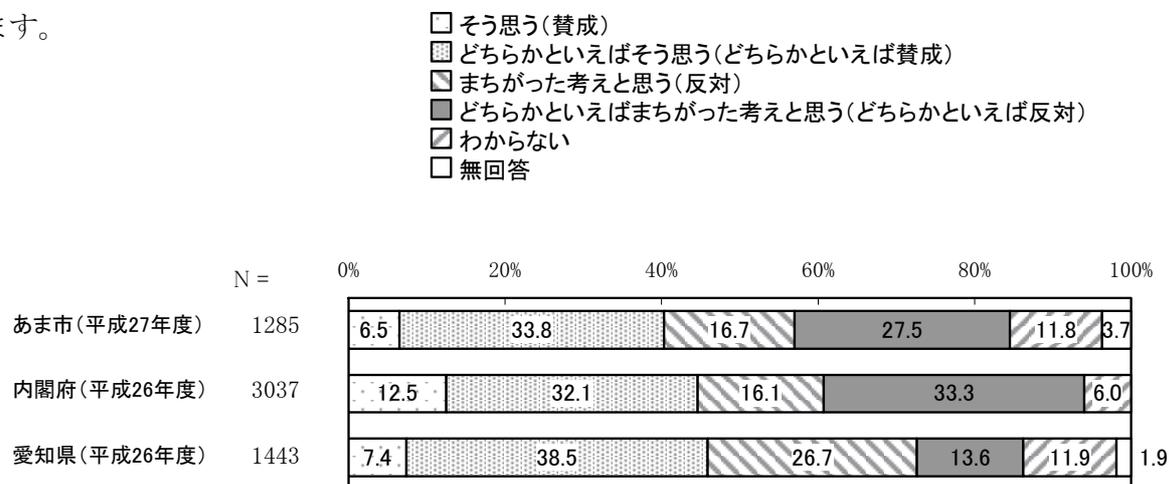
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が40.3%となっています。「まちがった考えと思う」と「どちらかといえばまちがった考えと思う」をあわせた“まちがった考え”の割合が44.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【参考／内閣府・愛知県との比較】

内閣府・愛知県調査と比較すると、内閣府、愛知県に比べ“そう思う”の割合が低くなっています。



【性別】

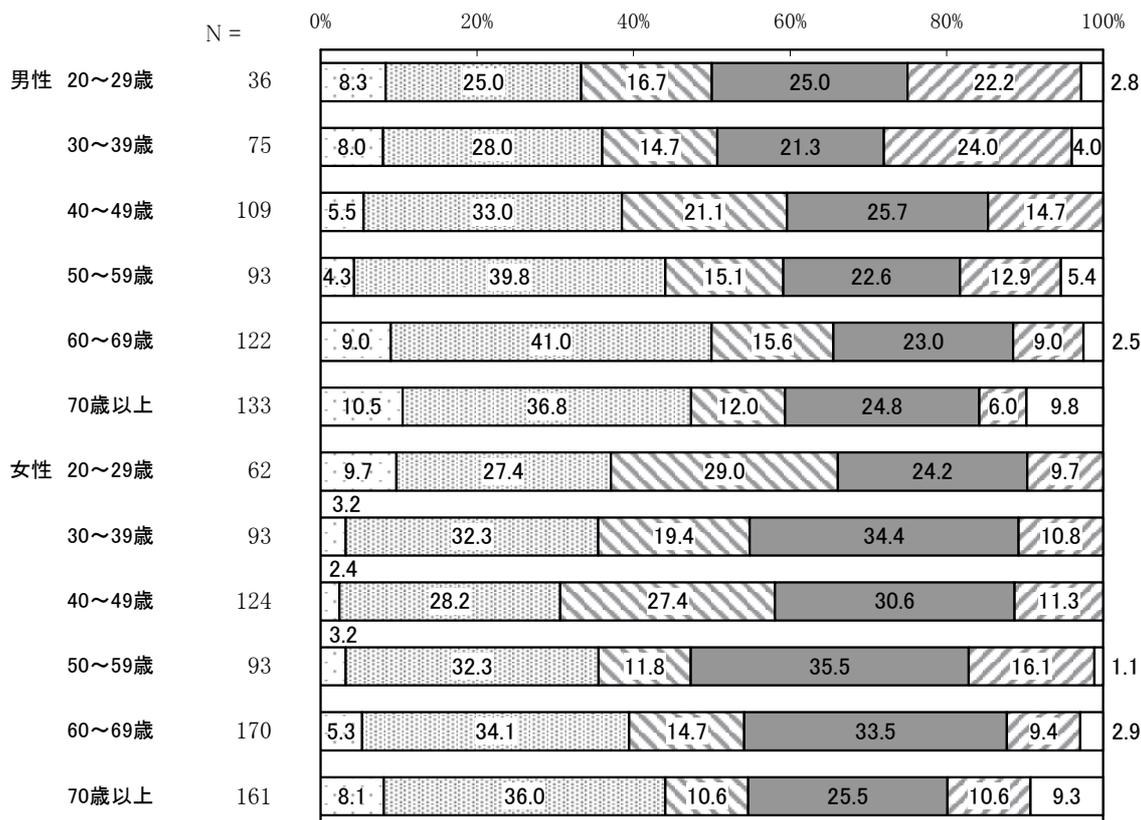
性別でみると、男性に比べ女性で“まちがった考え”の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

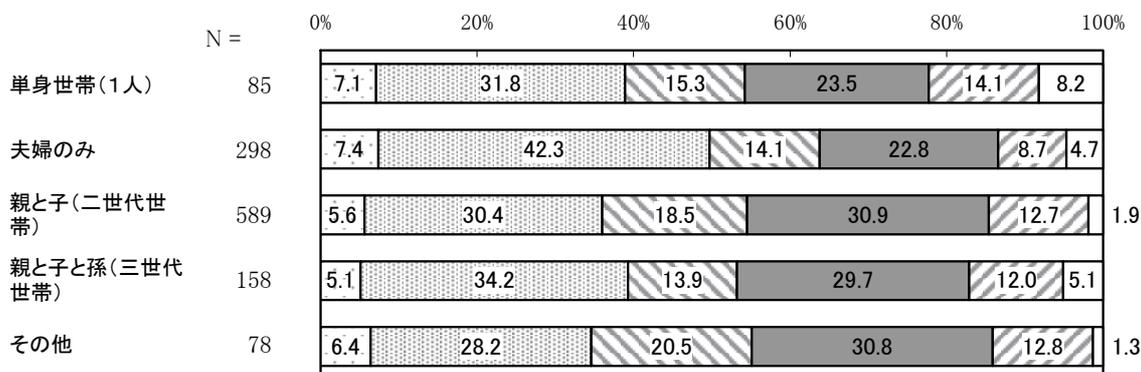
性・年齢別で見ると、男性の60～69歳で“そう思う”の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で“まちがった考え”の割合が高くなっています。

- そう思う
- ▨ どちらかといえばそう思う
- ▩ まちがった考えと思う
- どちらかといえばまちがった考えと思う
- ▧ わからない
- 無回答



【家族構成別】

家族構成別で見ると、夫婦のみで“そう思う”の割合が高くなっています。



問4. 家庭における夫婦の役割分担について、どう思いますか。

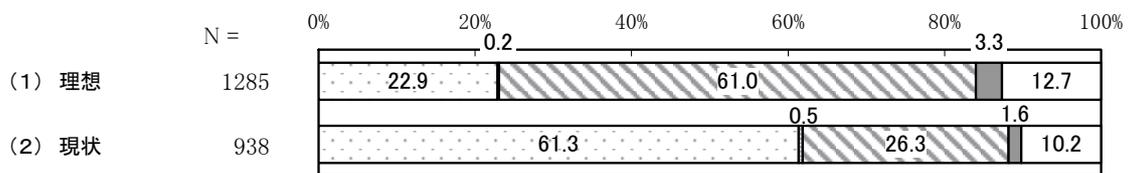
(1) 全ての方にお伺いします。①～⑥に示す場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。(理想欄から○印①～⑥の項目ごとに1つずつ)

理想と現実を比較すると、①家事全般（食事、洗濯、掃除等）、②日常の買い物、③家計の管理では、現状で「主に妻が行う」の割合が最も高くなっていますが、理想としては、「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。

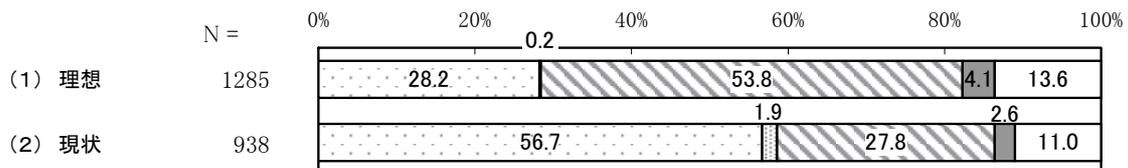
④子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）、⑤親等の介護、⑥地域活動では、現状で「共同して分担する」の割合が高くなっていますが、理想としては、「共同して分担するのがよい」の割合が現状より高くなっています。

- (1) 理想
- 主に妻が行うのがよい
 - 共同して分担するのがよい
 - 無回答
 - 主に夫が行うのがよい
 - その他
- (2) 現状
- 主に妻が行う
 - 主に夫が行う
 - 共同して分担する
 - その他
 - 無回答

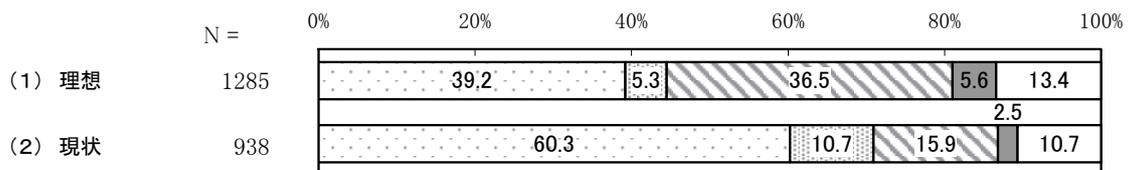
① 家事全般（食事、洗濯、掃除等）



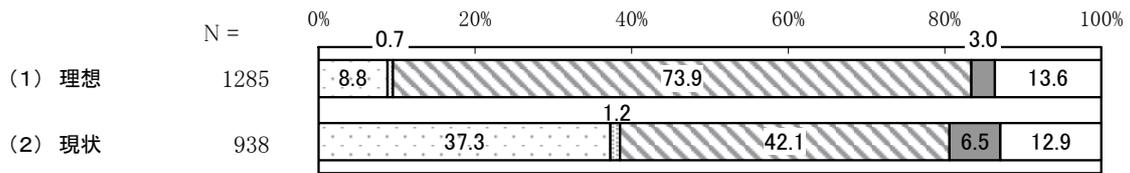
② 日常の買い物



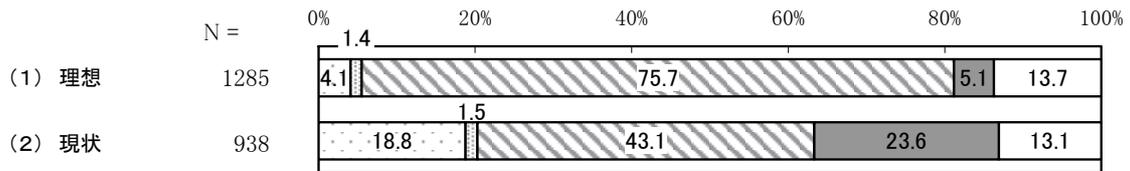
③ 家計の管理



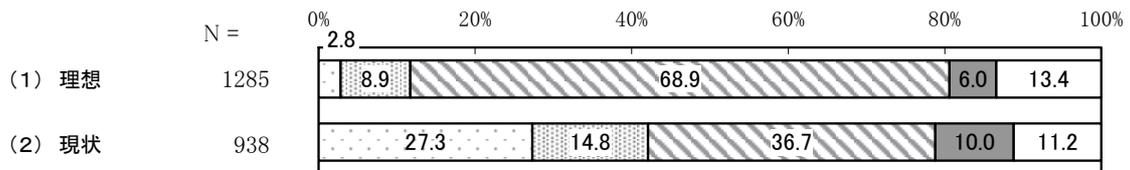
④ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）



⑤ 親等の介護



⑥ 地域活動への参加

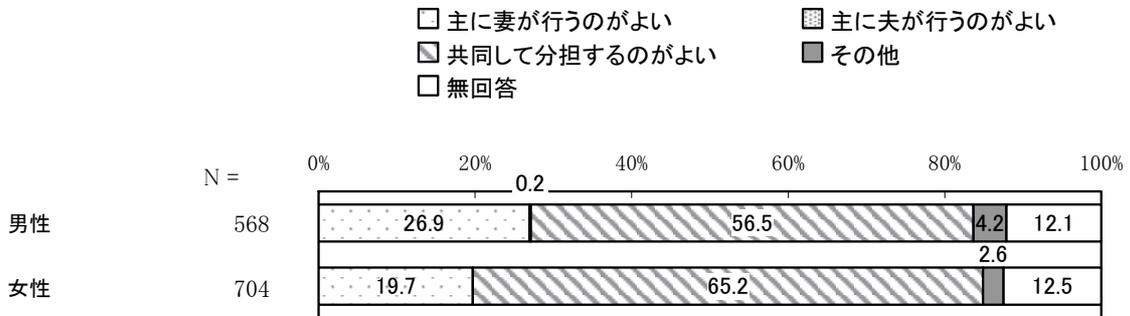


① 家事全般（食事、洗濯、掃除等）

（１）理想

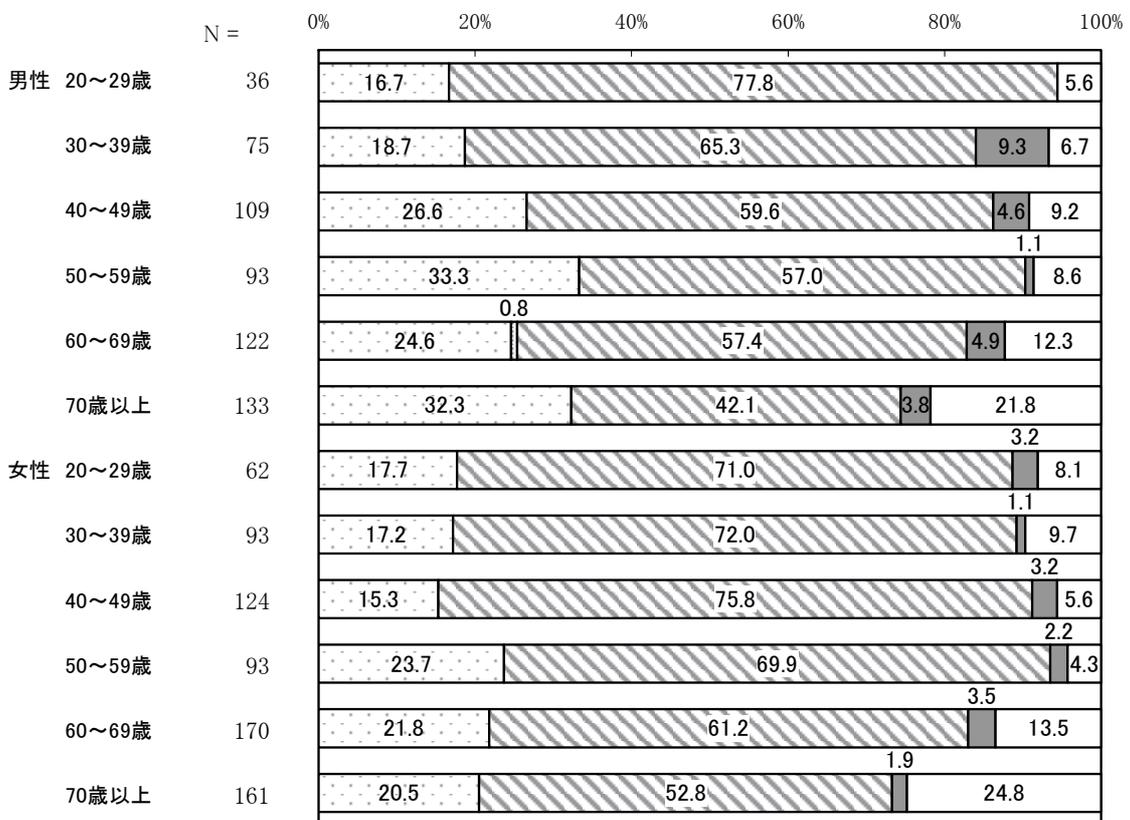
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

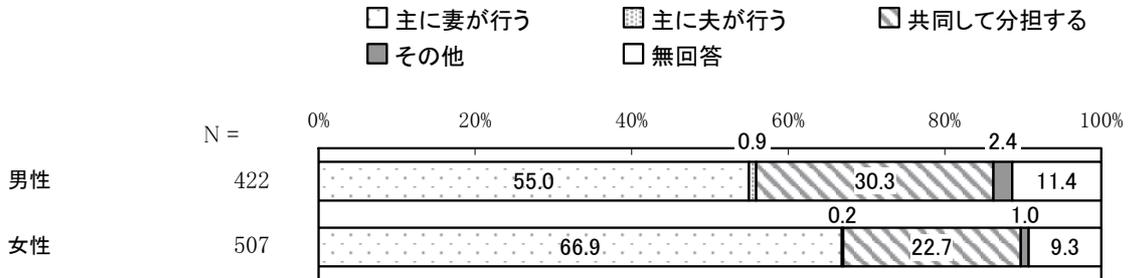
性・年齢別で見ると、男性の50～59歳、70歳以上で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

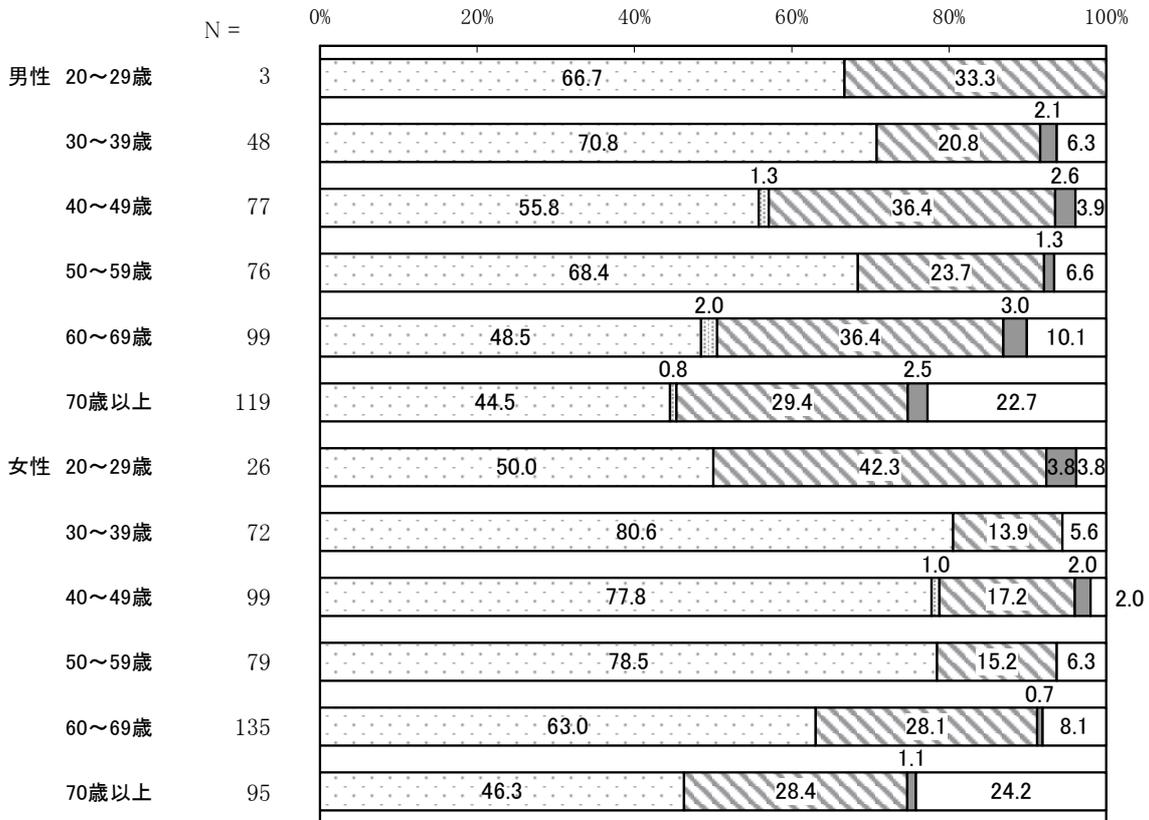
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～39歳、50～59歳、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～49歳、60～69歳、女性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

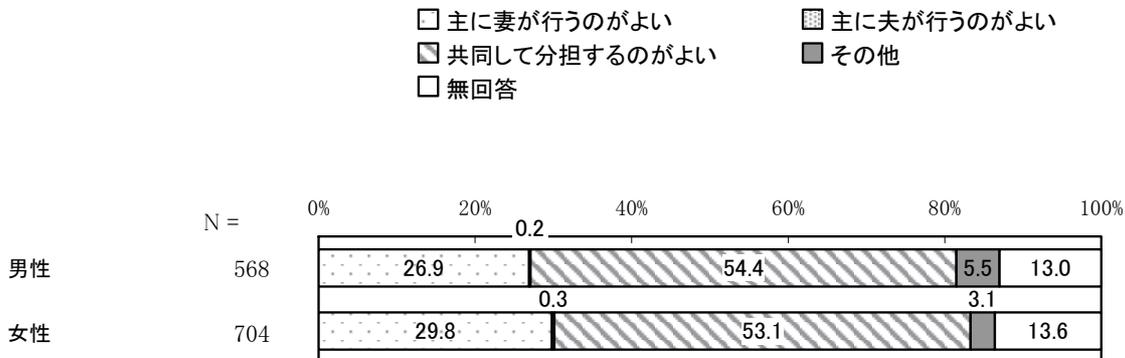


② 日常の買い物

(1) 理想

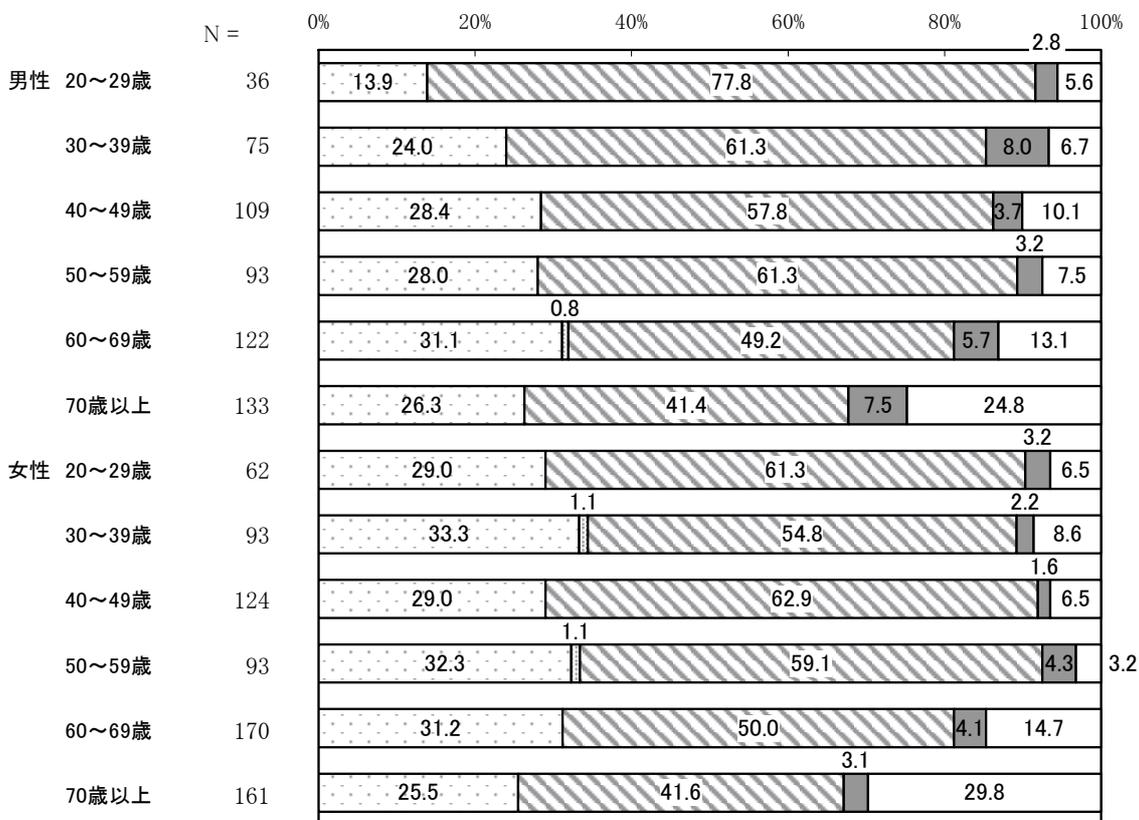
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

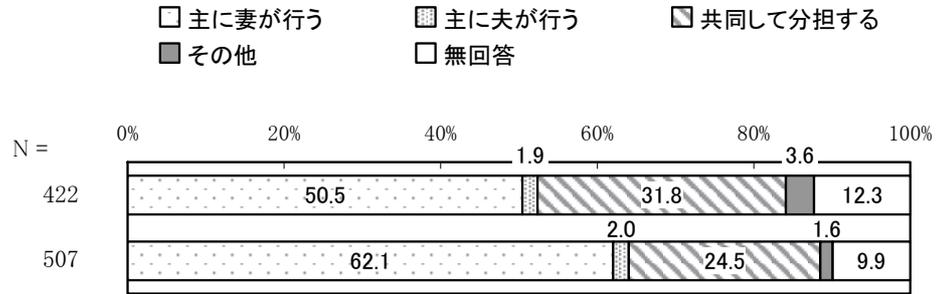
性・年齢別でみると、女性の30～39歳、50～59歳で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、50～59歳、女性の20～29歳、40～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

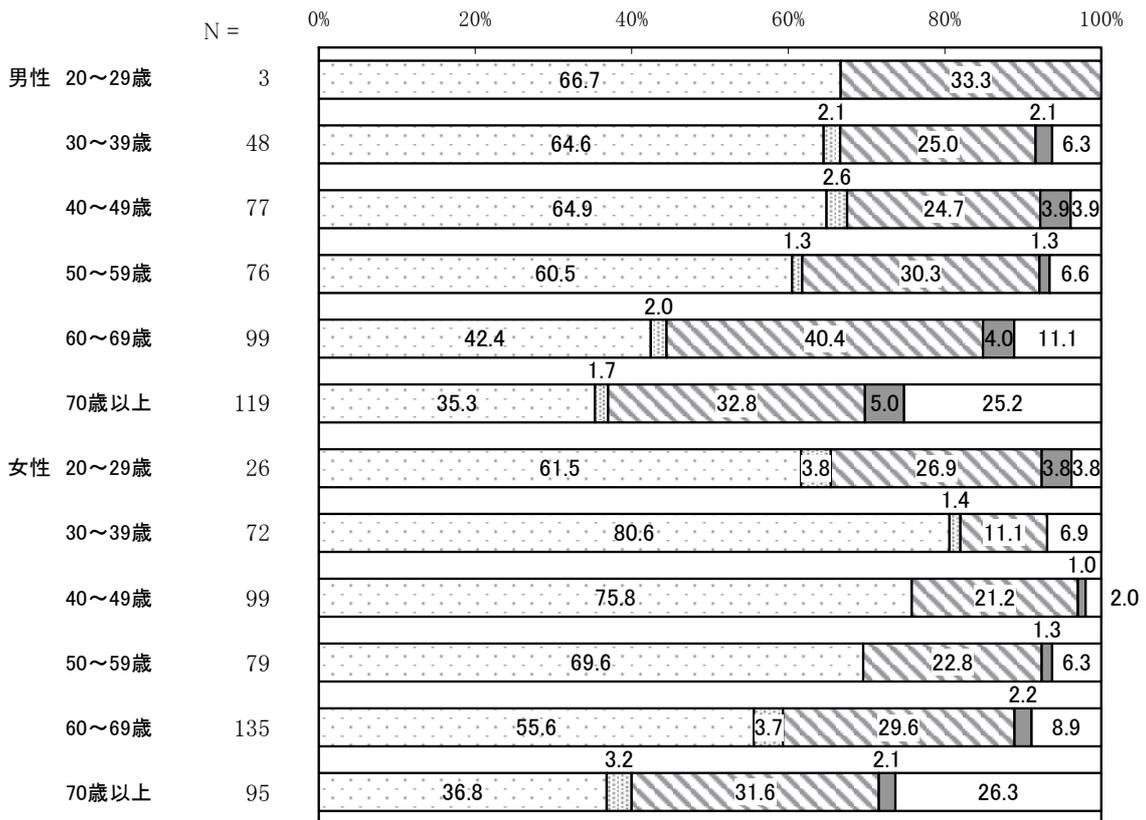
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～49歳、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、60歳以上で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

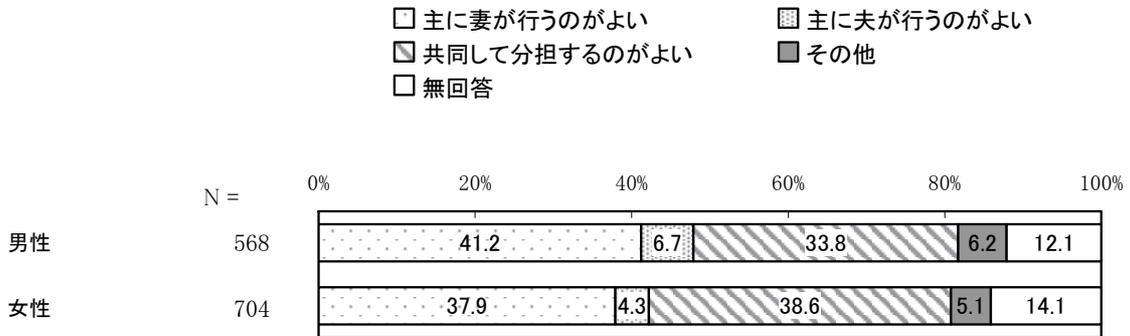


③ 家計の管理

(1) 理想

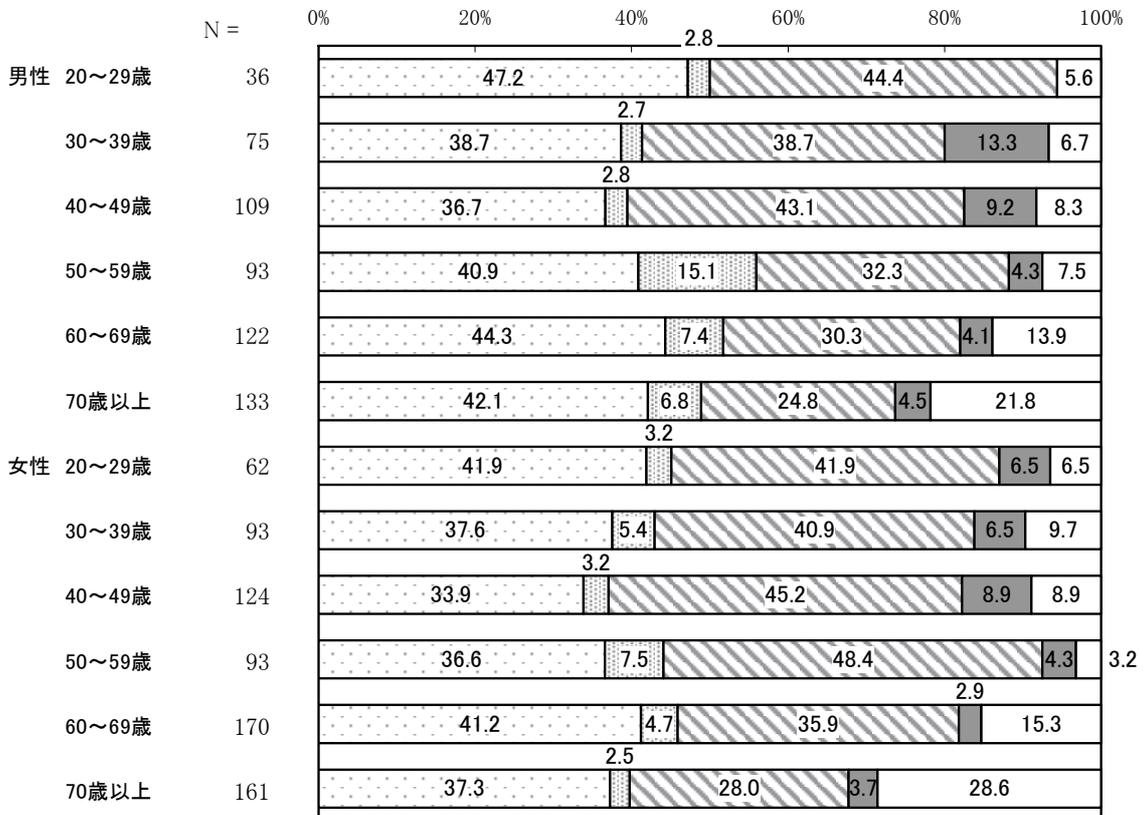
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

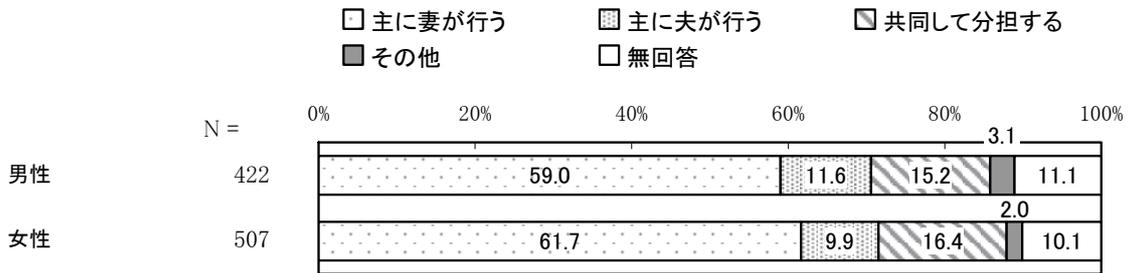
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、60～69歳で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の50～59歳で「主に夫が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～49歳、女性の20～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

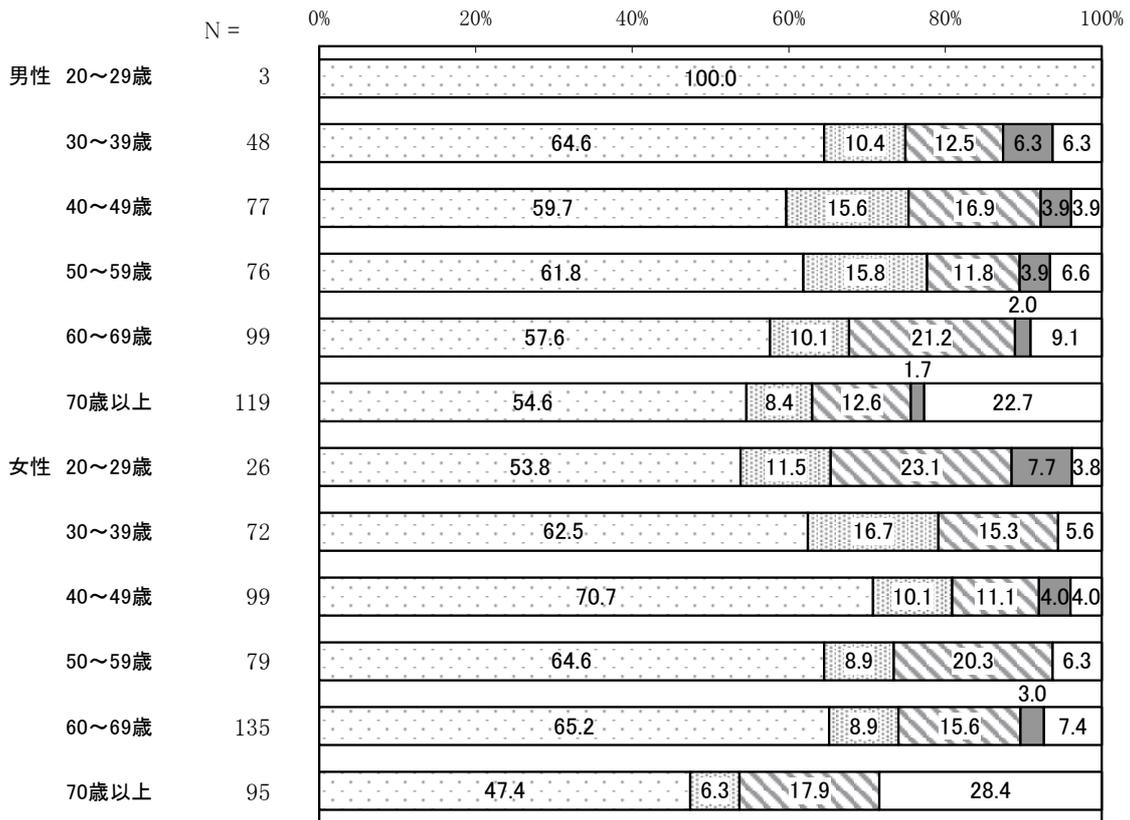
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の40～49歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の30～39歳で「主に夫が行う」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の20～29歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

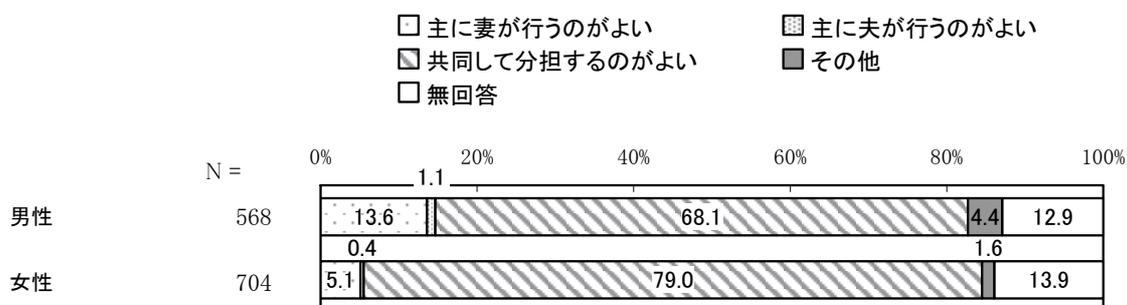


④ 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

（１）理想

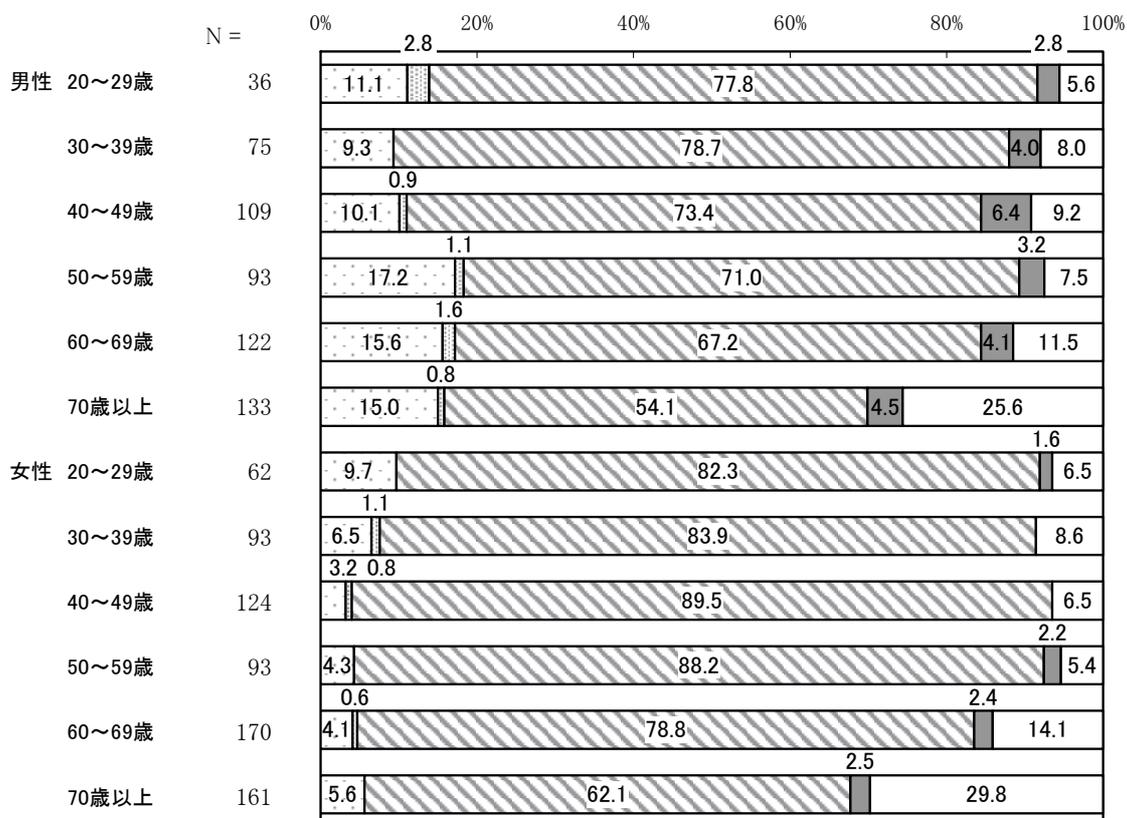
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

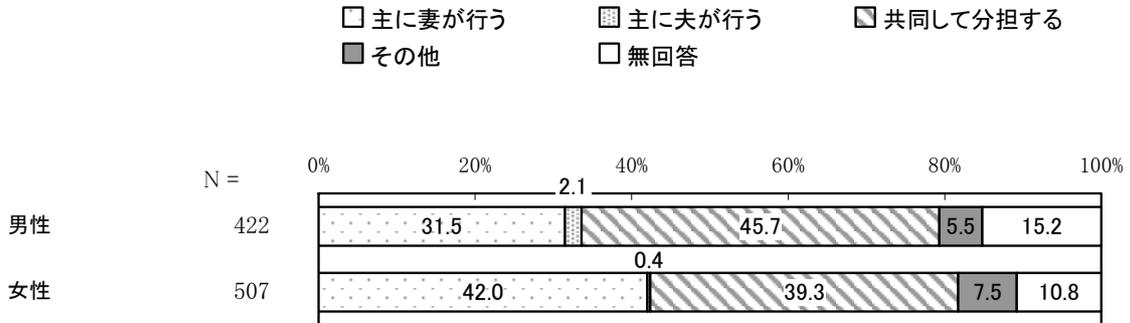
性・年齢別で見ると、男性の50歳以上で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。女性の20～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

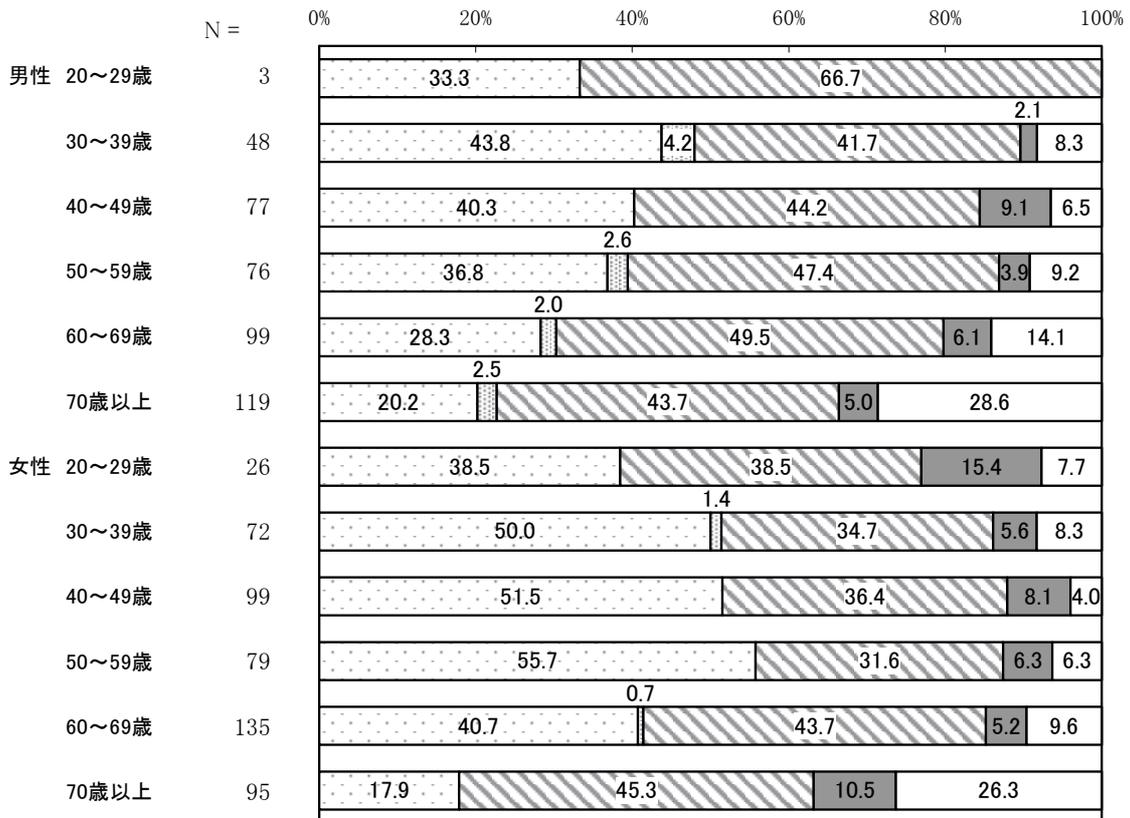
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の30～39歳、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の50～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

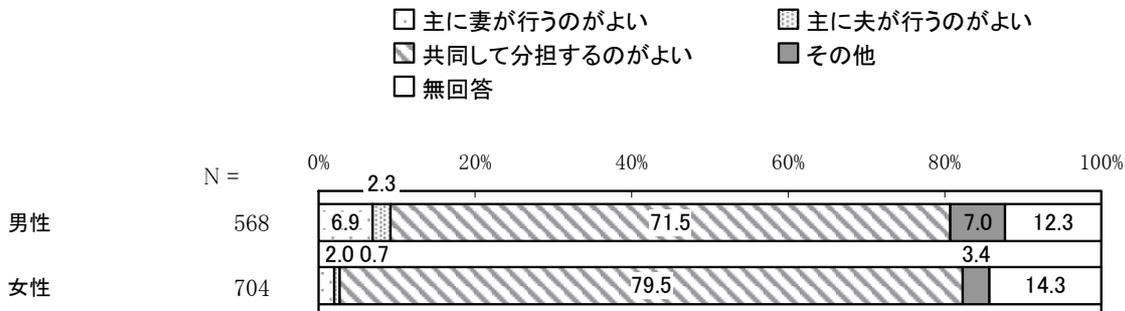


⑤ 親等の介護

(1) 理想

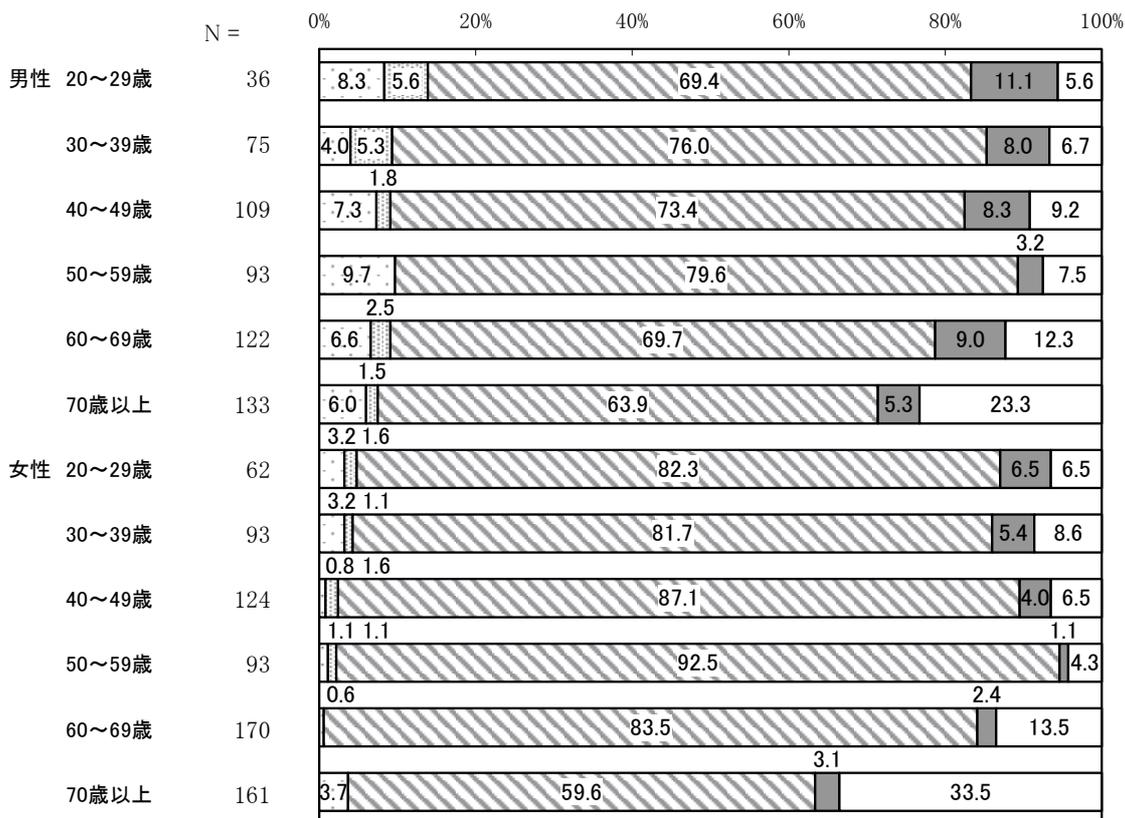
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

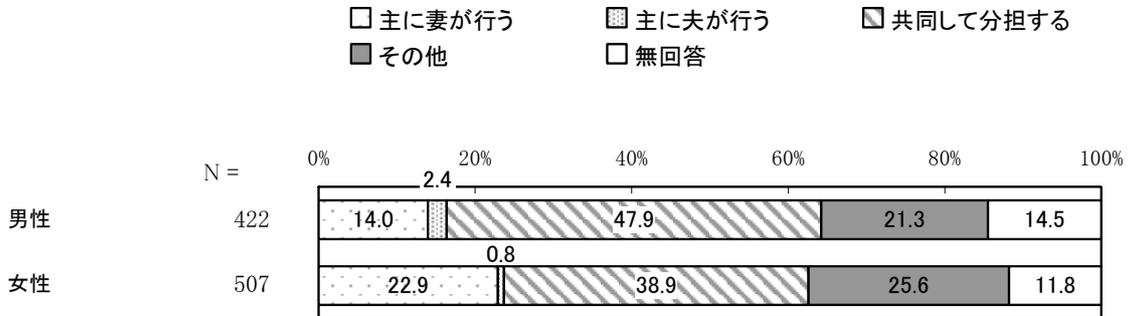
性・年齢別で見ると、男性の 50～59 歳で「主に妻が行うのがよい」の割合が高くなっています。女性の 20～69 歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

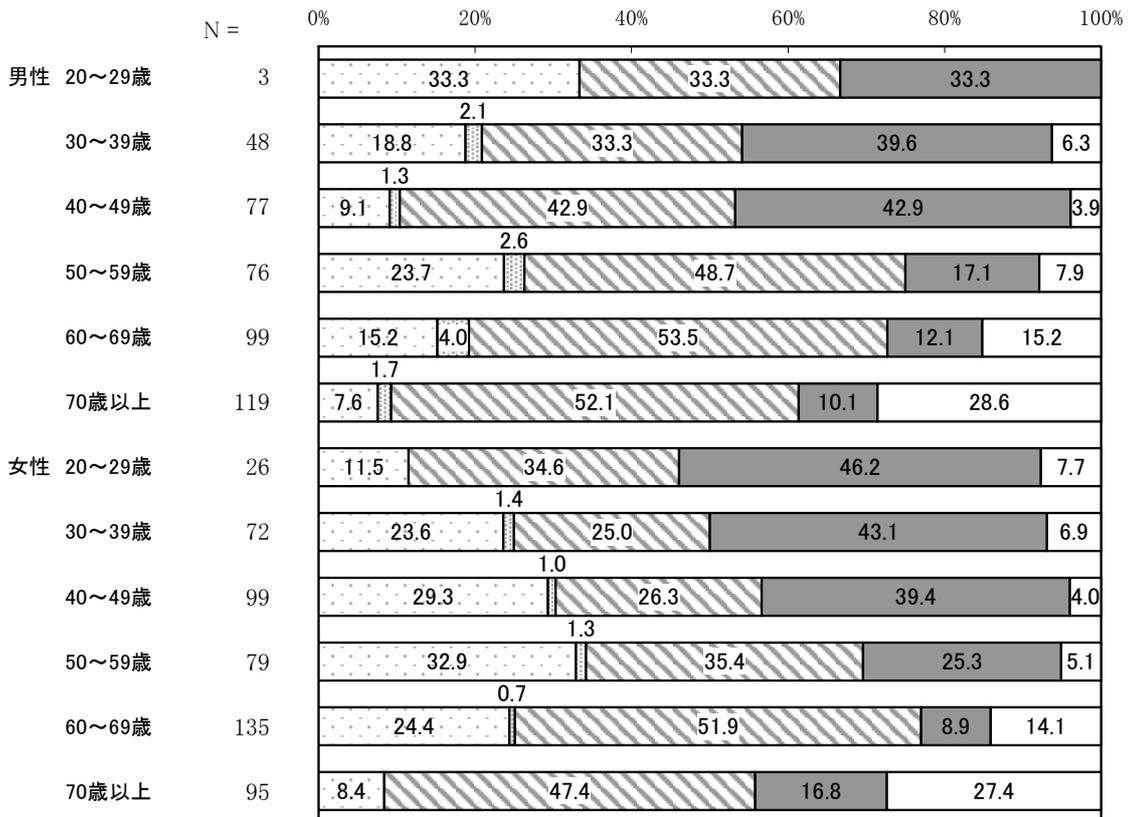
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の50歳以上、女性の60～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

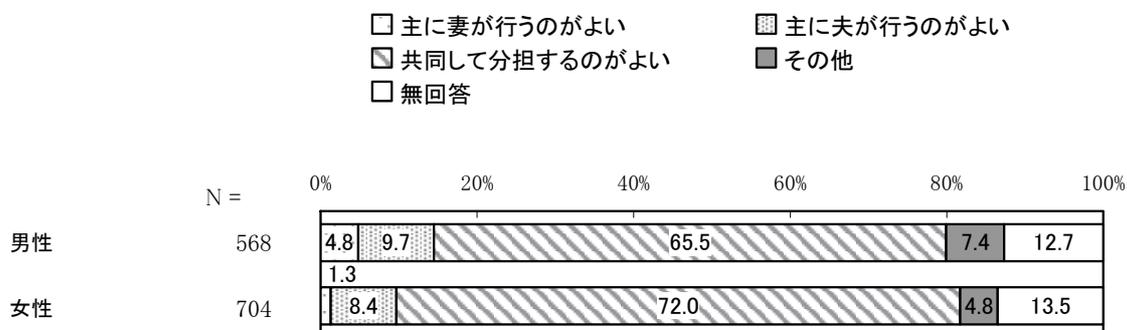


⑥ 地域活動への参加

(1) 理想

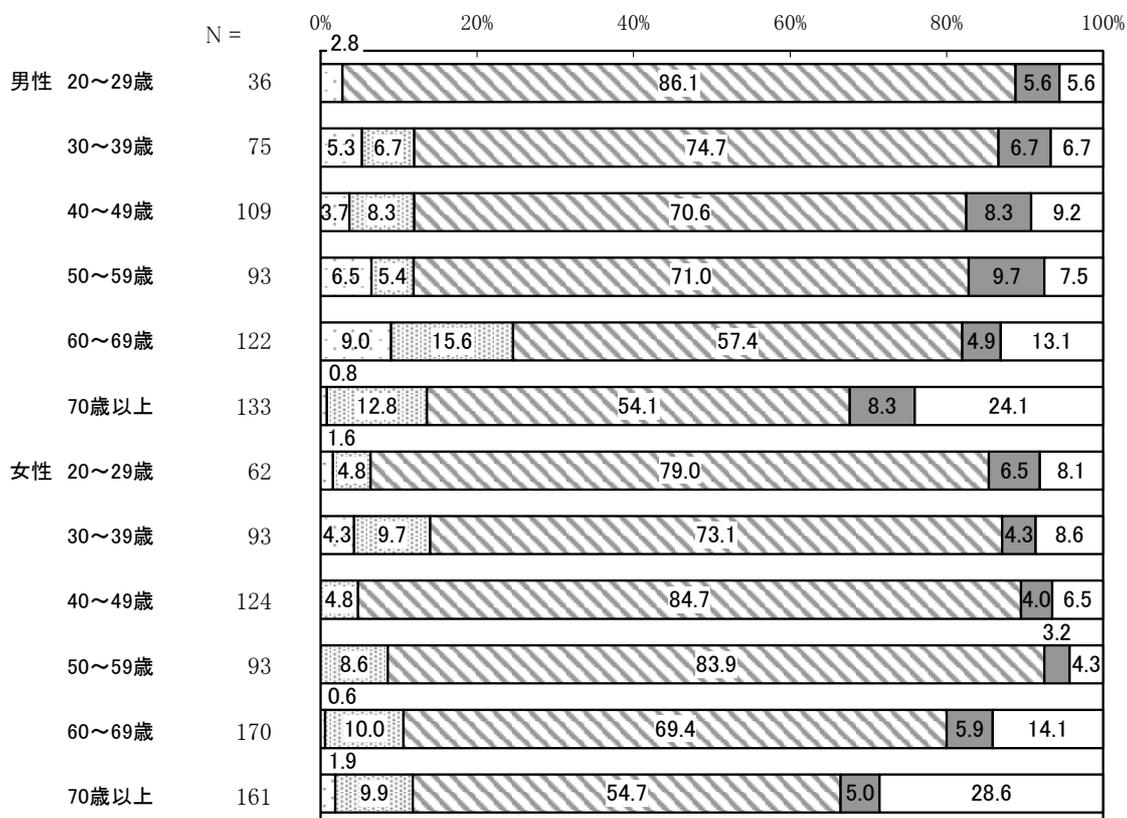
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

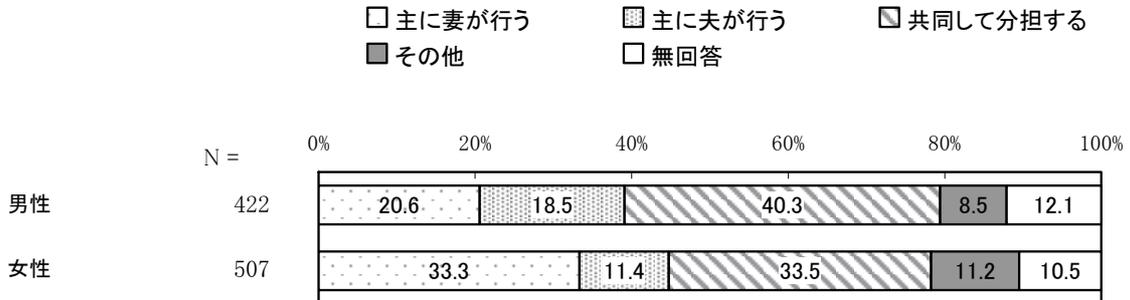
性・年齢別で見ると、男性の60～69歳で「主に妻が行うのがよい」「主に夫が行うのがよい」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の40～59歳で「共同して分担するのがよい」の割合が高くなっています。



(2) 現状

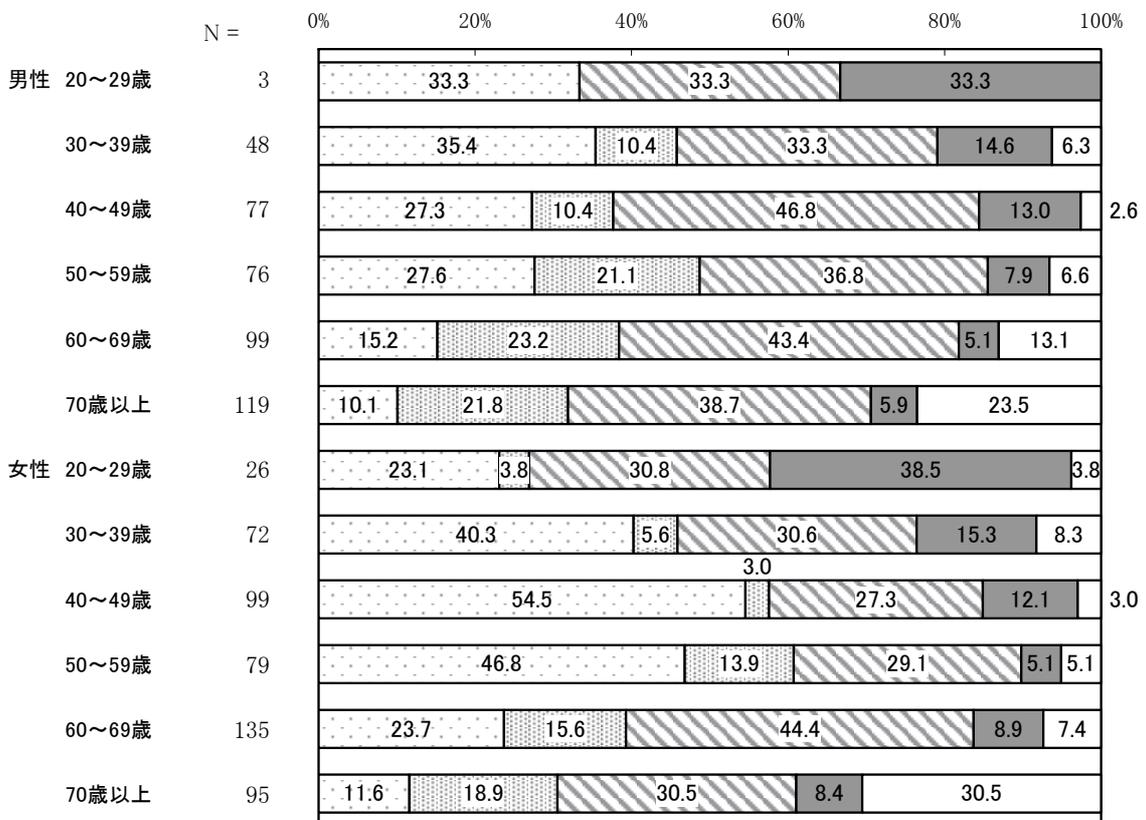
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「主に夫が行う」「共同して分担する」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の30～59歳で「主に妻が行う」の割合が高くなっています。男性の50歳以上で「主に夫が行う」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳、女性の60～69歳で「共同して分担する」の割合が高くなっています。

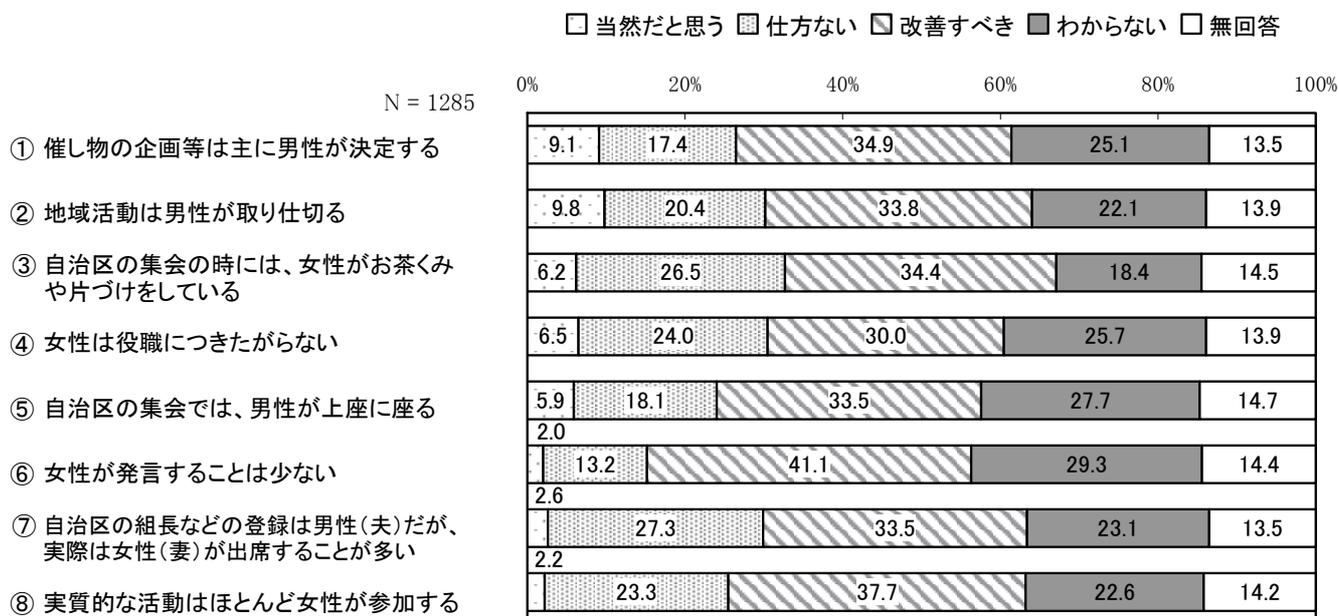


(3) 地域活動について

問5. あなたが参加している地域活動における男女の役割分担についてどう感じていますか。(○印①~⑧の項目ごとに1つずつ)

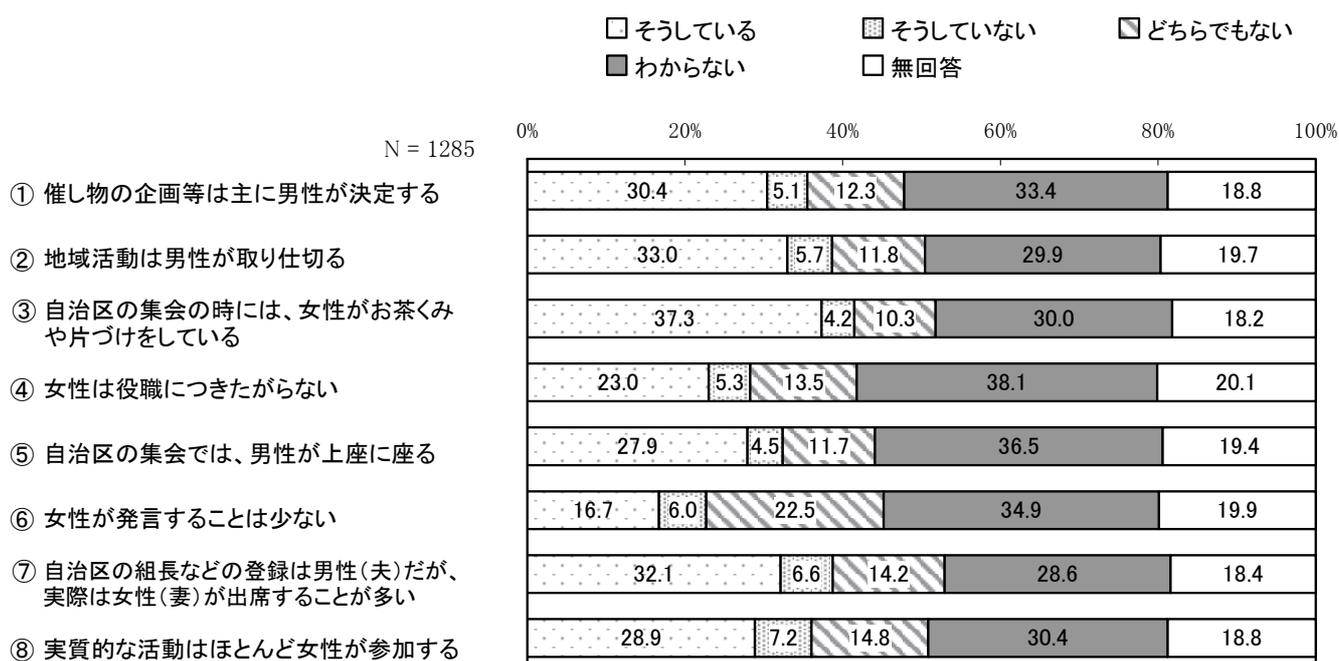
(1) 意識

すべての項目で「改善すべき」の割合が最も高くなっています。



(2) 現状

「そうしている」の割合が、②地域活動は男性が取り仕切るで33.0%、③自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしているで37.3%、⑦自治区の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多いで32.1%となっています。

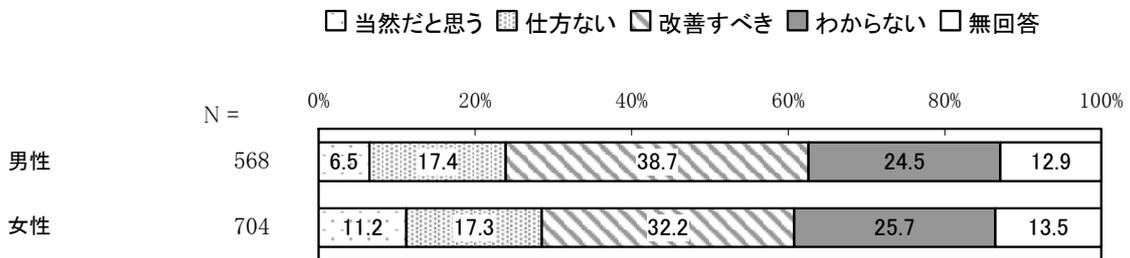


① 催し物の企画等は主に男性が決定する

(1) 意識

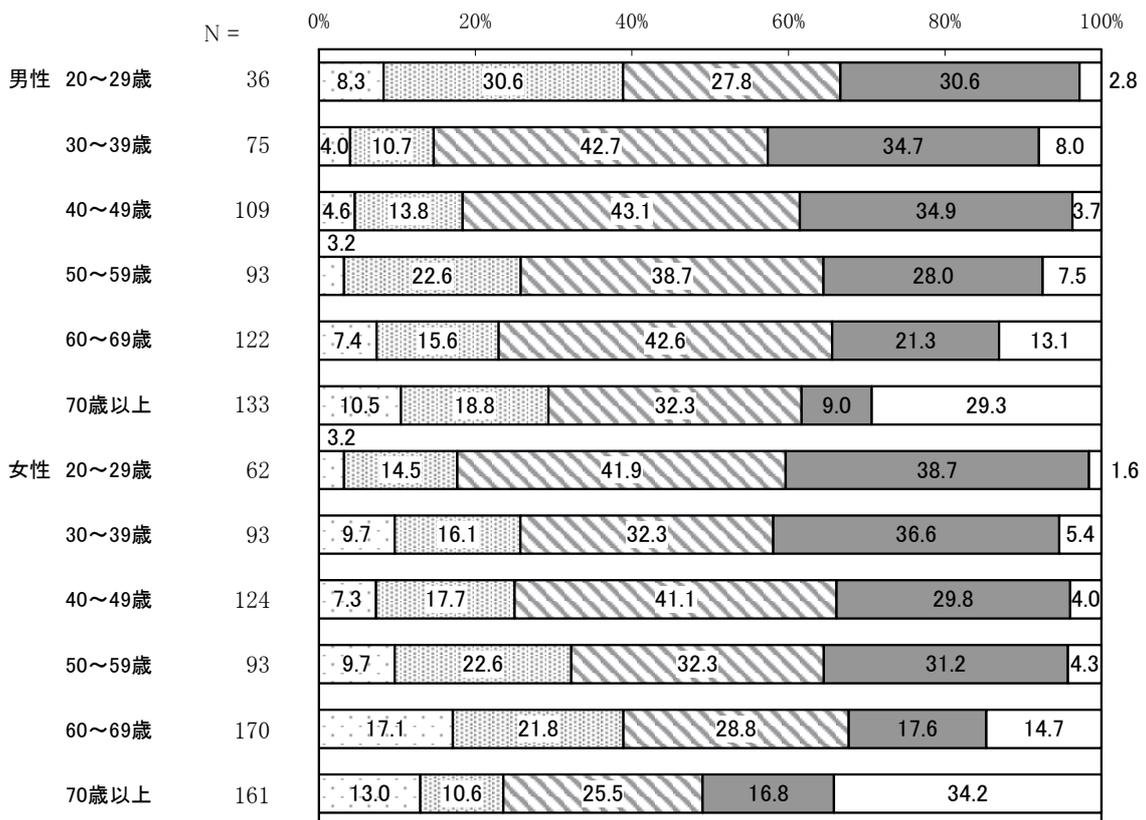
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

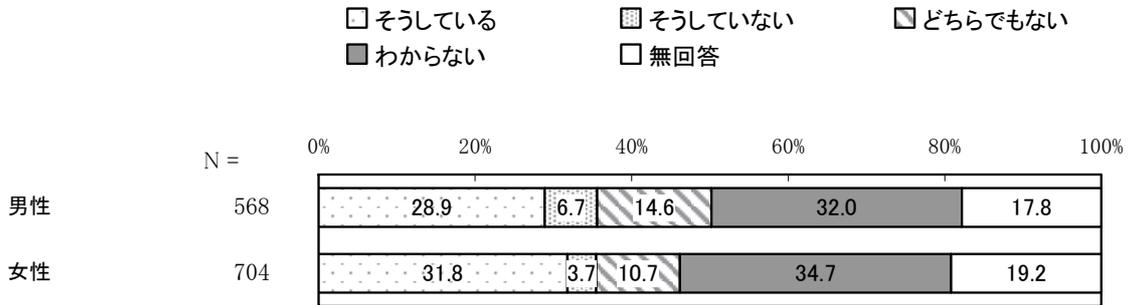
性・年齢別でみると、女性の60～69歳で「当然だと思う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、50～59歳、女性の50～59歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、60～69歳、女性の20～29歳、40～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

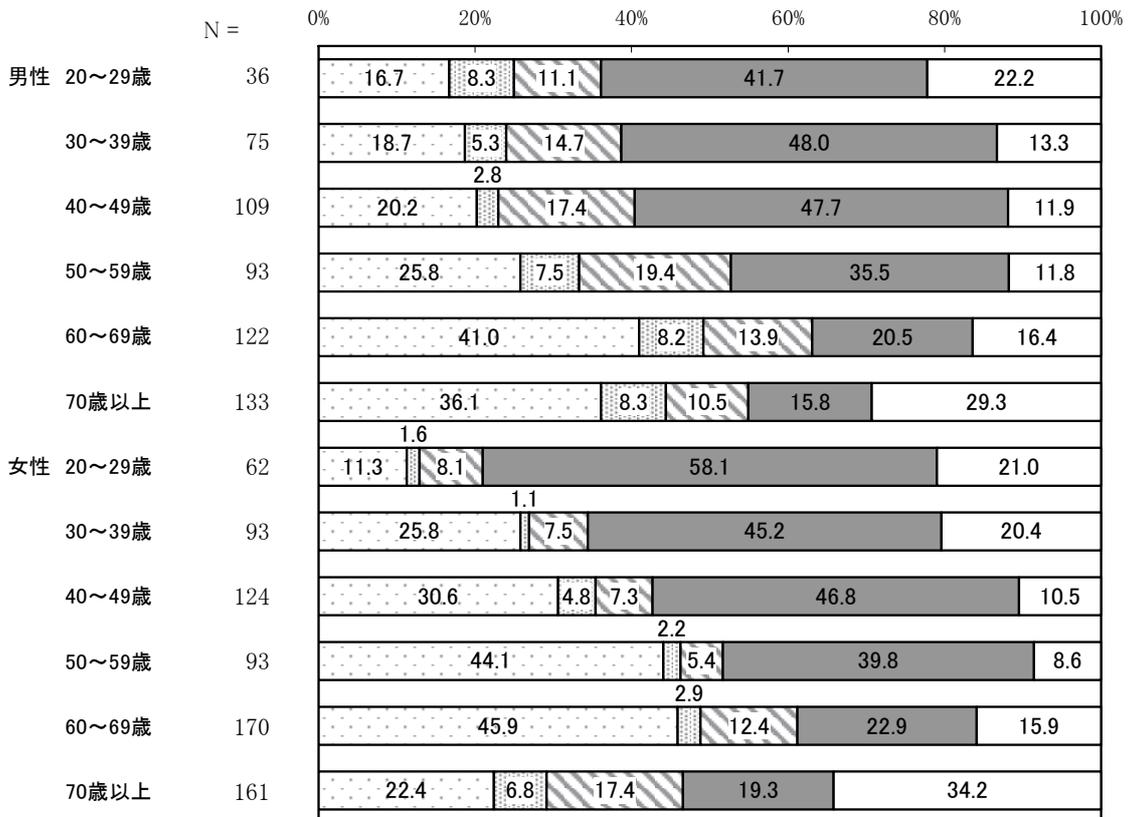
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の60歳以上、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の70歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

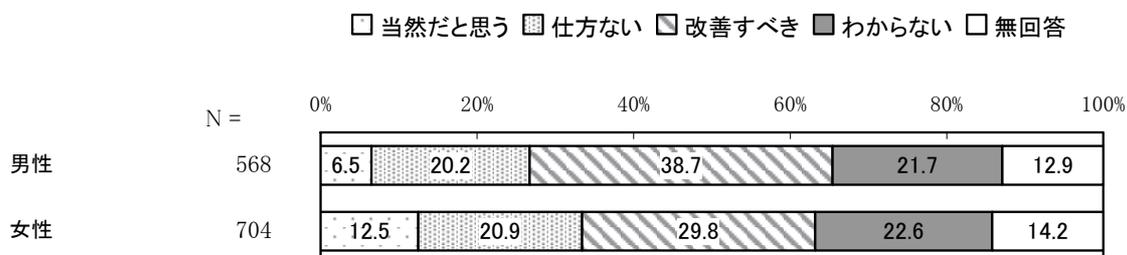


② 地域活動は男性が取り仕切る

(1) 意識

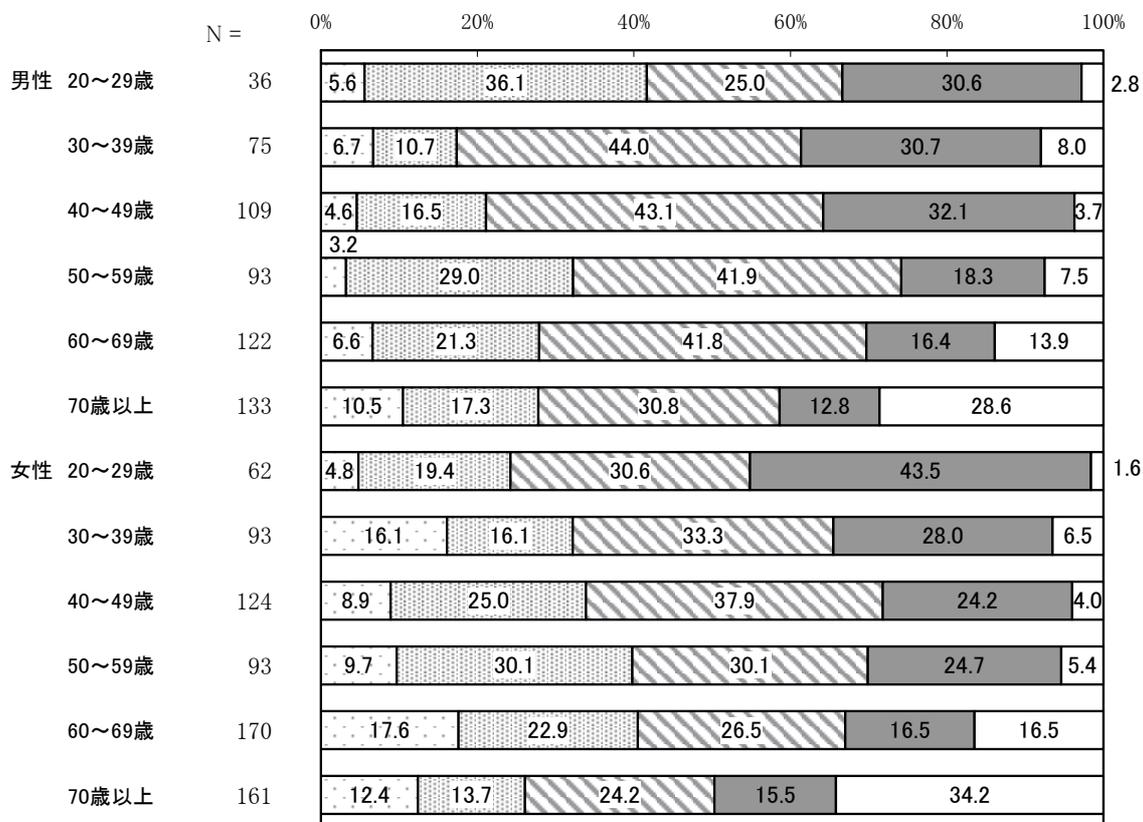
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「当然だと思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

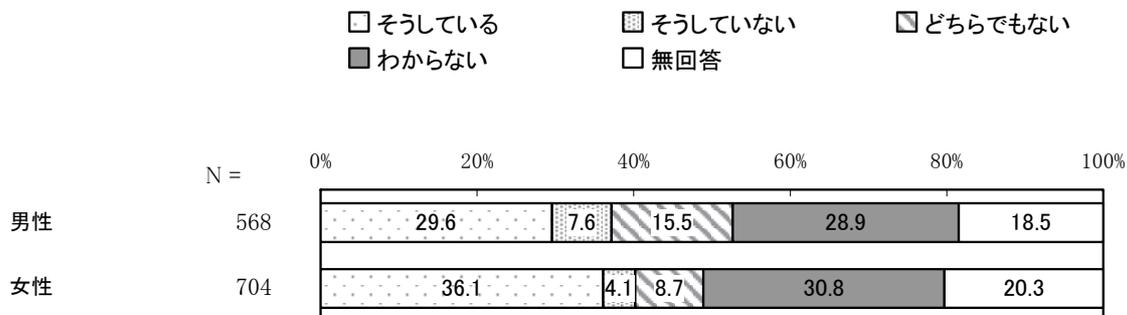
性・年齢別で見ると、女性の30～39歳、60～69歳で「当然だと思う」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、50～59歳、女性の50～59歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の30～69歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

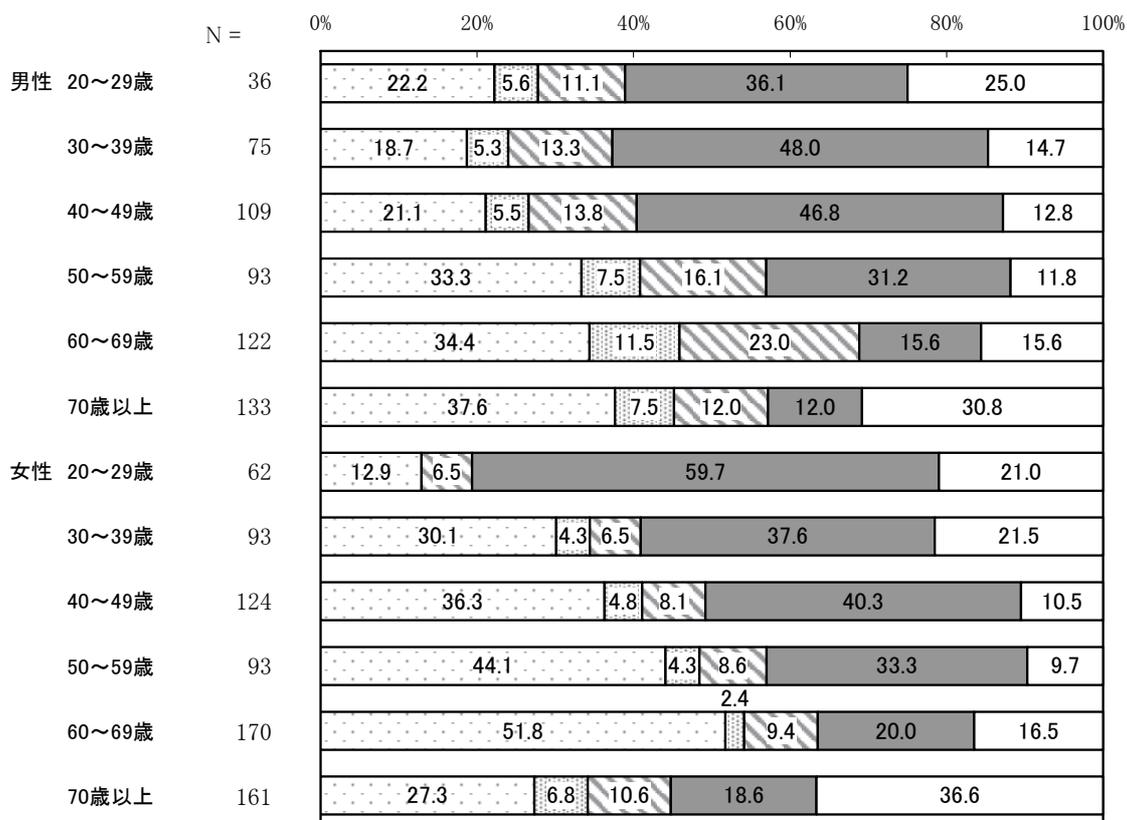
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の 50～69 歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の 60～69 歳で「そうしていない」「どちらでもない」の割合が高くなっています。

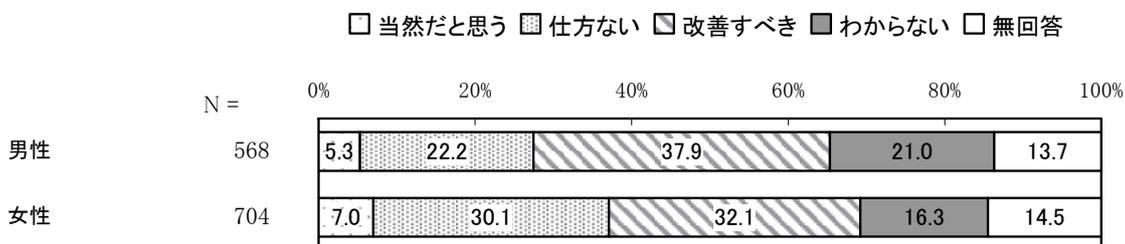


③ 自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている

(1) 意識

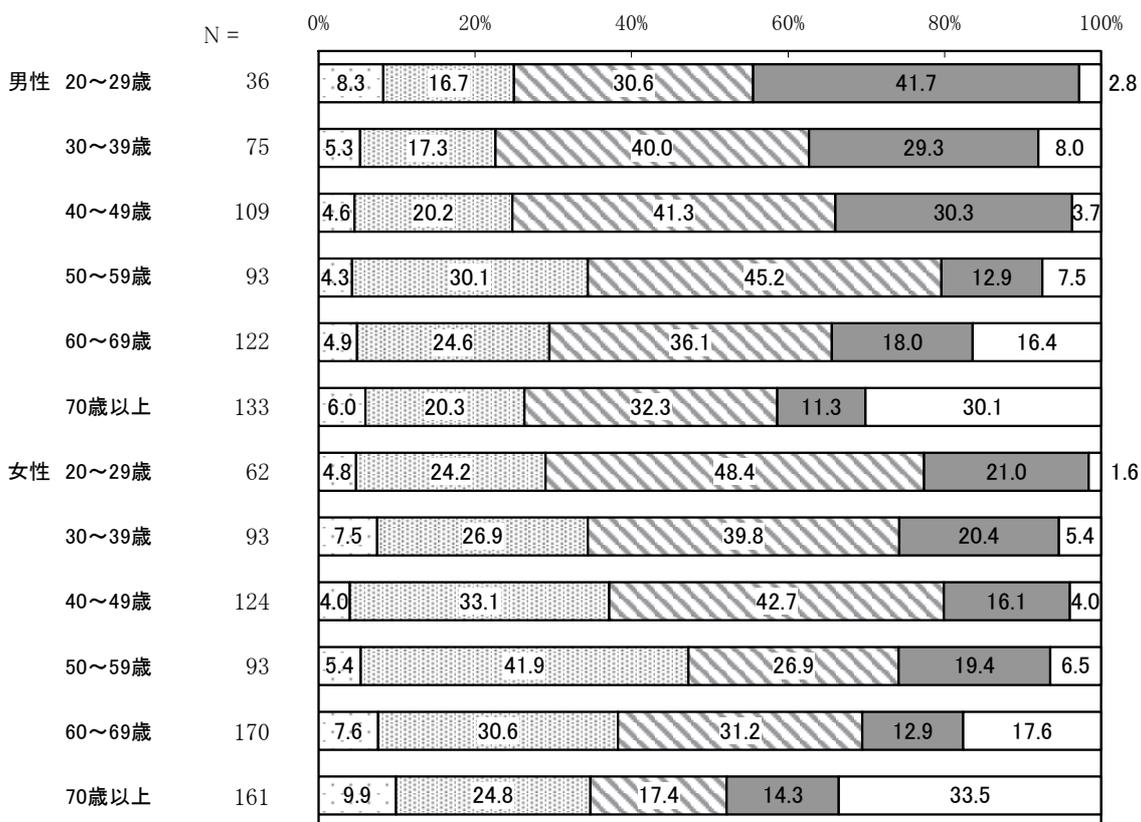
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「仕方ない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

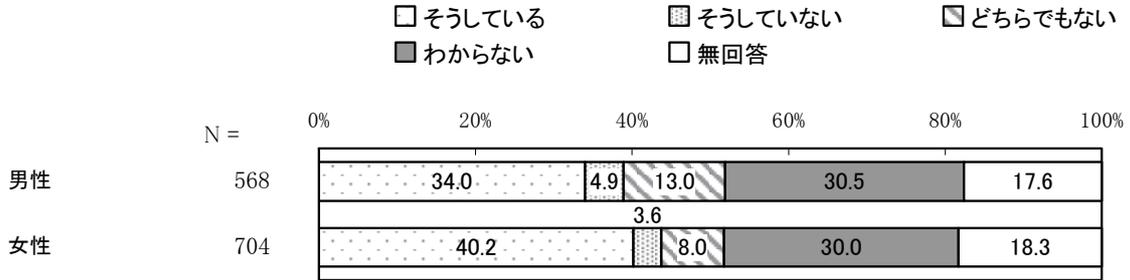
性・年齢別でみると、女性の40～59歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

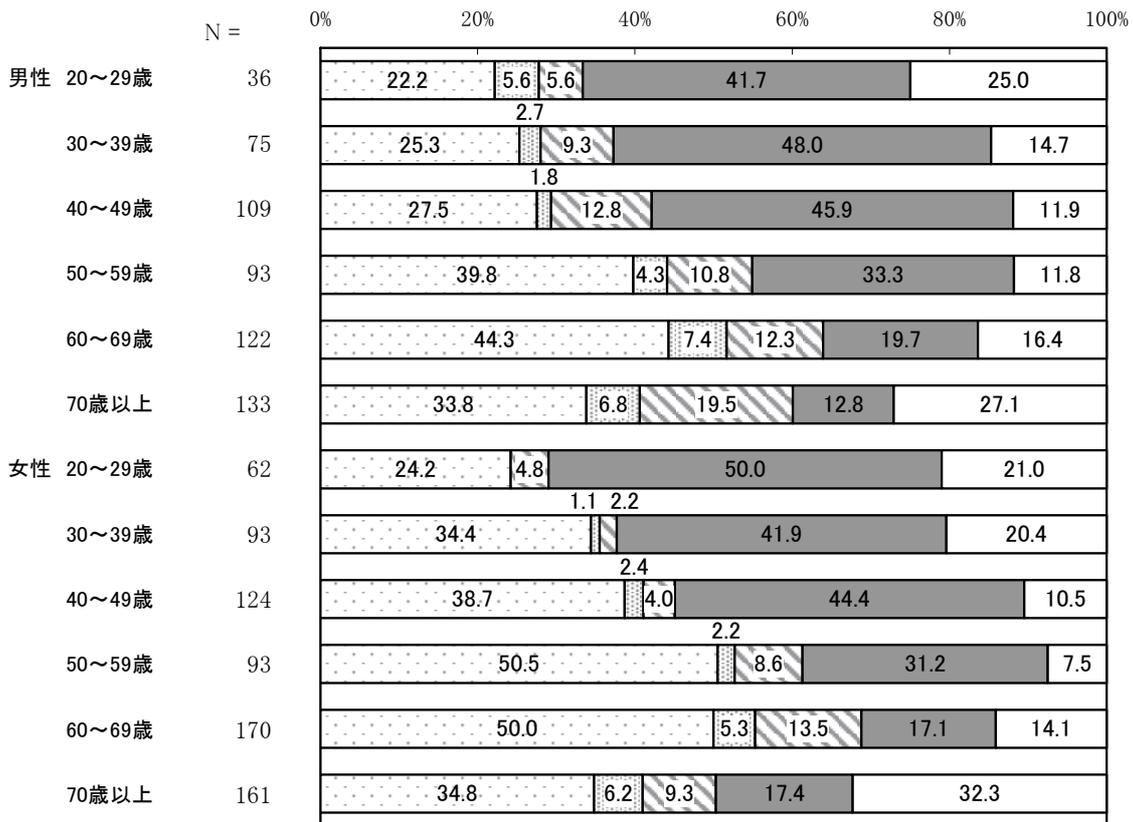
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の60～69歳、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

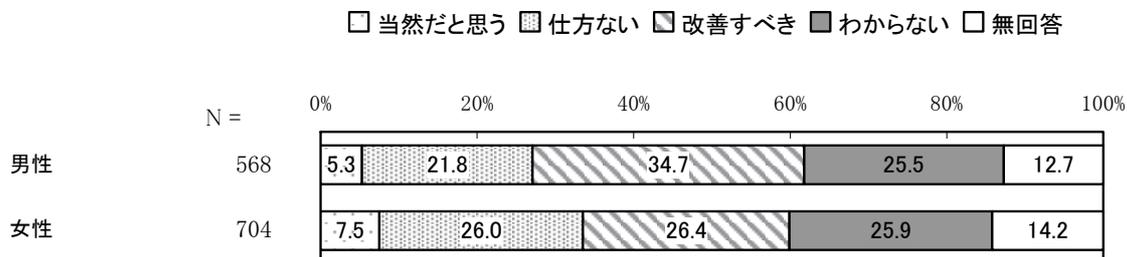


④ 女性は役職につきたがらない

(1) 意識

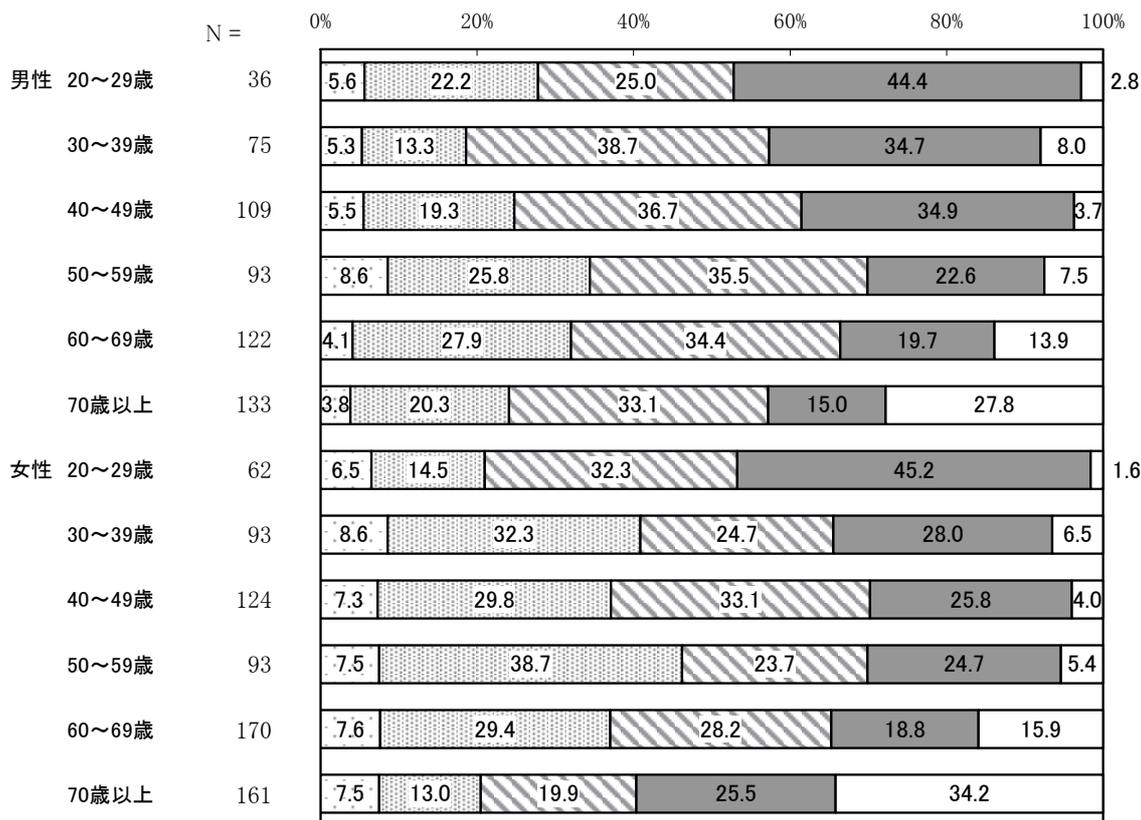
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

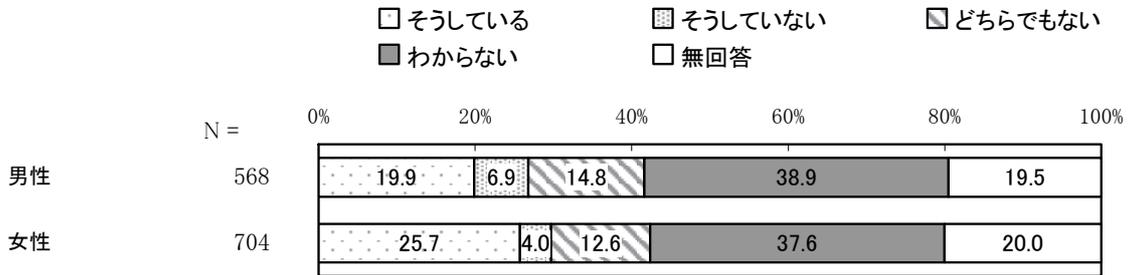
性・年齢別で見ると、女性の30～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の30～59歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

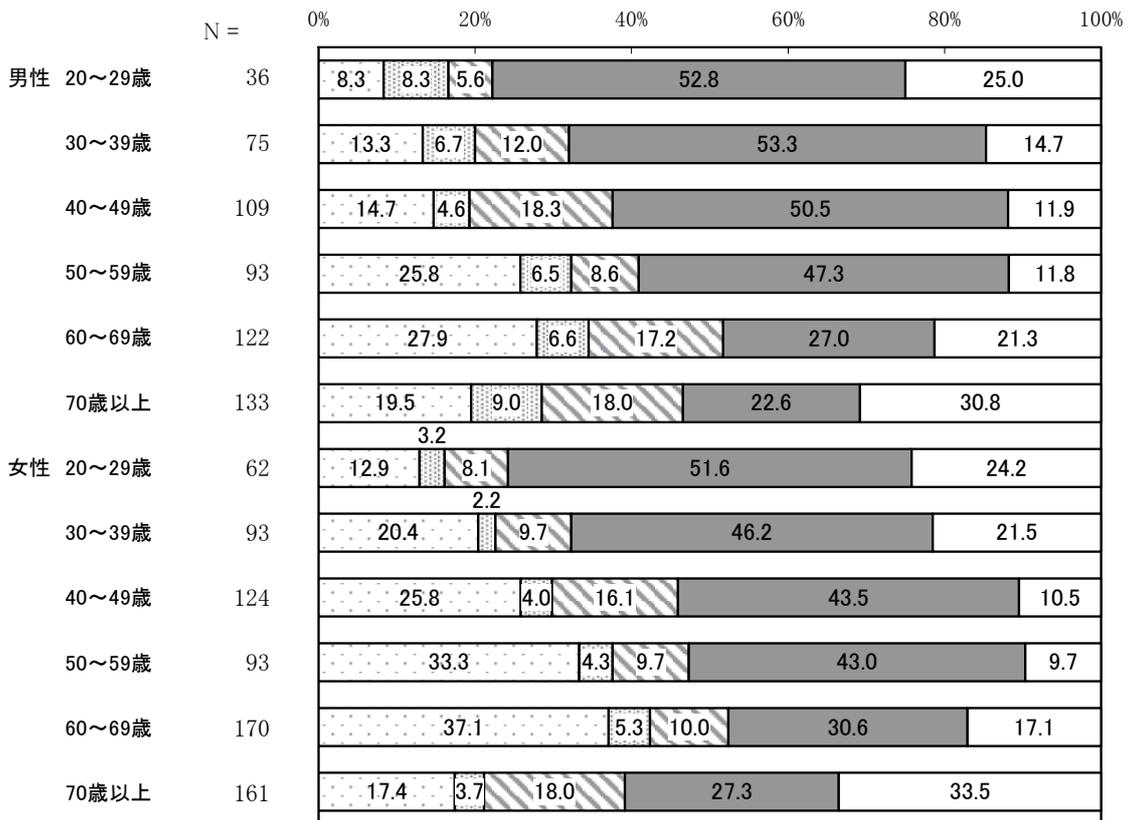
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。

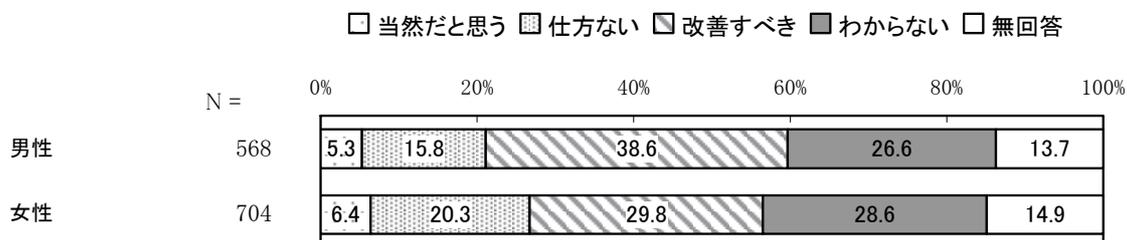


⑤ 自治区の集会では、男性が上座に座る

(1) 意識

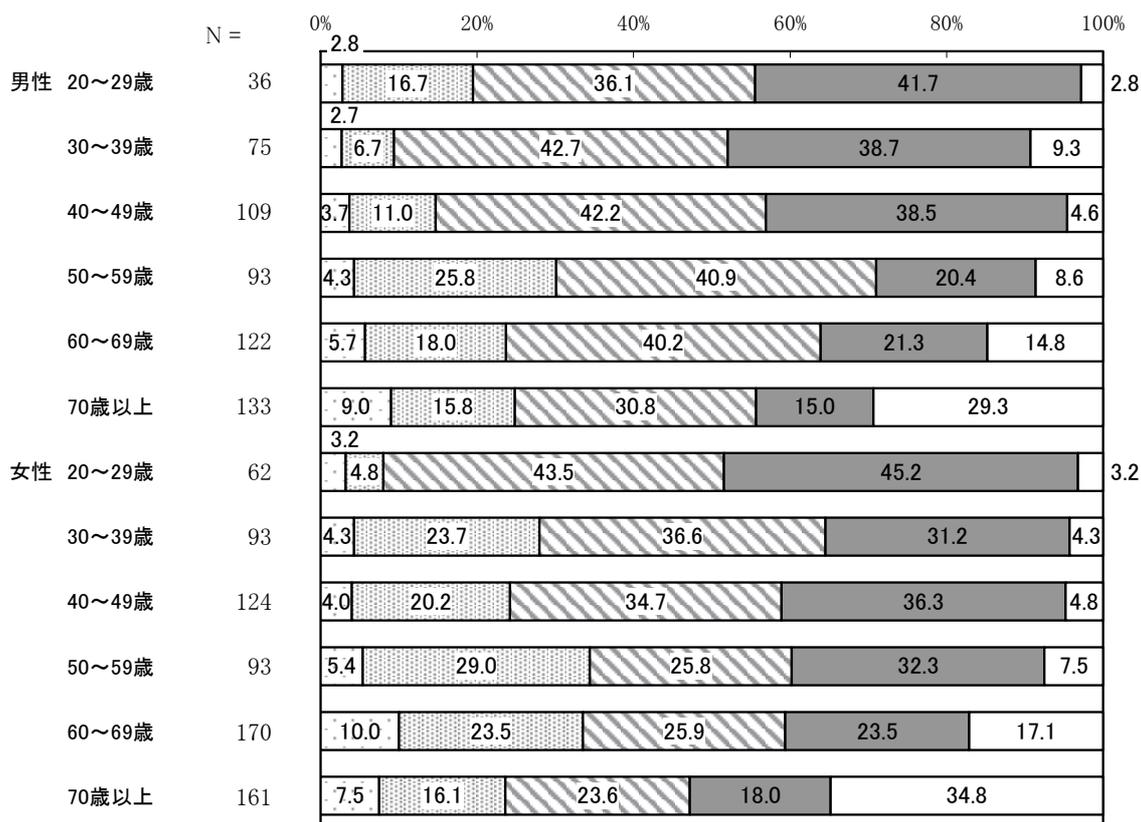
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

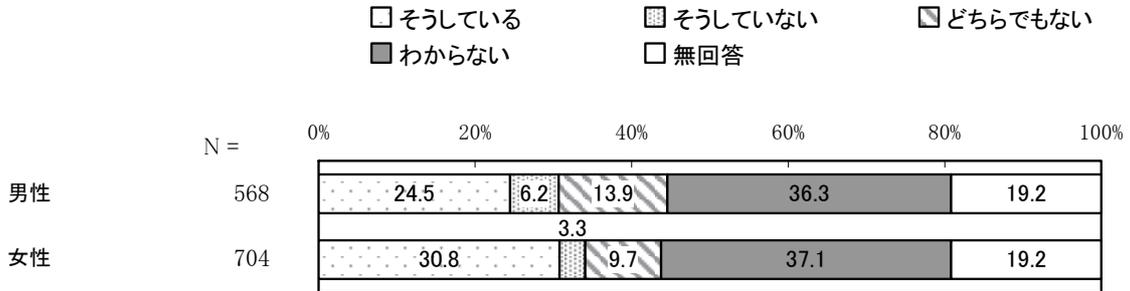
性・年齢別でみると、男性の50～59歳、女性の30～39歳、50～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の30～69歳、女性の20～29歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

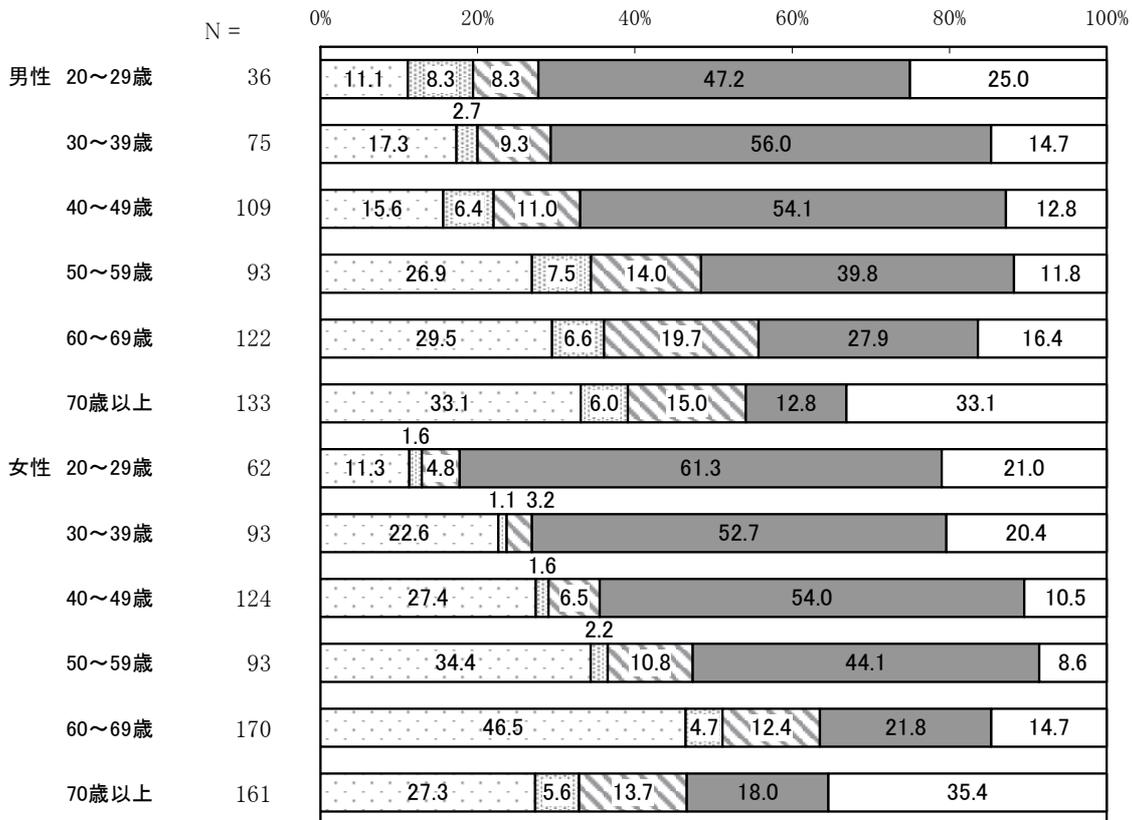
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の70歳以上、女性の50～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

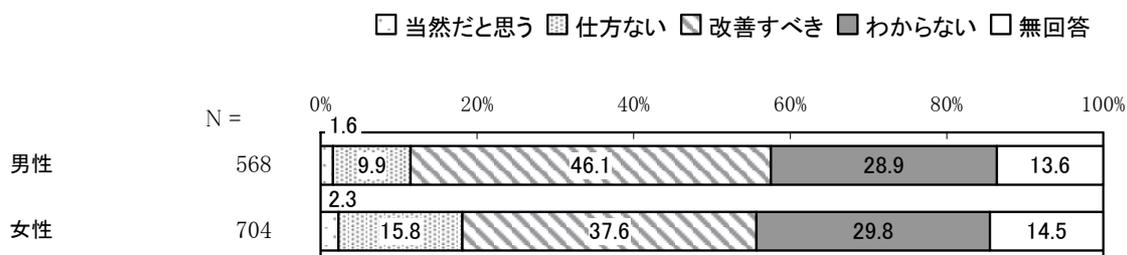


⑥ 女性が発言することは少ない

(1) 意識

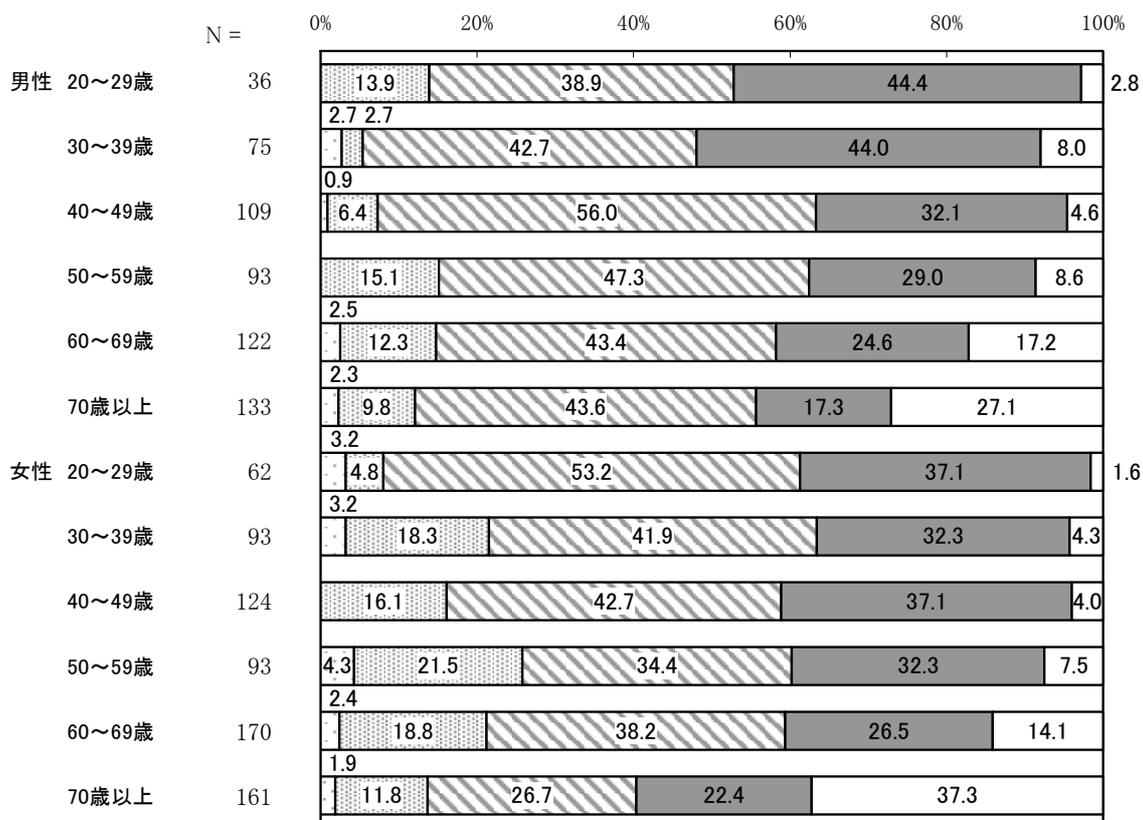
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「仕方ない」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「改善すべき」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

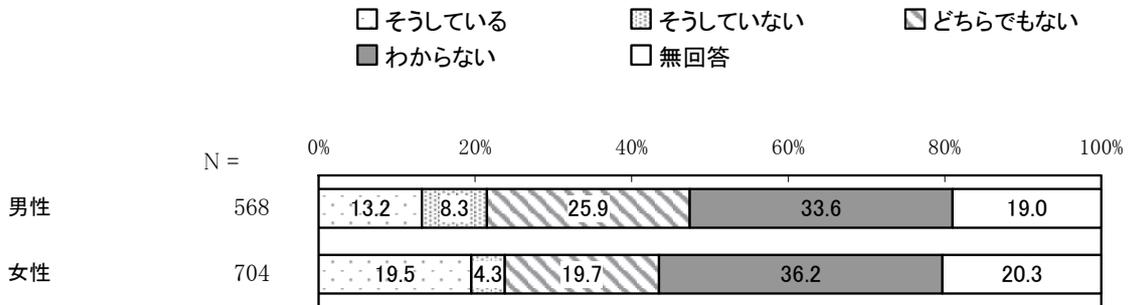
性・年齢別でみると、女性の30～39歳、50～69歳で「仕方ない」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の20～29歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

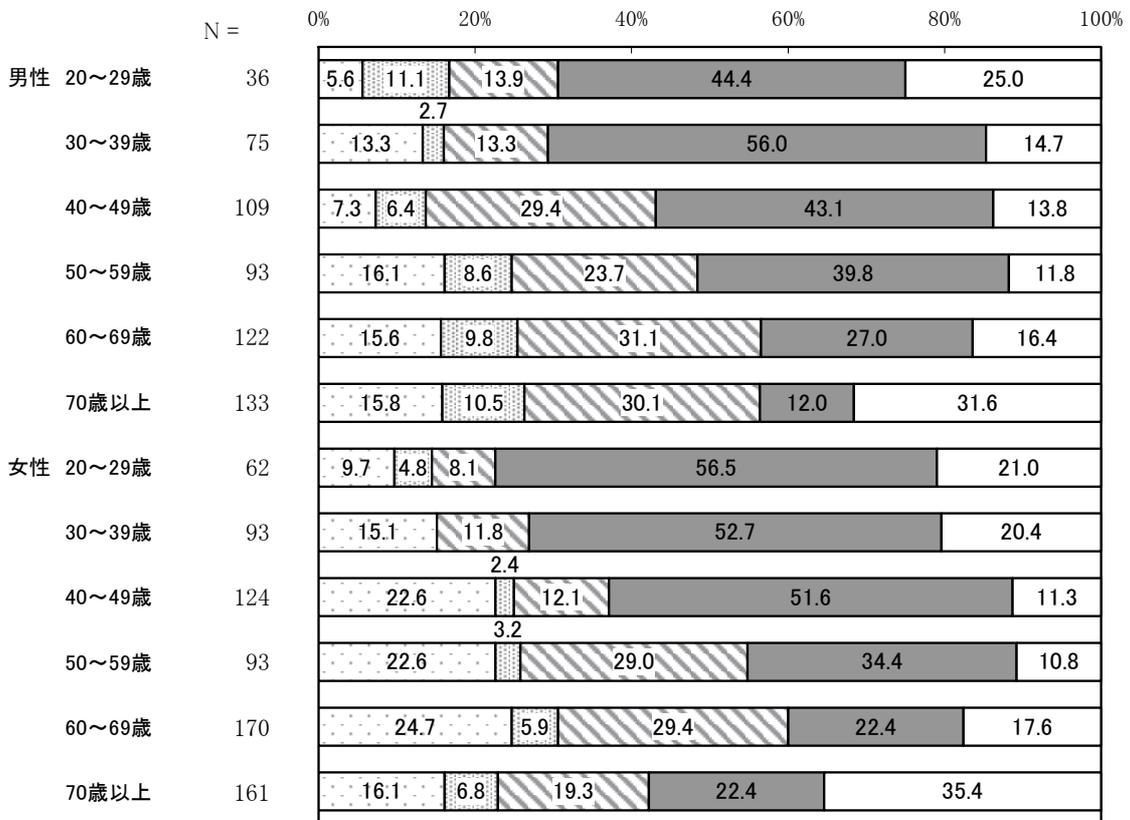
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の40～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「そうしていない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60歳以上、女性の50～69歳で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

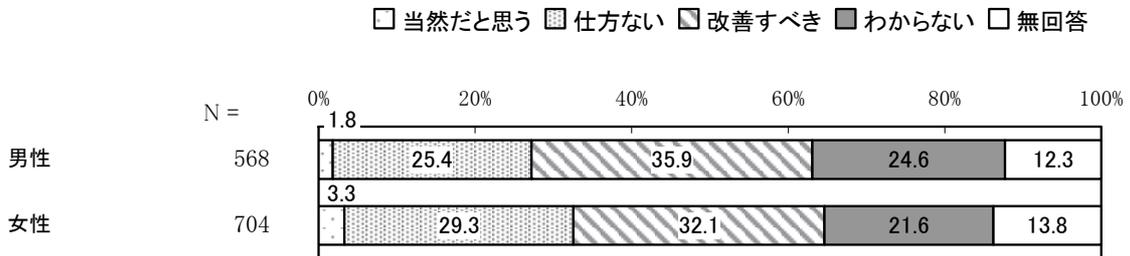


⑦ 自治区の組長などの登録は男性（夫）だが、実際は女性（妻）が出席することが多い

(1) 意識

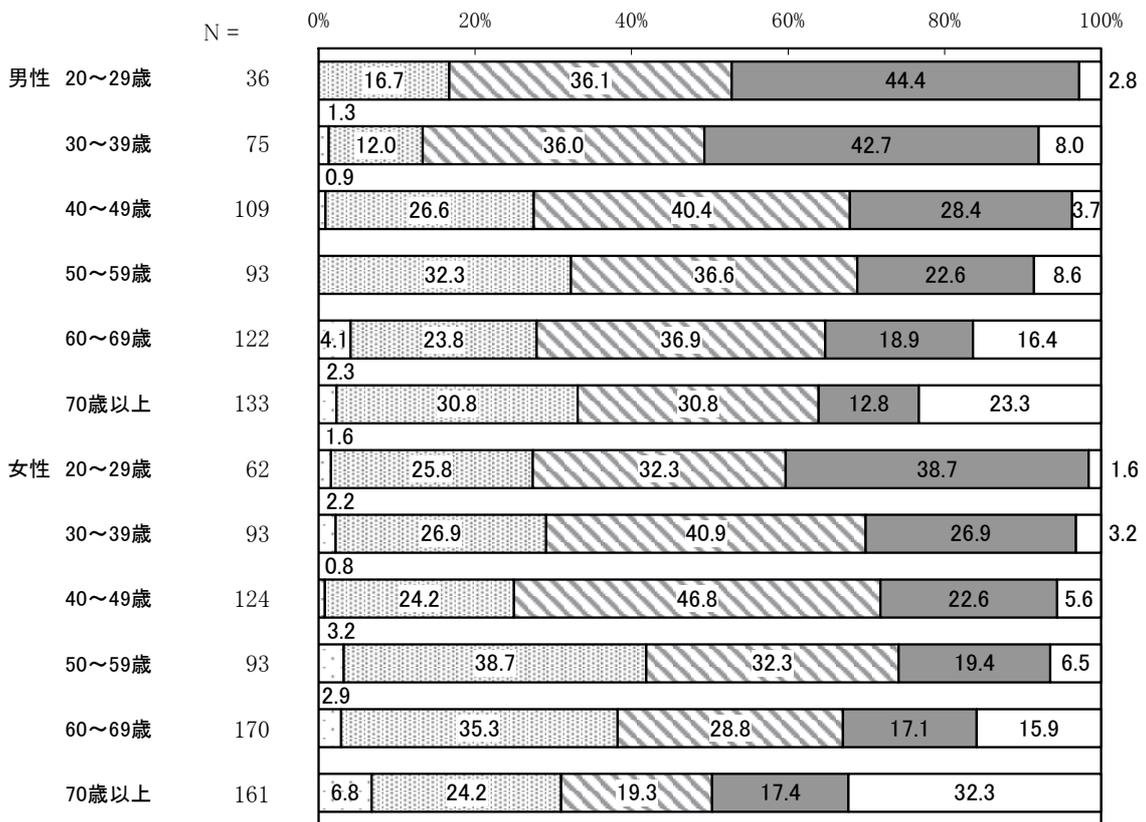
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

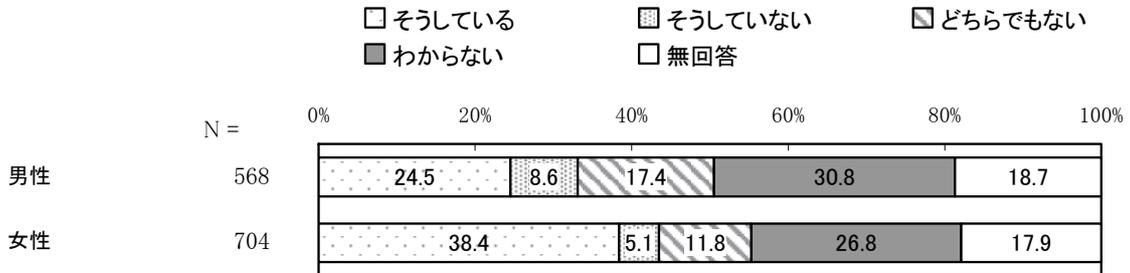
性・年齢別でみると、男性の50～59歳、女性の50～69歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の30～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

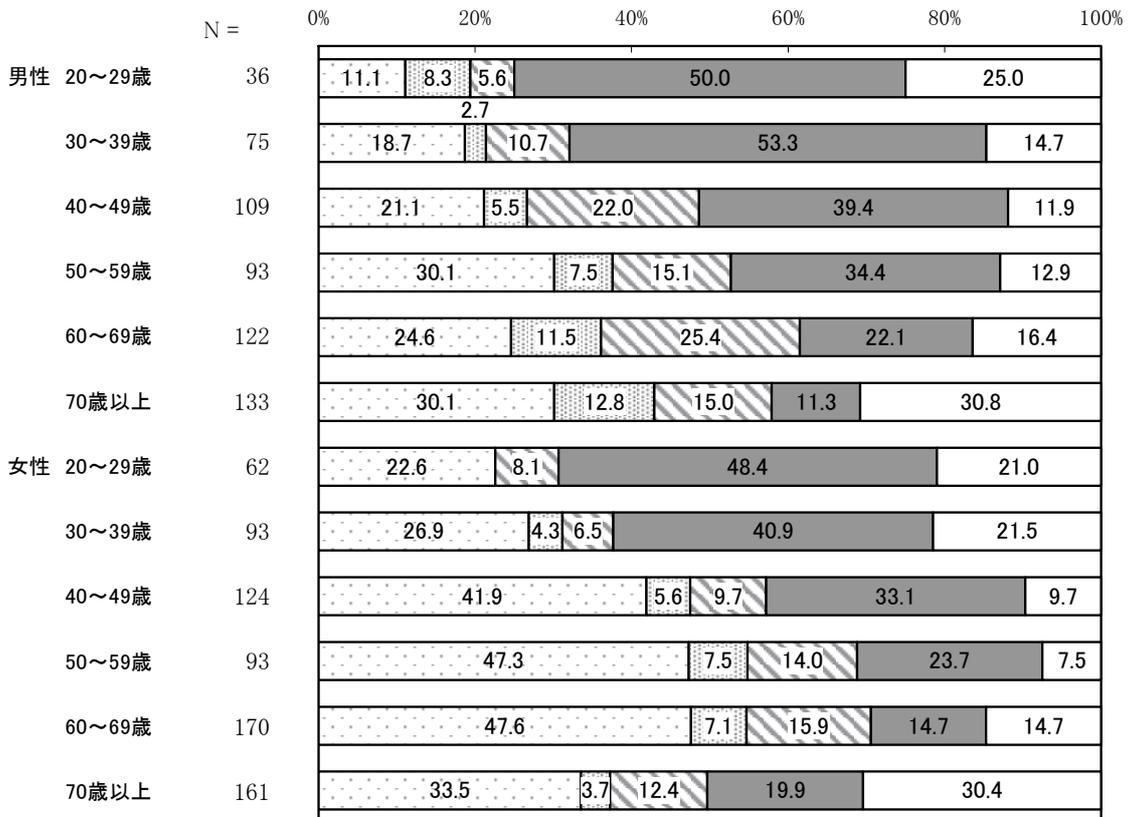
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。また、男性の40～49歳、60～69歳で「どちらでもない」の割合が高くなっています。

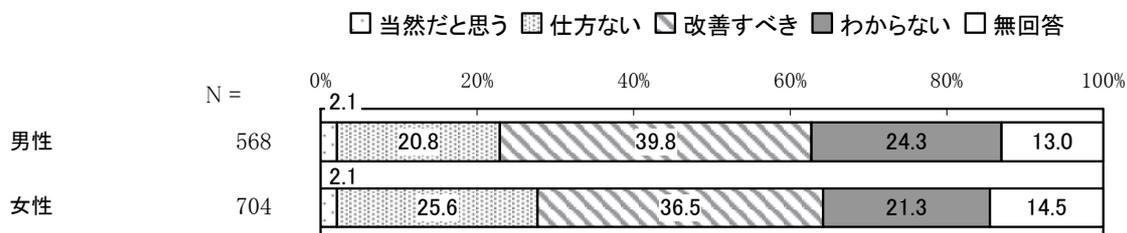


⑧ 実質的な活動はほとんど女性が参加する

(1) 意識

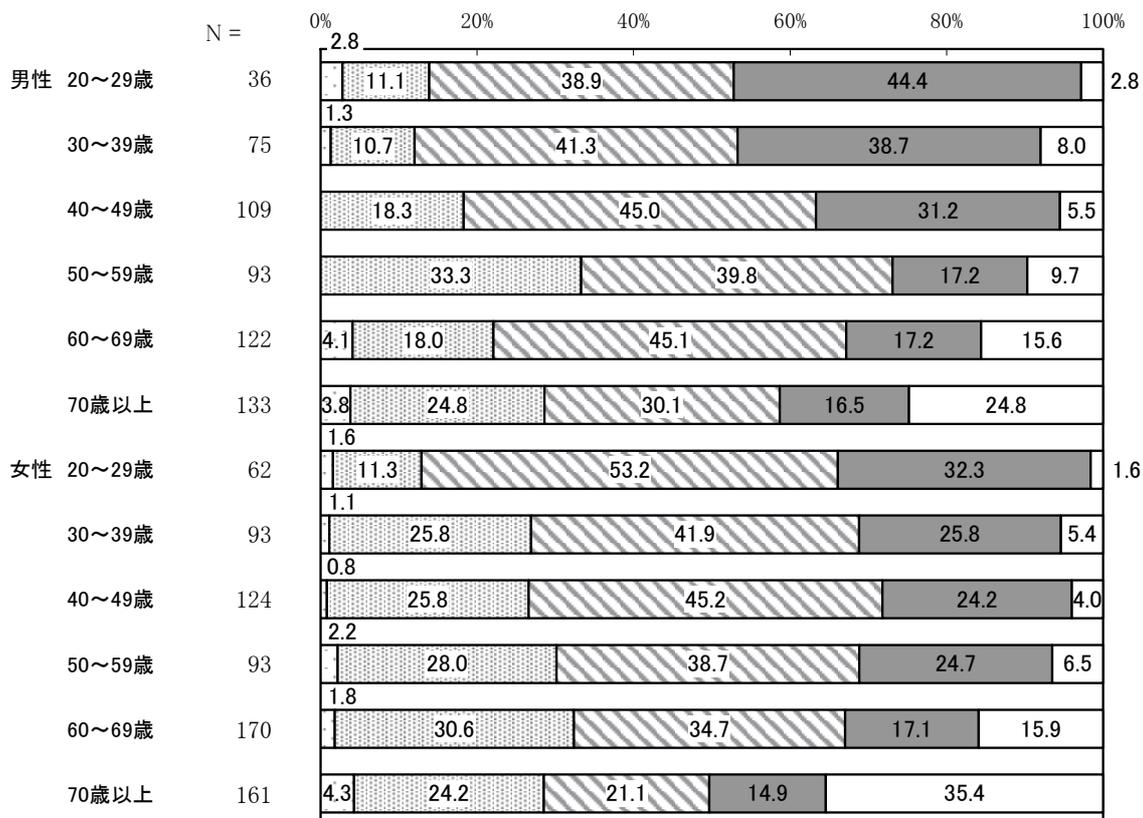
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

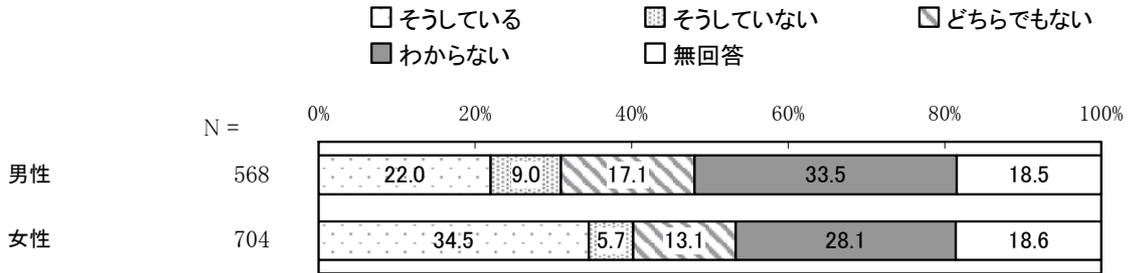
性・年齢別で見ると、男性の50～59歳、女性の60～69歳で「仕方がない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳、女性の20～29歳、40～49歳で「改善すべき」の割合が高くなっています。



(2) 現状

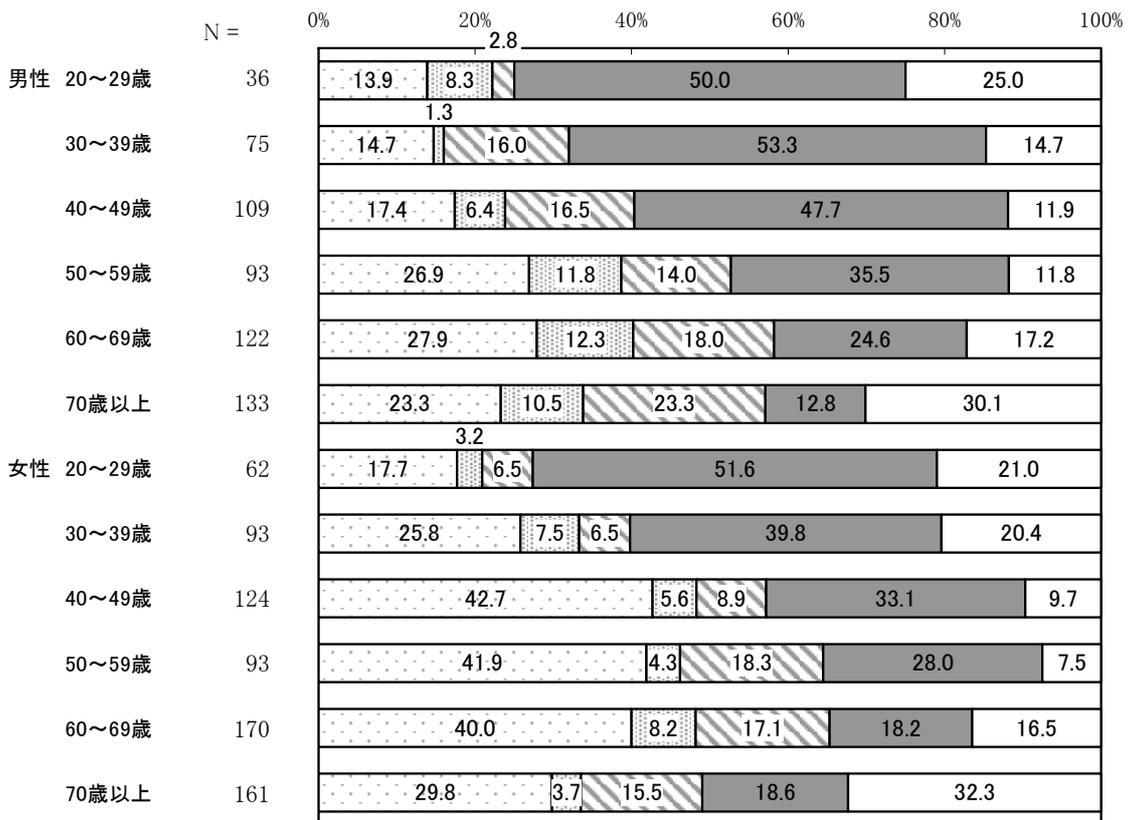
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「そうしている」の割合が高くなっています。



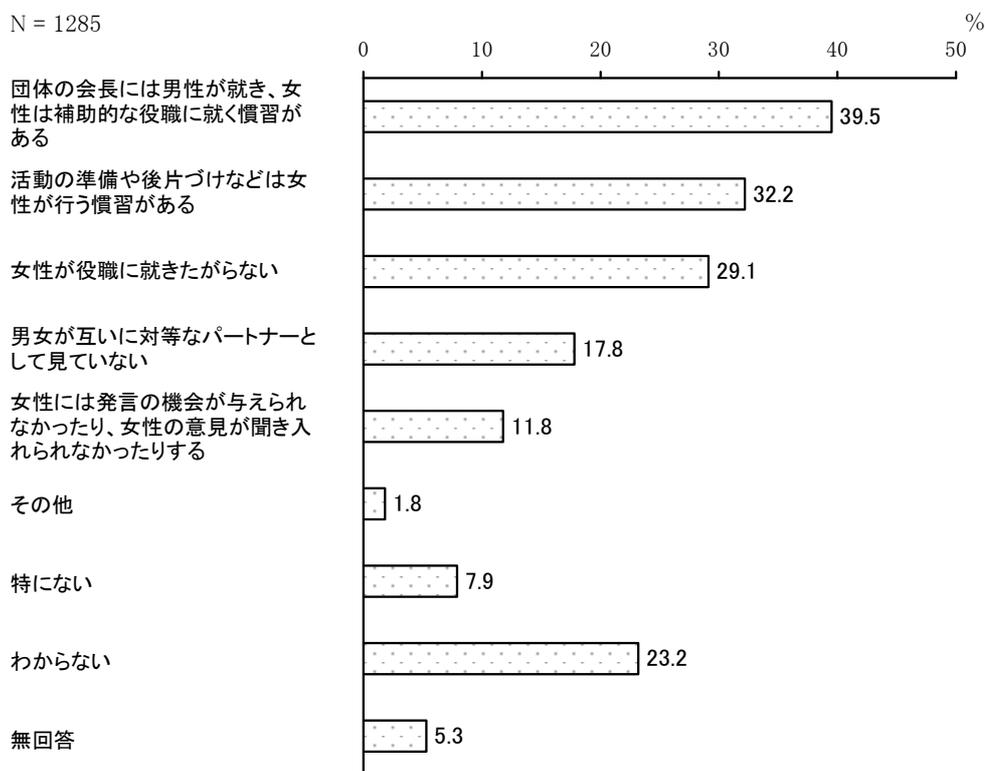
【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「そうしている」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「そうしていない」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「どちらでもない」の割合が高くなっています。



問6. あなたが、地域活動における男女の役割分担などに差があると考えられることは何ですか。(〇印いくつでも)

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある」の割合が39.5%と最も高く、次いで「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が32.2%、「女性が役職に就きたがらない」の割合が29.1%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性が互いに対等なパートナーとして見ていない	女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の意見が聞き入れられなかったりする	女性が役職に就きたがらない	団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある	活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある	その他	特になし	わからない	無回答
男性	568	18.7	11.3	29.6	39.4	26.9	1.4	8.5	23.1	4.8
女性	704	17.5	12.4	28.6	39.6	36.9	2.1	7.4	23.6	5.3

【性・年齢別】

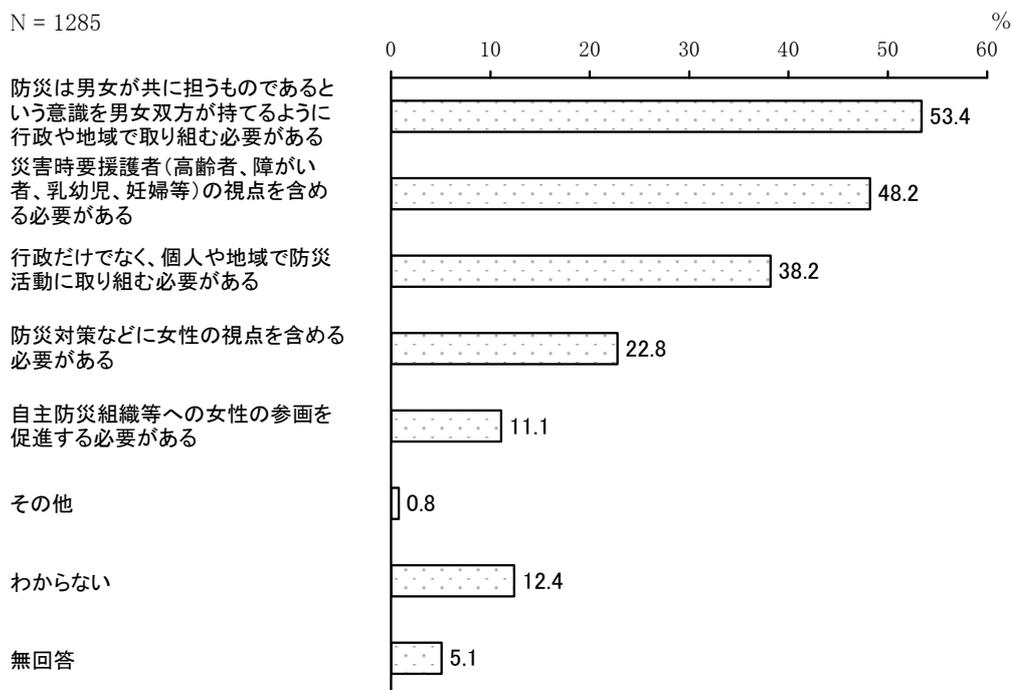
性・年齢別で見ると、男女ともに 20～29 歳で「男女が互いに対等なパートナーとして見ていない」「女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の意見が聞き入れられなかったりする」の割合が高くなっています。男女ともに 60～69 歳で「女性が役職に就きたがらない」の割合が高くなっています。男性の 50～59 歳、70 歳以上、女性の 50～69 歳で「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある」の割合が高くなっています。女性の 30～49 歳で「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女が互いに対等なパートナーとして見ていない	女性には発言の機会が与えられなかったり、女性の意見が聞き入れられなかったりする	女性が役職に就きたがらない	団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある	活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある	その他	特になし	わからない	無回答
男性 20～29 歳	36	25.0	25.0	16.7	30.6	25.0	—	2.8	36.1	—
30～39 歳	75	12.0	13.3	20.0	37.3	29.3	2.7	10.7	28.0	2.7
40～49 歳	109	15.6	6.4	23.9	24.8	20.2	3.7	10.1	36.7	1.8
50～59 歳	93	20.4	10.8	32.3	45.2	24.7	1.1	5.4	18.3	4.3
60～69 歳	122	19.7	9.8	41.8	39.3	25.4	—	9.0	19.7	6.6
70 歳以上	133	21.1	12.0	30.1	51.1	34.6	0.8	9.0	12.0	8.3
女性 20～29 歳	62	25.8	22.6	24.2	24.2	37.1	3.2	8.1	32.3	—
30～39 歳	93	21.5	15.1	21.5	39.8	46.2	4.3	4.3	22.6	4.3
40～49 歳	124	20.2	14.5	29.8	37.1	44.4	2.4	6.5	26.6	3.2
50～59 歳	93	18.3	10.8	19.4	45.2	30.1	1.1	8.6	23.7	3.2
60～69 歳	170	15.3	8.2	39.4	47.1	37.1	2.4	9.4	18.8	5.3
70 歳以上	161	11.8	10.6	27.3	36.0	29.8	0.6	6.8	23.6	10.6

問7. 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（○印3つまで）

「防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が53.4%と最も高く、次いで「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」の割合が48.2%、「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が38.2%となっています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある	その他	わからない	無回答
男性	568	55.6	25.7	45.8	16.2	36.4	1.1	11.1	5.1
女性	704	51.6	20.6	50.1	7.1	39.6	0.6	13.5	4.8

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の70歳以上、女性の60～69歳で「防災は男女が共に担うものである」という意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、50～69歳で「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、60～69歳で「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある」の割合が高くなっています。男性の60歳以上で「自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の50歳以上で「行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある」の割合が高くなっています。

単位：％

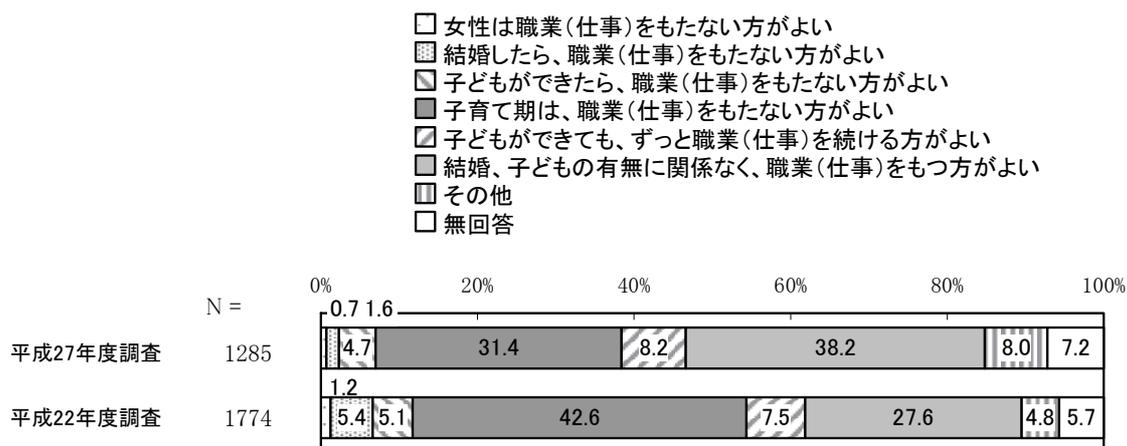
区分	有効回答数（件）	防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある	防災対策などに女性の視点を含める必要がある	災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦等）の視点を含める必要がある	自主防災組織等への女性の参画を促進する必要がある	行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	44.4	11.1	47.2	13.9	22.2	—	22.2	5.6
30～39歳	75	44.0	34.7	46.7	13.3	30.7	—	17.3	2.7
40～49歳	109	54.1	20.2	41.3	9.2	27.5	2.8	15.6	2.8
50～59歳	93	51.6	29.0	46.2	14.0	32.3	1.1	9.7	7.5
60～69歳	122	56.6	28.7	47.5	20.5	41.8	1.6	9.0	3.3
70歳以上	133	68.4	24.1	46.6	21.8	48.9	—	3.8	8.3
女性 20～29歳	62	51.6	14.5	53.2	3.2	35.5	—	17.7	—
30～39歳	93	43.0	26.9	46.2	4.3	29.0	2.2	16.1	3.2
40～49歳	124	41.1	21.0	50.0	3.2	33.1	—	18.5	3.2
50～59歳	93	46.2	20.4	51.6	3.2	43.0	—	14.0	2.2
60～69歳	170	62.4	21.8	53.5	10.6	45.9	1.2	8.2	4.7
70歳以上	161	55.9	18.0	47.2	11.2	43.5	—	11.8	10.6

(4) 職業生活について

問8. 女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。（○印1つ）

「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が38.2%と最も高く、次いで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が31.4%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が10.6ポイント増加しています。一方、「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が11.2ポイント減少しています。



【性別】

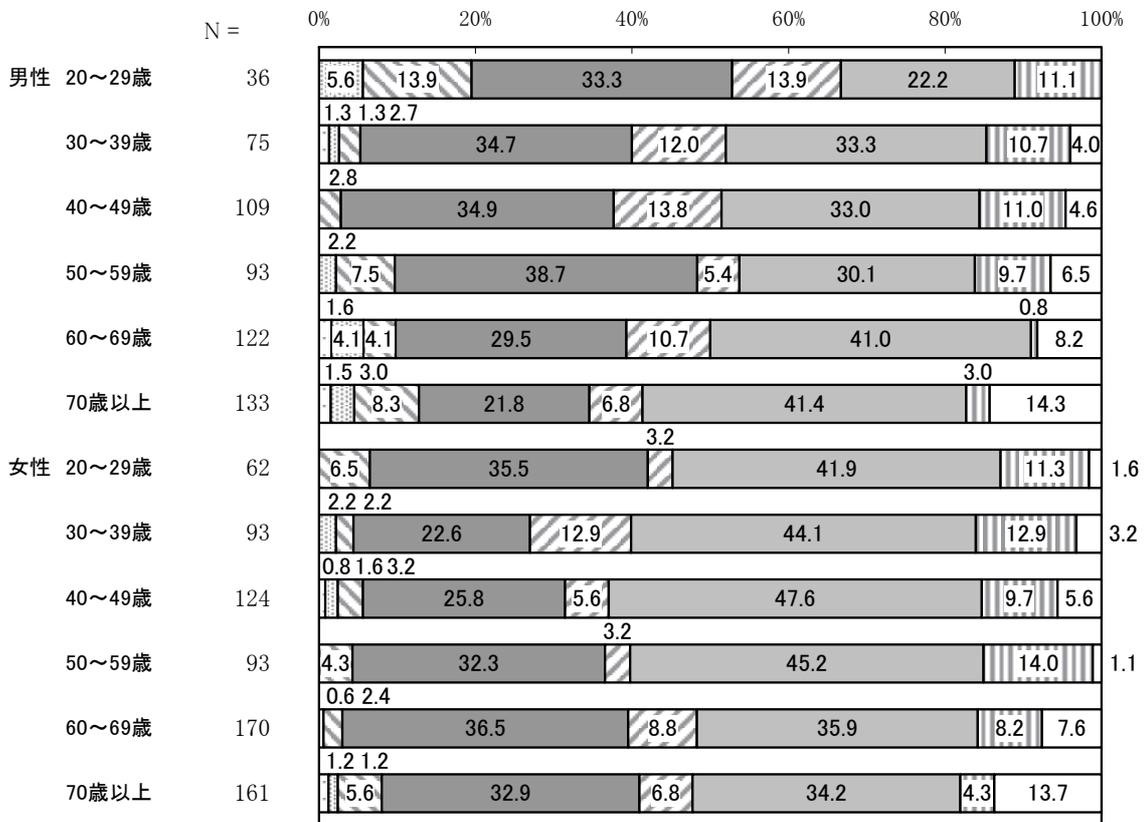
性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳で「子どもができたら、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。男性の50～59歳、女性の60～69歳で「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」の割合が高くなっています。女性の30～59歳で「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

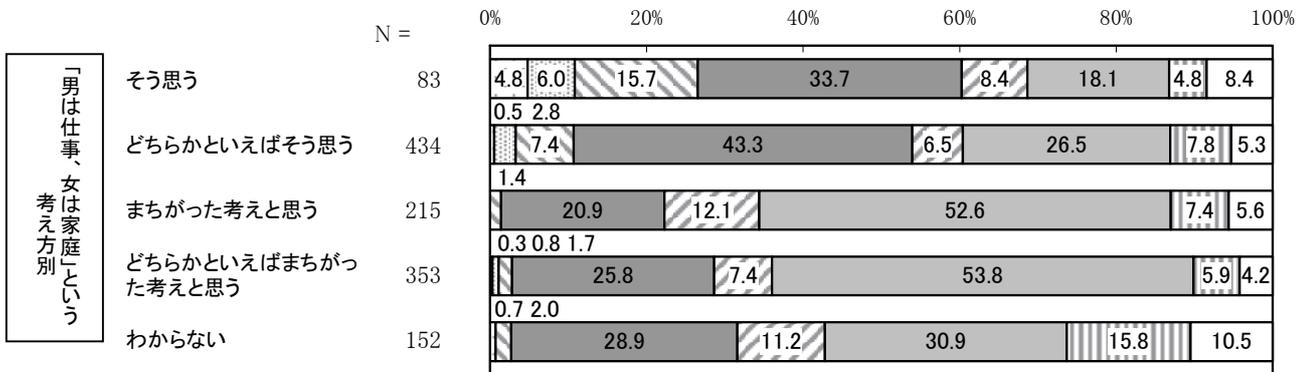
- 女性は職業（仕事）をもたない方がよい
- ▨ 結婚したら、職業（仕事）をもたない方がよい
- ▩ 子どもができたら、職業（仕事）をもたない方がよい
- 子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい
- ▧ 子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい
- ▦ 結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい
- その他
- 無回答



【性別役割分担意識別】

性別役割分担意識別でみると、そう思うで「子どもができれば、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。どちらかといえばそう思うで「子育て期は、職業（仕事）をもたない方がよい」の割合が高くなっています。また、まちがった考えと思う、どちらかといえばまちがった考えと思うで「結婚、子どもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が高くなっています。

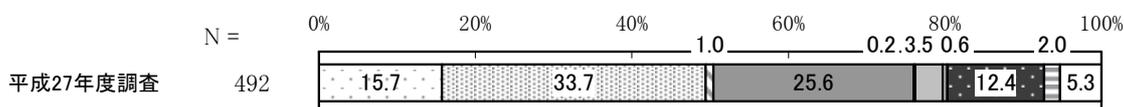
- 女性は無職業(仕事)をもたない方がよい
- ▨ 結婚したら、職業(仕事)をもたない方がよい
- ▨ 子どもができれば、職業(仕事)をもたない方がよい
- 子育て期は、職業(仕事)をもたない方がよい
- ▨ 子どもができて、ずっと職業(仕事)を続ける方がよい
- ▨ 結婚、子どもの有無に関係なく、職業(仕事)をもつ方がよい
- その他
- 無回答



問9. (問8で1~4仕事を持たない方がよいと回答した方に)
職業(仕事)をもたない方がよいと考える理由は何ですか。(○印1つ)

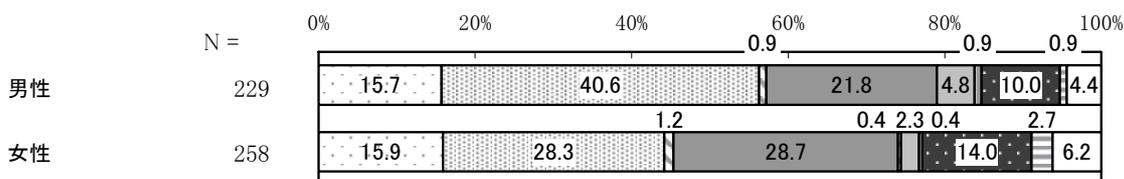
「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が33.7%と最も高く、次いで「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)」の割合が25.6%、「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」の割合が15.7%となっています。

- 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから
- 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- 仕事をするについて家族の理解が得られないと思うから
- 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)
- 経済的に働く必要性がない
- パートナーの勤務形態(夜勤・変則勤務)により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- 自分の親や周囲の人がそうしているから
- その他
- 特に考えたことはない
- 無回答



【性別】

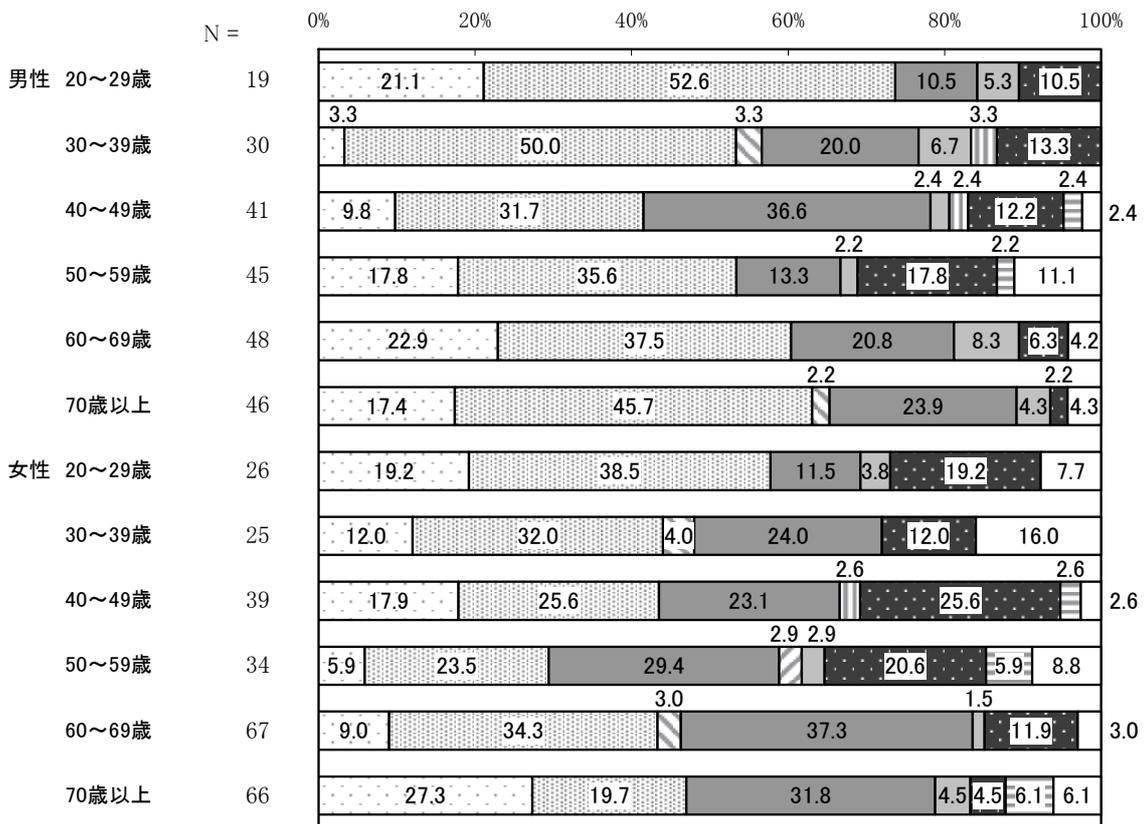
性別でみると、女性に比べ男性で「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから(保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など)」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、60～69歳、女性の70歳以上で「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、70歳以上で「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の60歳以上で「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など）」の割合が高くなっています。

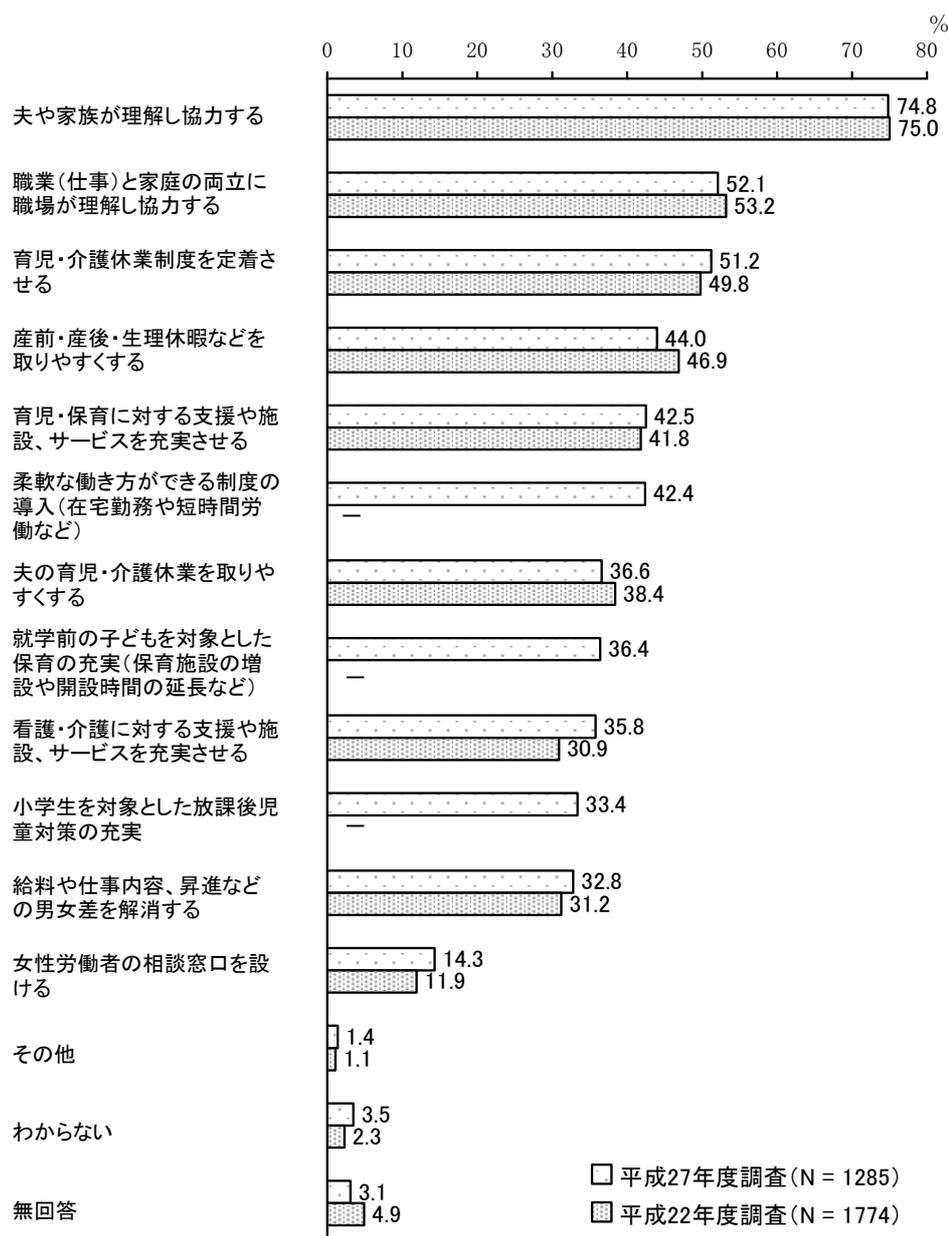
- 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がいいと思うから
- 結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- 仕事をする事について家族の理解が得られないと思うから
- 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園の送り迎え、子どもの病気、学校の行事など）
- 経済的に働く必要性がない
- パートナーの勤務形態（夜勤・変則勤務）により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- 自分の親や周囲の人がそうしているから
- その他
- 特に考えたことはない
- 無回答



問 10. 女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「夫や家族が理解し協力する」の割合が74.8%と最も高く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が52.1%、「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が51.2%となっています。

平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「夫や家族が理解し協力する」「育児・介護休業制度を定着させる」「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる」「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」「小学生を対象とした放課後児童対策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	夫の育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者の相談窓口を設ける	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした放課後児童対策の充実	その他	わからない	無回答
男性	568	69.7	47.4	32.7	46.1	40.7	35.0	42.6	30.6	13.0	35.9	31.0	26.4	1.2	4.8	3.3
女性	704	79.0	54.4	33.1	57.0	46.6	38.1	42.5	39.9	15.5	48.2	40.8	39.3	1.4	2.4	2.8

【性・年齢別】

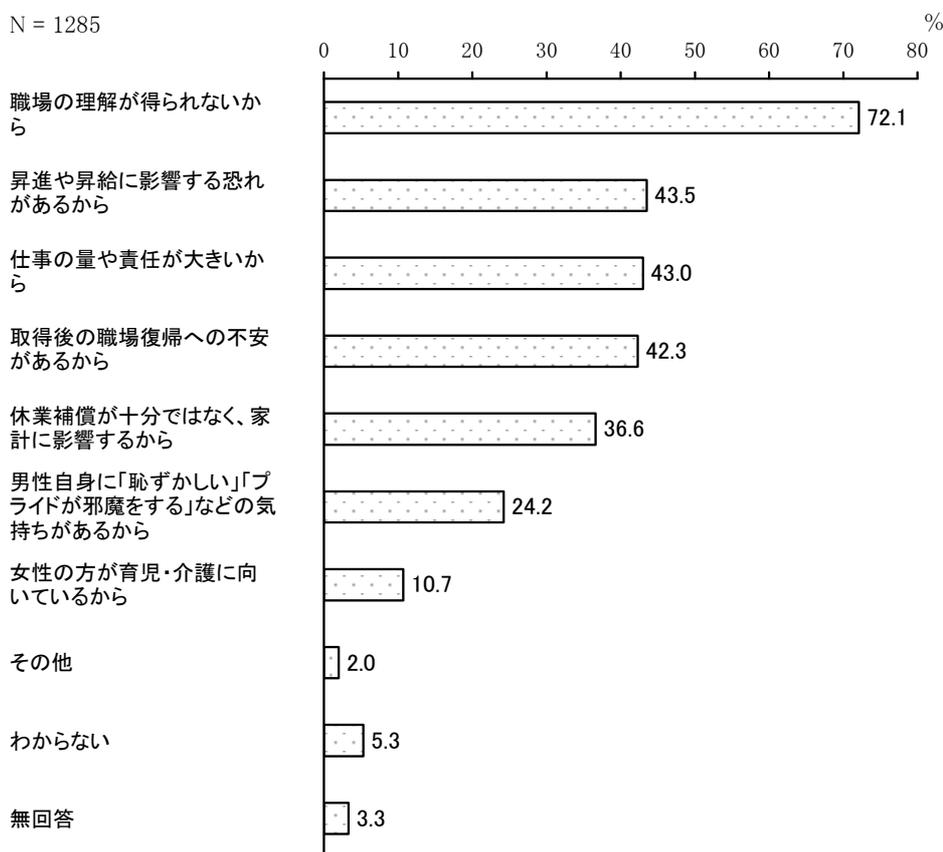
性・年齢別でみると、女性の40～69歳で「夫や家族が理解し協力する」「看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳で「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が高くなっています。女性の30～49歳で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～39歳、50～59歳で「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、女性の20～49歳で「夫の育児・介護休業を取りやすくする」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～29歳、40～59歳で「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「女性労働者の相談窓口を設ける」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」の割合が高くなっています。女性の30～49歳、60～69歳で「小学生を対象とした放課後児童対策の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	夫の育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	看護・介護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者の相談窓口を設ける	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした放課後児童対策の充実	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	69.4	58.3	36.1	50.0	63.9	38.9	61.1	36.1	16.7	41.7	19.4	11.1	—	2.8	—
30～39歳	75	58.7	45.3	32.0	40.0	33.3	42.7	34.7	16.0	12.0	36.0	37.3	28.0	2.7	5.3	2.7
40～49歳	109	67.0	45.0	34.9	45.9	35.8	45.0	39.4	30.3	8.3	33.0	23.9	22.9	1.8	4.6	0.9
50～59歳	93	64.5	44.1	30.1	38.7	31.2	24.7	36.6	23.7	7.5	39.8	30.1	28.0	1.1	4.3	2.2
60～69歳	122	73.0	46.7	28.7	45.9	41.0	27.9	45.1	34.4	13.1	32.8	28.7	28.7	0.8	7.4	3.3
70歳以上	133	78.9	50.4	36.1	54.1	48.9	35.3	46.6	39.1	20.3	36.8	39.1	29.3	0.8	3.0	7.5
女性 20～29歳	62	67.7	64.5	37.1	67.7	62.9	51.6	54.8	37.1	17.7	64.5	48.4	32.3	1.6	3.2	—
30～39歳	93	76.3	59.1	46.2	65.6	51.6	50.5	44.1	33.3	14.0	59.1	52.7	59.1	3.2	2.2	—
40～49歳	124	79.8	61.3	46.0	66.9	48.4	45.2	48.4	41.1	18.5	60.5	51.6	40.3	2.4	1.6	0.8
50～59歳	93	84.9	54.8	25.8	55.9	51.6	35.5	48.4	48.4	15.1	48.4	45.2	37.6	1.1	1.1	2.2
60～69歳	170	84.7	53.5	28.8	55.9	44.1	35.3	42.9	42.9	14.1	44.7	37.6	42.9	—	1.8	2.9
70歳以上	161	74.5	42.9	23.0	42.2	35.4	24.8	28.6	36.0	14.9	29.2	23.6	26.7	1.2	4.3	7.5

問 11. 育児や介護で休みをとる男性が少ない現状にあります、その理由は何だと思えますか。(〇印いくつでも)

「職場の理解が得られないから」の割合が72.1%と最も高く、次いで「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が43.5%、「仕事の量や責任が大きいから」の割合が43.0%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「職場の理解が得られないから」「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性の方が育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
男性	568	68.3	41.2	41.4	44.9	33.8	9.5	19.5	1.6	5.3	3.0
女性	704	75.9	45.6	42.9	41.8	38.6	11.5	28.3	2.3	5.3	3.6

【性・年齢別】

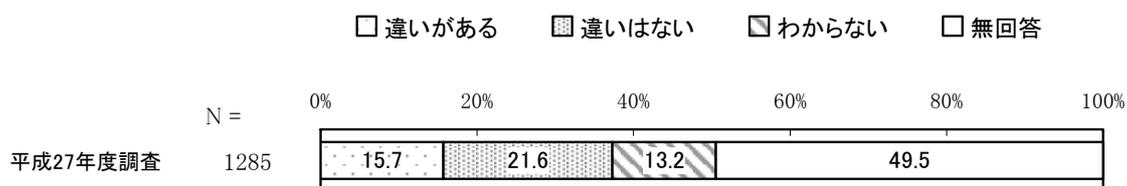
性・年齢別でみると、男性の30～39歳、女性の20～69歳で「職場の理解が得られないから」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の50～69歳で「取得後の職場復帰への不安があるから」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、60～69歳、女性の30～39歳、60～69歳で「仕事の量や責任が大きいから」の割合が高くなっています。女性の20～49歳、60～69歳で「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」の割合が高くなっています。女性の60～69歳で「女性の方が育児・介護に向いているから」の割合が高くなっています。女性の30～59歳で「男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性の方が育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	69.4	47.2	50.0	47.2	27.8	2.8	22.2	—	—	—
30～39歳	75	80.0	37.3	30.7	38.7	37.3	8.0	22.7	5.3	4.0	2.7
40～49歳	109	72.5	38.5	42.2	52.3	38.5	11.0	10.1	0.9	4.6	—
50～59歳	93	62.4	33.3	36.6	44.1	29.0	8.6	17.2	2.2	5.4	1.1
60～69歳	122	67.2	43.4	42.6	49.2	32.8	9.0	23.8	0.8	6.6	4.9
70歳以上	133	63.2	47.4	46.6	38.3	33.8	12.0	22.6	0.8	6.8	6.0
女性 20～29歳	62	82.3	53.2	46.8	45.2	48.4	9.7	25.8	3.2	6.5	—
30～39歳	93	78.5	48.4	40.9	51.6	41.9	6.5	33.3	4.3	3.2	—
40～49歳	124	82.3	58.1	45.2	43.5	46.0	8.9	37.9	1.6	3.2	0.8
50～59歳	93	80.6	45.2	48.4	36.6	39.8	9.7	35.5	4.3	4.3	2.2
60～69歳	170	78.2	42.9	48.8	48.2	41.8	15.9	25.3	1.8	4.1	3.5
70歳以上	161	61.5	34.8	31.7	29.8	23.6	13.7	18.0	0.6	9.3	9.9

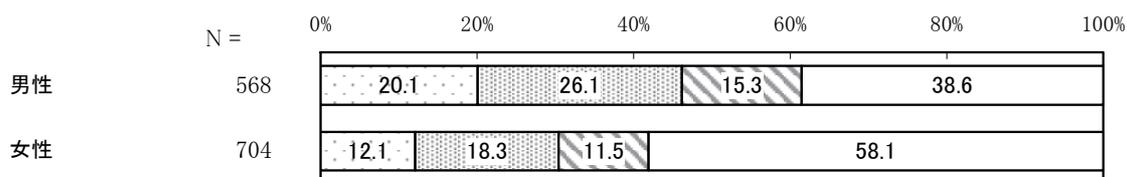
問 12. 現在働いている方にお聞きします。それ以外の方は問 14 にお進みください。
 あなたの職場では、職場の慣行や待遇、仕事の内容等で、性別による違いがあると思いますか。

「違いはない」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「違いがある」の割合が 15.7%、「わからない」の割合が 13.2%となっています。



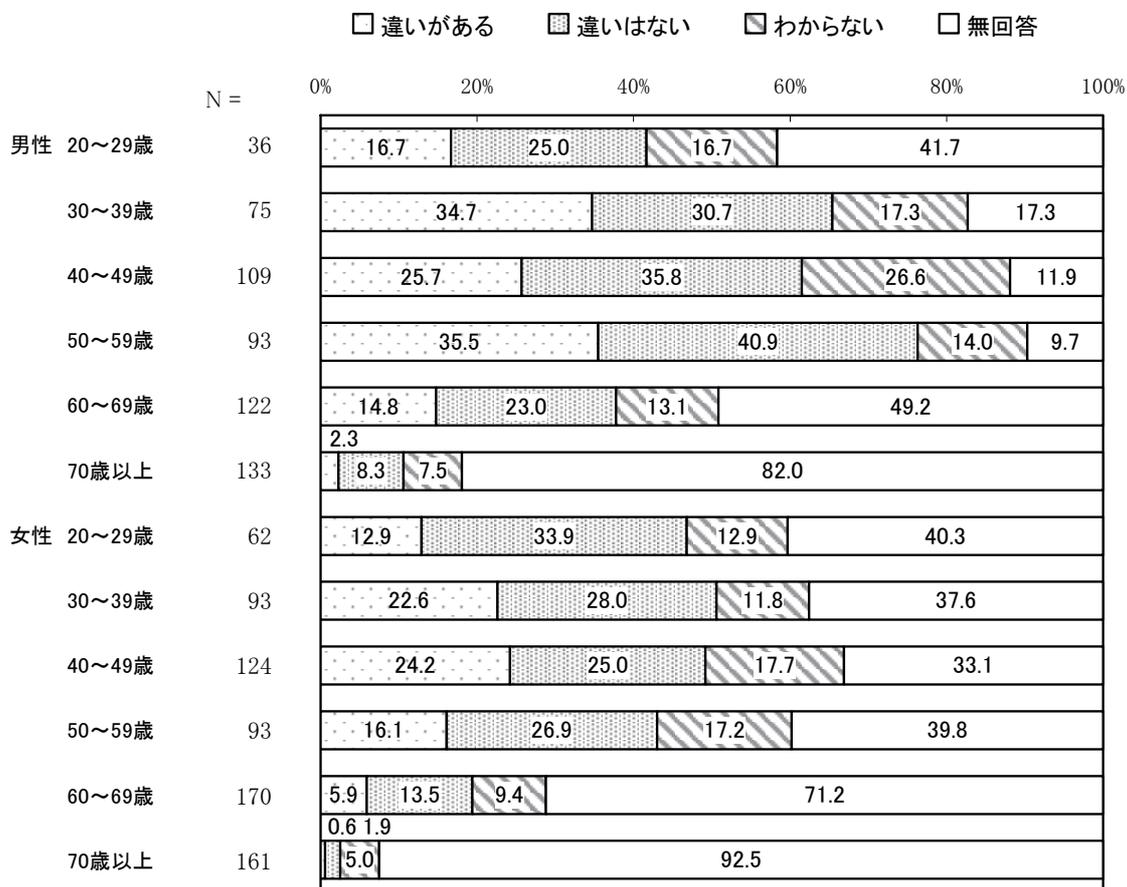
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「違いがある」「違いはない」の割合が高くなっています。



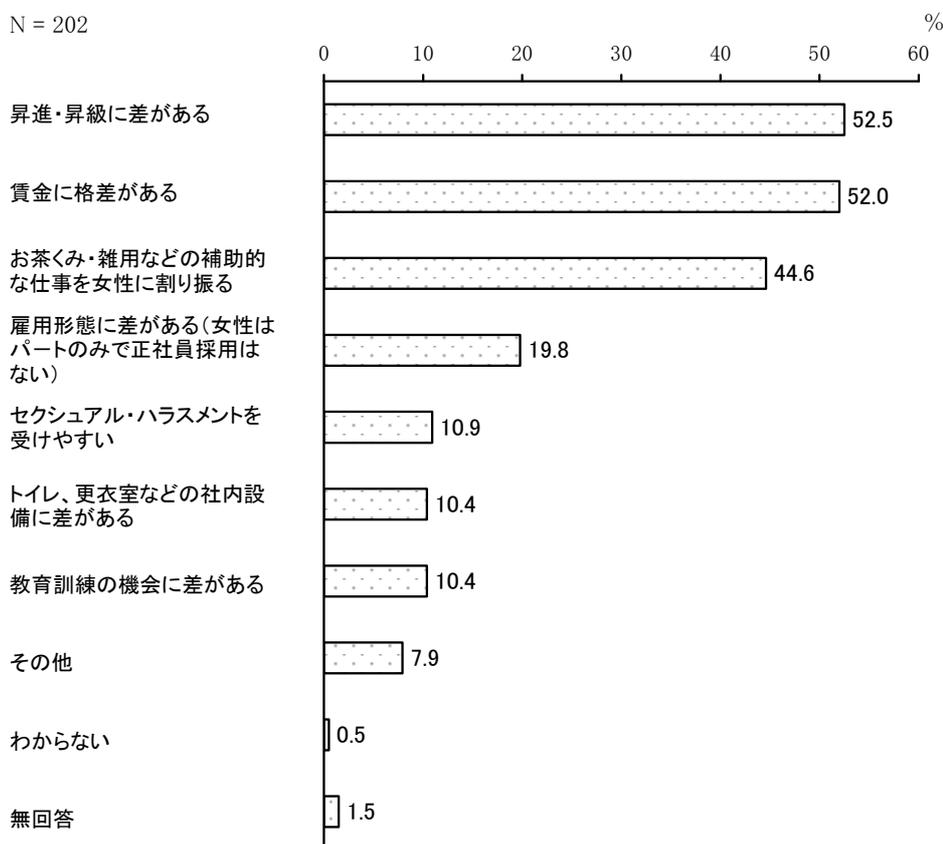
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の30～59歳、女性の30～49歳で「違いがある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～39歳、50～59歳で「違いはない」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「わからない」の割合が高くなっています。



問 13. (問 12 で「1. 違いがある」と回答した方に)
 どのような違いがあると思いますか。(○印いくつでも)

「昇進・昇級に差がある」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「賃金に格差がある」の割合が 52.0%、「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」の割合が 44.6%となっています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「賃金に格差がある」「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「トイレ、更衣室などの社内設備に差がある」「セクシュアル・ハラスメントを受けやすい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用はない)	その他	わからない	無回答
男性	114	46.5	52.6	45.6	15.8	14.0	9.6	15.8	7.9	—	0.9
女性	85	57.6	52.9	42.4	3.5	7.1	11.8	24.7	8.2	1.2	2.4

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の60～69歳、女性の40～59歳で「賃金に格差がある」の割合が高くなっています。女性の30～49歳で「昇進・昇級に差がある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の50～59歳で「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、60～69歳で「トイレ、更衣室などの社内設備に差がある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳で「セクシュアル・ハラスメントを受けやすい」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の40～49歳で「教育訓練の機会に差がある」の割合が高くなっています。男性の60～69歳、女性の30～49歳、60～69歳で「雇用形態に差がある（女性はパートのみで正社員採用はない）」の割合が高くなっています。

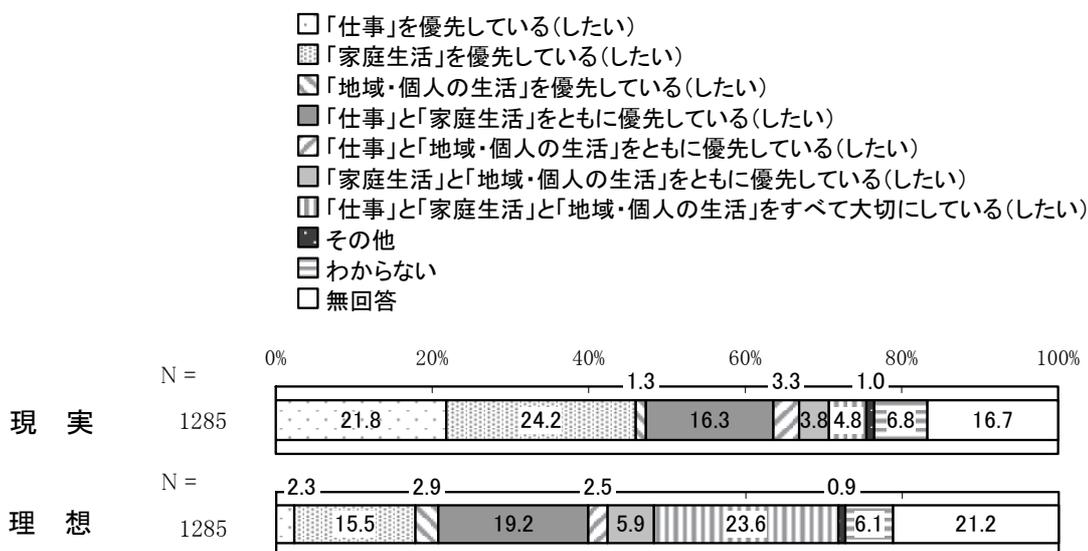
単位：％

区分	有効回答数(件)	賃金に格差がある	昇進・昇級に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	セクシュアル・ハラスメントを受けやすい	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある(女性はパートのみで正社員採用はない)	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	6	66.7	50.0	66.7	16.7	16.7	—	33.3	—	—	—
30～39歳	26	34.6	46.2	53.8	23.1	23.1	3.8	15.4	11.5	—	—
40～49歳	28	46.4	53.6	46.4	7.1	10.7	10.7	3.6	7.1	—	—
50～59歳	33	39.4	54.5	36.4	15.2	6.1	9.1	12.1	9.1	—	3.0
60～69歳	18	66.7	50.0	44.4	16.7	16.7	16.7	33.3	5.6	—	—
70歳以上	3	66.7	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	—	—	—
女性 20～29歳	8	37.5	37.5	37.5	12.5	25.0	—	12.5	25.0	—	—
30～39歳	21	47.6	66.7	42.9	—	4.8	9.5	28.6	14.3	—	—
40～49歳	30	63.3	60.0	40.0	3.3	6.7	20.0	26.7	6.7	—	—
50～59歳	15	73.3	33.3	53.3	—	6.7	6.7	13.3	—	6.7	—
60～69歳	10	50.0	50.0	40.0	10.0	—	10.0	40.0	—	—	20.0
70歳以上	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—

問 14. 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。
 (○印①~②の項目ごとに1つずつ)

現実では、「家庭生活」を優先している(したい)の割合が24.2%と最も高く、次いで「仕事」を優先している(したい)の割合が21.8%、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(したい)の割合が16.3%となっています。

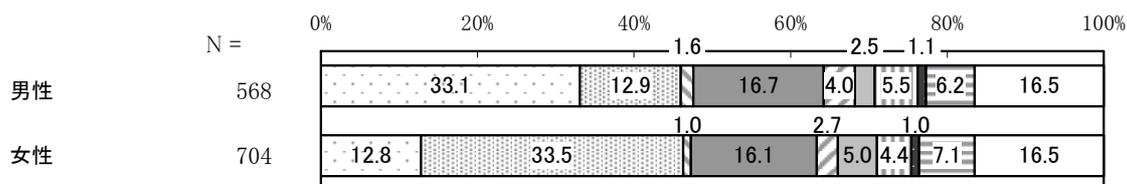
理想では、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている(したい)の割合が23.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(したい)の割合が19.2%、「家庭生活」を優先している(したい)の割合が15.5%となっています。



① 現実

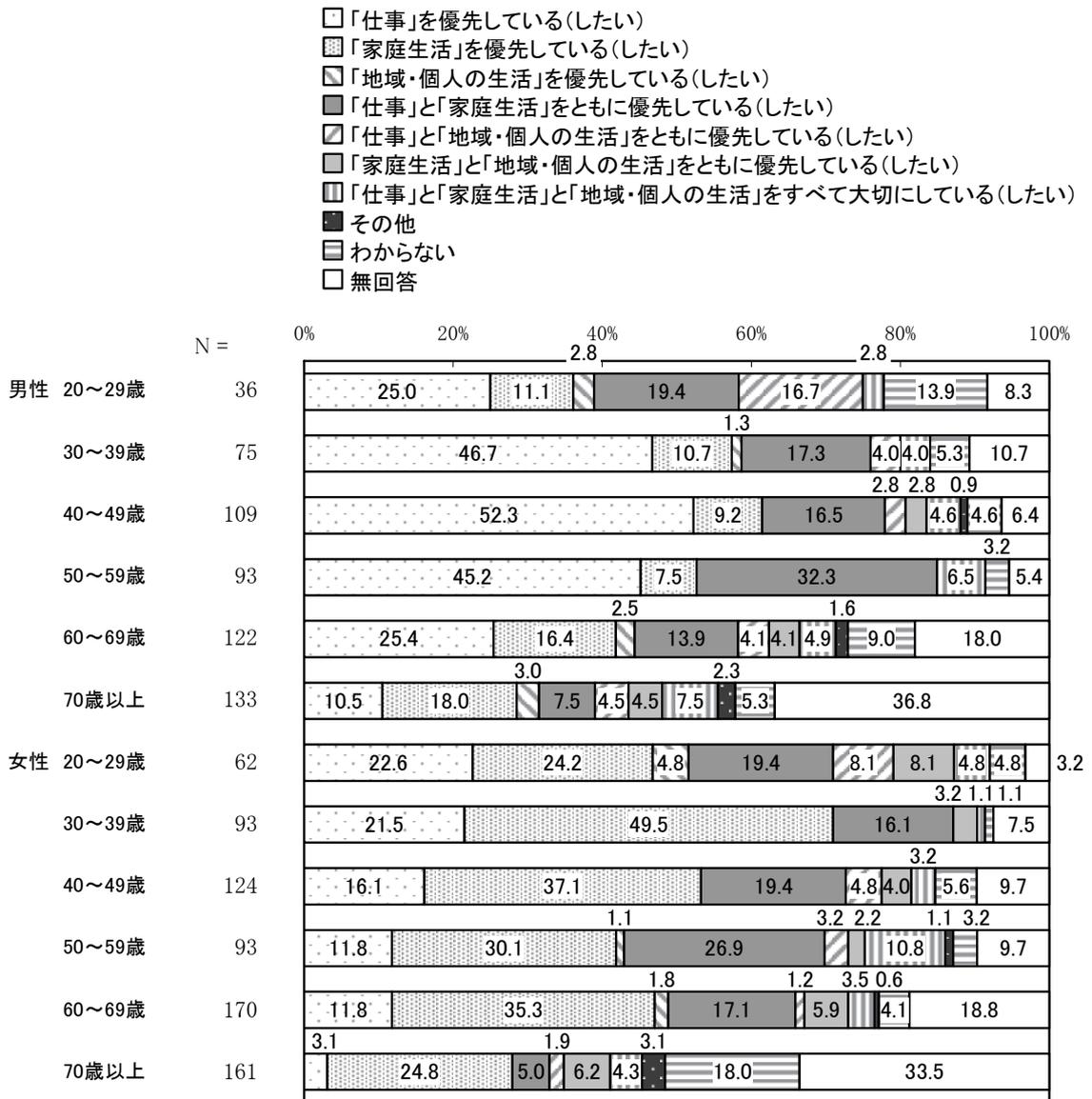
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「女性に比べ男性で「仕事」を優先している(したい)の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家庭生活」を優先している(したい)の割合が高くなっています。」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

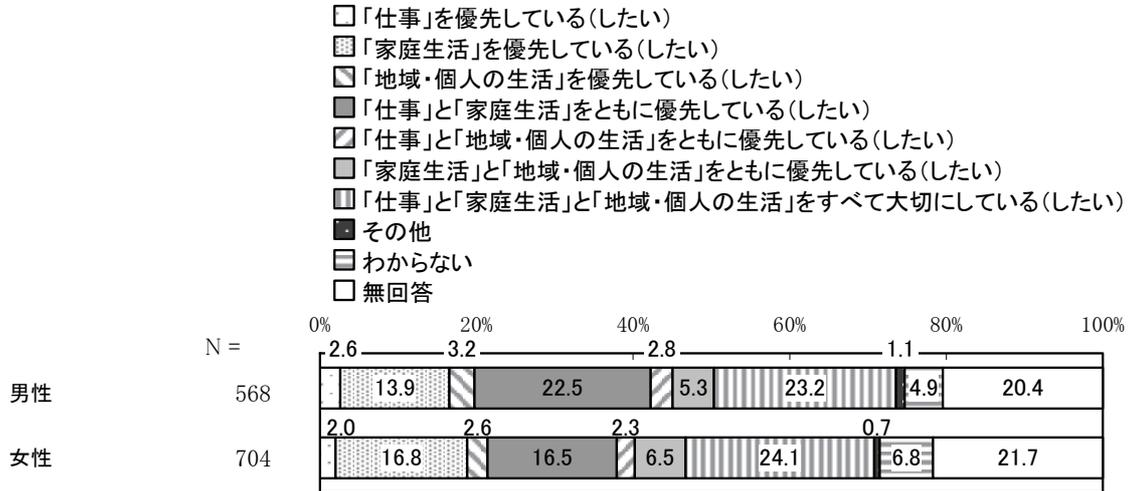
性・年齢別で見ると、男性の30～59歳で「仕事」を優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の30～69歳で「家庭生活」を優先している（したい）の割合が高くなっています。男性の50～59歳、女性の50～59歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている（したい）の割合が高くなっています。



② 理想

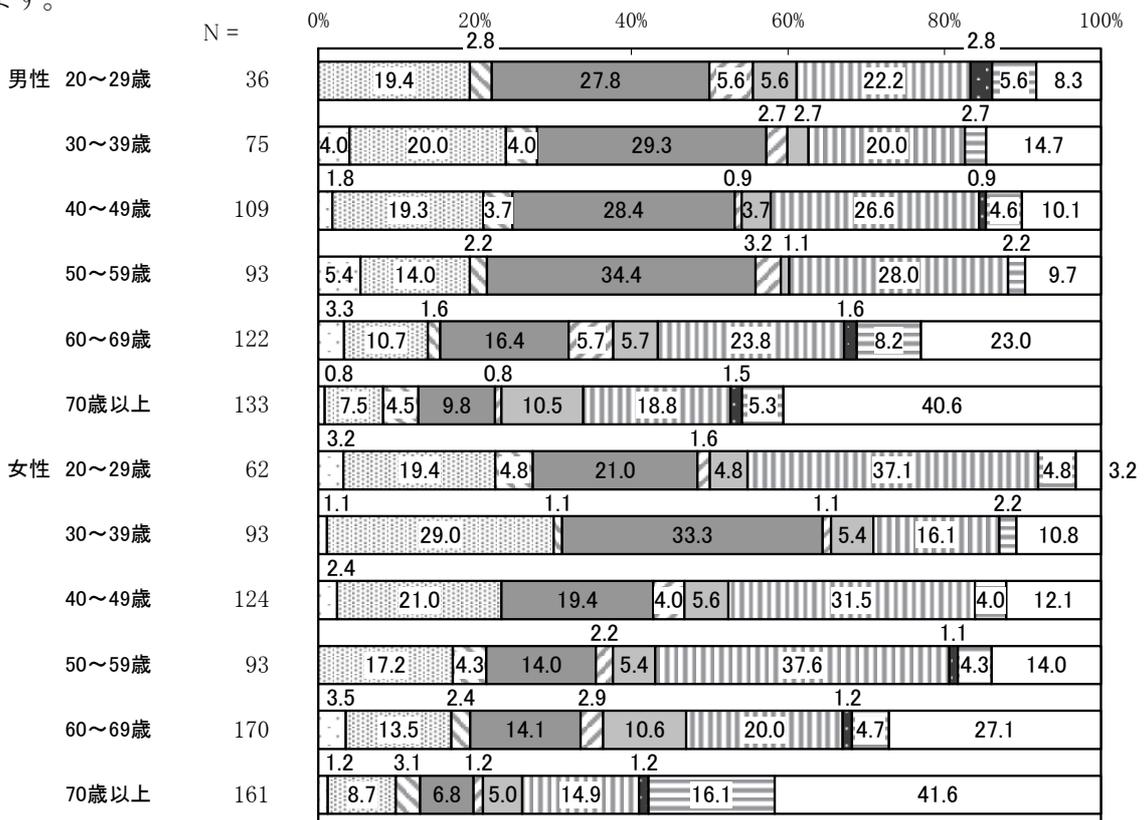
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 30～49 歳で「家庭生活」を優先している（したい）の割合が高くなっています。男性の 20～59 歳、女性の 30～39 歳で「仕事」と「家庭生活」をともに優先している（したい）の割合が高くなっています。女性の 20～29 歳、40～59 歳で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている（したい）の割合が高くなっています。

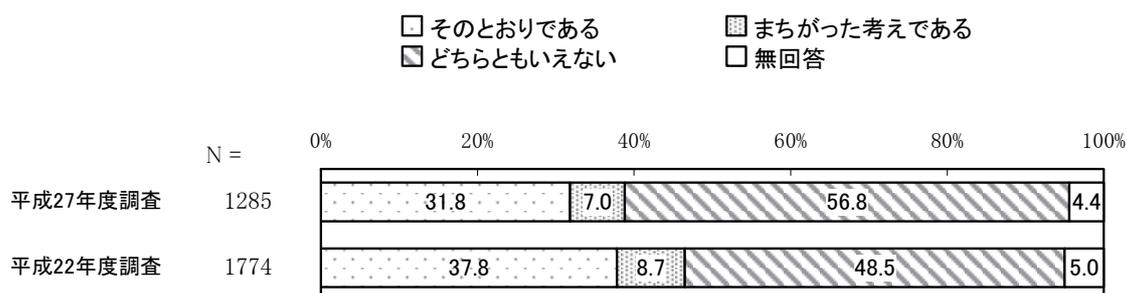


(5) 子育て・子どもの教育について

問 15. 子どもの育て方については「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」とお考えですか。(〇印1つ)

「どちらともいえない」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「そのとおりである」の割合が 31.8%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「どちらともいえない」の割合が 8.3 ポイント増加しています。一方、「そのとおりである」の割合が 6.0 ポイント減少しています。



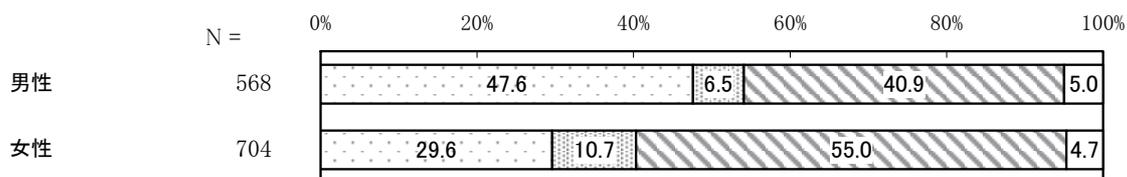
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「そのとおりである」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。

平成 22 年度調査と比較すると、男性で「そのとおりである」の割合が 7.6 ポイント減少しています。一方、「どちらともいえない」の割合が男性で 7.7 ポイント、女性で 8.4 ポイント増加しています。

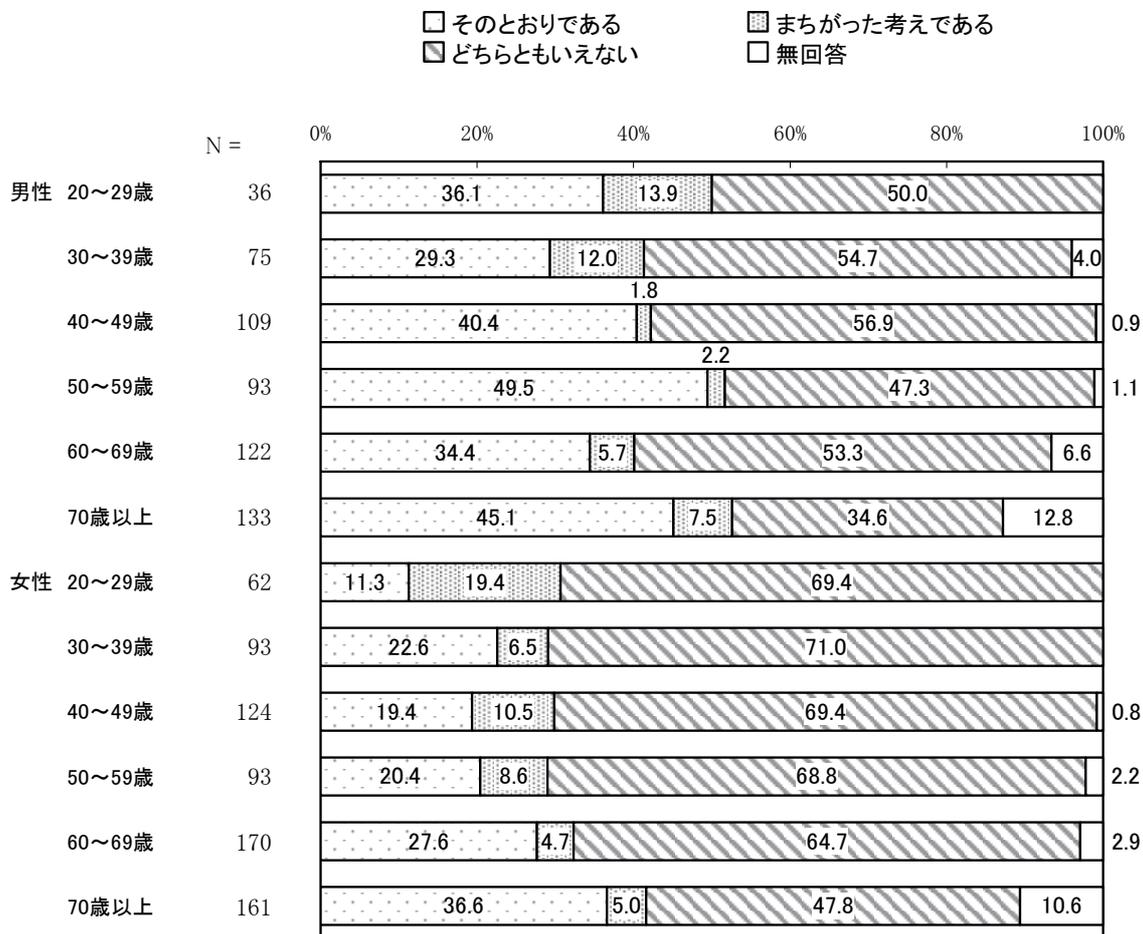


【性別（平成 22 年度調査）】



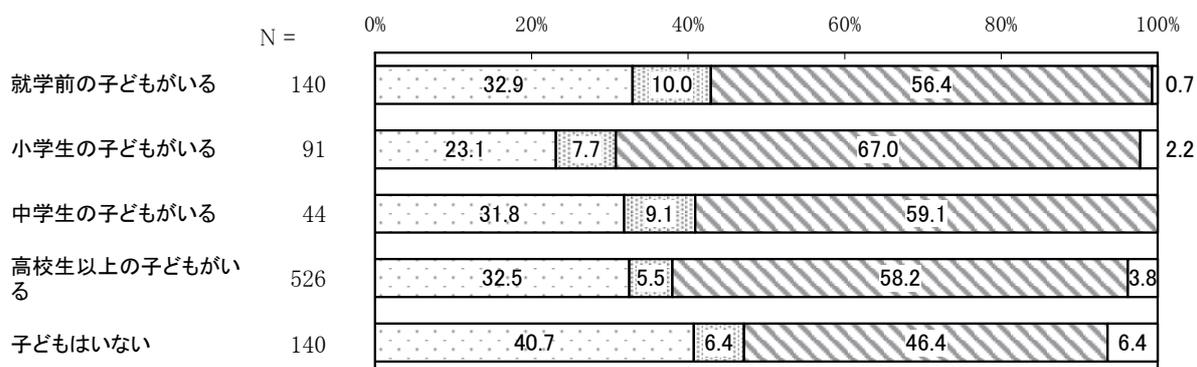
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の40～59歳、70歳以上で「そのとおりである」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、女性の20～29歳で「まちがった考えである」の割合が高くなっています。女性の20～69歳で「どちらともいえない」の割合が高くなっています。



【末子学齢別】

末子学齢別で見ると、小学生の子どもがいるで「どちらともいえない」の割合が高くなっています。また、子どもはいないで「そのとおりである」の割合が高くなっています。



【性別役割分担意識別】

性別役割分担意識別でみると、そう思うで「そのとおりである」の割合が高くなっています。

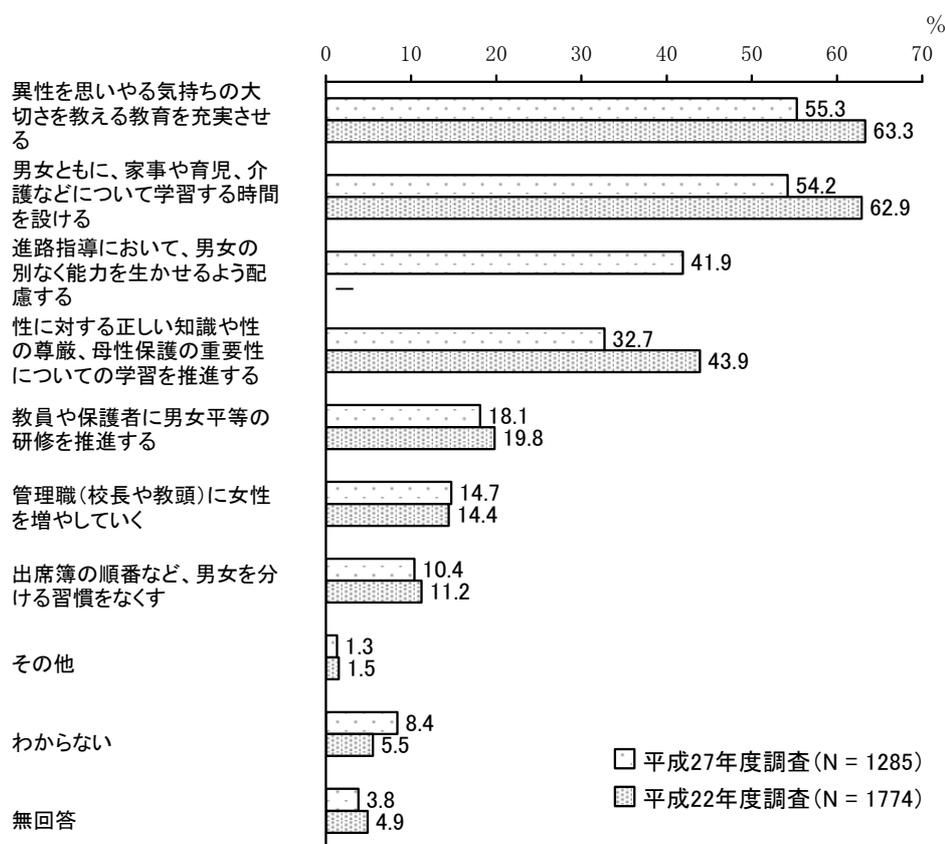
- そのとおりである
- まちがった考えである
- ▨ どちらともいえない
- 無回答



問 16. 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印いくつでも)

「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 54.2%、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が 41.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が 8.0 ポイント、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 8.7 ポイント、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が 11.2 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
男性	568	57.9	48.8	38.9	31.9	19.0	14.8	10.7	1.4	7.9	3.3
女性	704	53.4	58.7	44.3	33.5	17.6	14.9	10.2	1.3	8.8	4.1

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～29歳、50～59歳で「異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」「教員や保護者に男女平等の研修を推進する」の割合が高くなっています。男女ともに30～39歳で「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～29歳で「出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	63.9	38.9	36.1	33.3	11.1	8.3	13.9	2.8	8.3	—	
30～39歳	75	50.7	44.0	30.7	36.0	16.0	24.0	16.0	2.7	8.0	4.0	
40～49歳	109	54.1	45.9	25.7	24.8	10.1	11.9	8.3	2.8	11.0	—	
50～59歳	93	69.9	52.7	30.1	24.7	15.1	9.7	14.0	—	9.7	1.1	
60～69歳	122	54.9	46.7	41.8	31.1	21.3	13.9	8.2	1.6	7.4	4.1	
70歳以上	133	57.9	55.6	58.6	40.6	30.8	18.0	9.0	—	4.5	7.5	
女性 20～29歳	62	50.0	54.8	37.1	29.0	21.0	12.9	22.6	4.8	9.7	1.6	
30～39歳	93	50.5	64.5	38.7	33.3	10.8	21.5	10.8	2.2	8.6	2.2	
40～49歳	124	56.5	58.1	42.7	33.1	21.0	18.5	6.5	—	8.9	2.4	
50～59歳	93	53.8	55.9	41.9	26.9	11.8	7.5	9.7	1.1	10.8	2.2	
60～69歳	170	58.8	64.1	54.1	41.8	24.1	17.1	11.2	1.2	4.7	2.9	
70歳以上	161	47.8	53.4	42.2	30.4	14.3	11.2	7.5	0.6	11.8	9.9	

【末子学齢別】

末子学齢別で見ると、高校生以上の子どもがいるで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高くなっています。

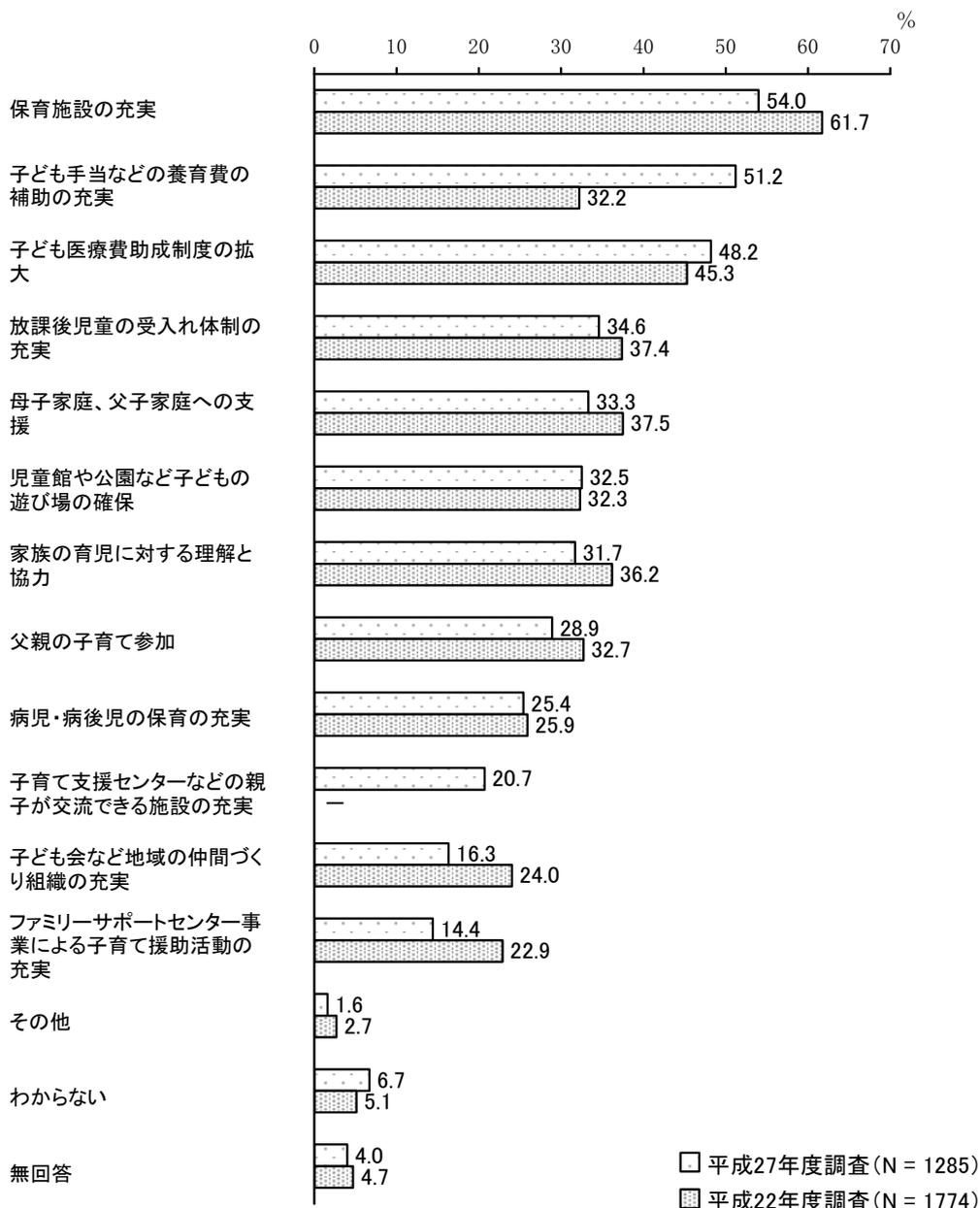
単位：％

区分	有効回答数(件)	異性を思いやる気持ちの大切さを教える教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	55.7	54.3	35.7	38.6	15.0	17.1	12.9	1.4	5.7	2.1
小学生の子どもがいる	91	57.1	53.8	39.6	27.5	15.4	19.8	9.9	1.1	6.6	1.1
中学生の子どもがいる	44	59.1	54.5	25.0	25.0	11.4	11.4	6.8	2.3	9.1	2.3
高校生以上の子どもがいる	526	57.2	59.7	49.2	36.3	20.7	13.1	8.7	1.0	6.5	3.0
子どもはいない	140	52.1	53.6	44.3	33.6	18.6	17.1	7.9	3.6	9.3	5.7

問 17. 安心して子どもを生み育てるためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(○印いくつでも)

「保育施設の充実」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が 51.2%、「子ども医療費助成制度の拡大」の割合が 48.2%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が 19.0 ポイント増加しています。一方、「保育施設の充実」の割合が 7.7 ポイント、「子ども会など地域の仲間づくり組織の充実」の割合が 7.7 ポイント、「ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実」の割合が 8.5 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「家族の育児に対する理解と協力」「放課後児童の受入れ体制の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
男性	568	53.9	47.9	53.9	28.9	17.8	12.5	20.2	20.4	28.0	31.3	30.8	20.8	1.2	6.9	3.9
女性	704	49.1	48.6	54.4	35.4	15.2	16.2	21.2	36.1	34.5	34.7	37.5	29.3	1.8	6.4	4.1

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の20～49歳、70歳以上、女性の20～29歳で「子ども手当などの養育費の補助の充実」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「子ども医療費助成制度の拡大」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の20～29歳、50～59歳で「保育施設の充実」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～39歳で「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、70歳以上で「子ども会など地域の仲間づくり組織の充実」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の20～29歳で「ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳、60～69歳で「父親の子育て参加」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～29歳で「家族の育児に対する理解と協力」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、60～69歳で「母子家庭、父子家庭への支援」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「放課後児童の受入れ体制の充実」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～59歳で「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	子育て支援センターなどの親子が交流できる施設の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	55.6	47.2	47.2	47.2	22.2	11.1	25.0	41.7	41.7	27.8	27.8	22.2	—	11.1	—
30～39歳	75	58.7	53.3	50.7	30.7	21.3	13.3	24.0	30.7	32.0	37.3	29.3	32.0	1.3	6.7	4.0
40～49歳	109	61.5	44.0	52.3	32.1	14.7	5.5	10.1	21.1	23.9	27.5	33.0	19.3	2.8	5.5	0.9
50～59歳	93	45.2	52.7	48.4	22.6	14.0	10.8	10.8	17.2	25.8	26.9	29.0	22.6	—	10.8	1.1
60～69歳	122	46.7	47.5	56.6	25.4	15.6	12.3	21.3	14.8	24.6	32.8	30.3	18.9	1.6	7.4	5.7
70歳以上	133	57.1	45.1	60.2	27.8	21.8	19.5	30.8	15.8	30.1	33.8	32.3	15.8	0.8	3.8	7.5
女性 20～29歳	62	77.4	62.9	62.9	38.7	12.9	22.6	24.2	59.7	58.1	43.5	37.1	38.7	1.6	3.2	—
30～39歳	93	54.8	52.7	49.5	46.2	14.0	18.3	23.7	38.7	33.3	36.6	48.4	37.6	4.3	5.4	3.2
40～49歳	124	53.2	50.8	57.3	35.5	11.3	12.1	20.2	37.1	39.5	33.9	37.9	37.1	2.4	4.8	2.4
50～59歳	93	48.4	48.4	61.3	28.0	10.8	18.3	16.1	30.1	31.2	29.0	36.6	33.3	2.2	5.4	2.2
60～69歳	170	45.9	52.9	57.6	36.5	18.2	18.2	25.9	34.7	37.6	39.4	43.5	27.6	1.2	4.7	2.4
70歳以上	161	36.0	34.8	44.7	31.1	18.6	12.4	17.4	29.8	20.5	29.2	25.5	13.7	0.6	11.8	10.6

【末子学齢別】

末子学齢別でみると、就学前の子どもがいるで「子ども手当などの養育費の補助の充実」「児童館や公園など子どもの遊び場の確保」「父親の子育て参加」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。また、小学生の子どもがいるで「子ども手当などの養育費の補助の充実」「病児・病後児の保育の充実」の割合が高くなっています。

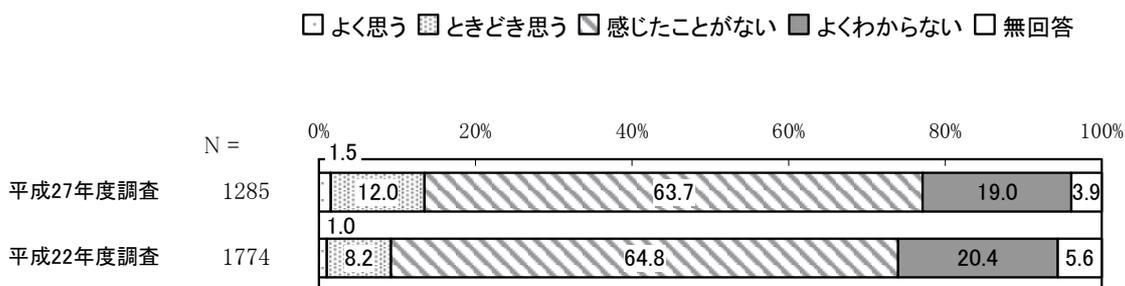
単位：％

区分	有効回答数（件）	子ども手当などの養育費の補助の充実	子ども医療費助成制度の拡大	保育施設の充実	児童館や公園など子どもの遊び場の確保	子ども会など地域の仲間づくり組織の充実	子育て援助活動の充実	ファミリーサポートセンター事業による子育て援助活動の充実	父親の子育て参加	家族の育児に対する理解と協力	母子家庭、父子家庭への支援	放課後児童の受入れ体制の充実	病児・病後児の保育の充実	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	66.4	57.9	55.7	50.0	20.0	18.6	24.3	40.0	36.4	35.0	42.1	36.4	3.6	3.6	1.4
小学生の子どもがいる	91	62.6	61.5	53.8	33.0	15.4	5.5	14.3	33.0	36.3	30.8	35.2	35.2	1.1	1.1	1.1
中学生の子どもがいる	44	45.5	52.3	47.7	27.3	15.9	6.8	11.4	25.0	18.2	31.8	34.1	20.5	—	—	4.5
高校生以上の子どもがいる	526	49.6	52.1	57.8	32.9	16.2	17.1	24.5	27.0	32.5	34.0	36.1	26.2	1.3	5.1	3.0
子どもはいない	140	43.6	33.6	55.7	28.6	16.4	15.7	17.9	20.7	29.3	29.3	33.6	17.9	2.1	13.6	7.1

問 18. 自分の周りで子どもが虐待されているのではないかと思ったことがありますか。
(○印1つ)

「感じたことがない」の割合が 63.7%と最も高く、次いで「よくわからない」の割合が 19.0%、「ときどき思う」の割合が 12.0%となっています。

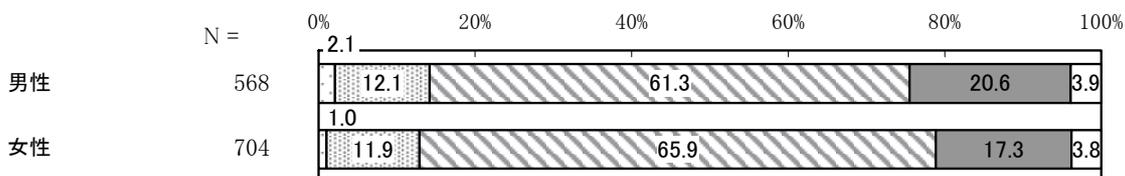
平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



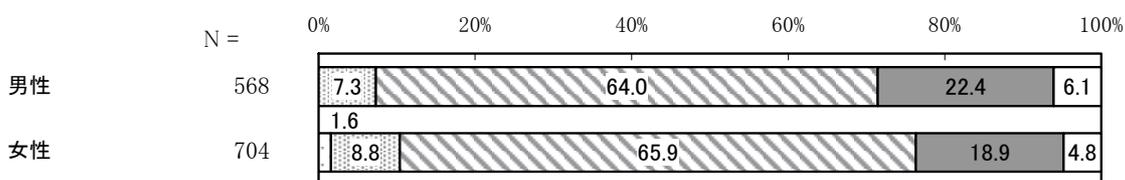
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

平成 22 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



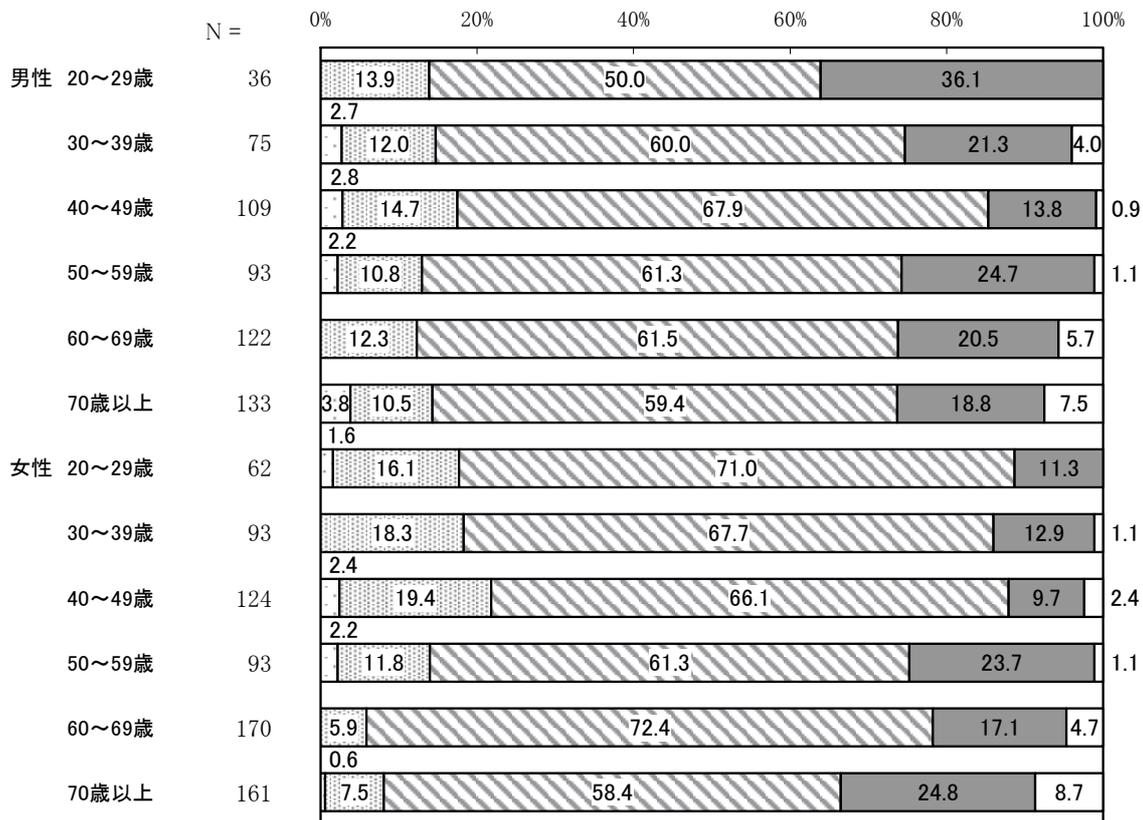
【性別（平成 22 年度調査）】



【性・年齢別】

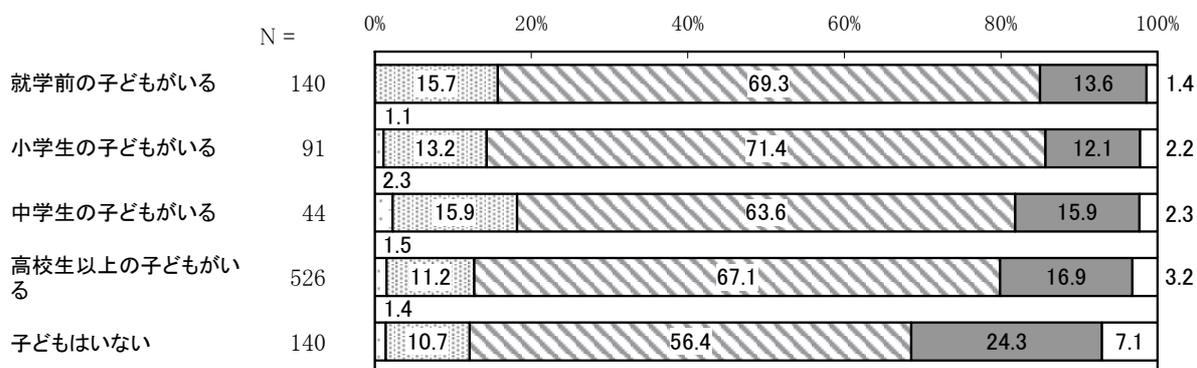
性・年齢別で見ると、女性の30～49歳で「ときどき思う」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、60～69歳で「感じたことがない」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、50～59歳、女性の70歳以上で「よくわからない」の割合が高くなっています。

□ よく思う □ とときどき思う □ 感じたことがない □ よくわからない □ 無回答



【末子学齢別】

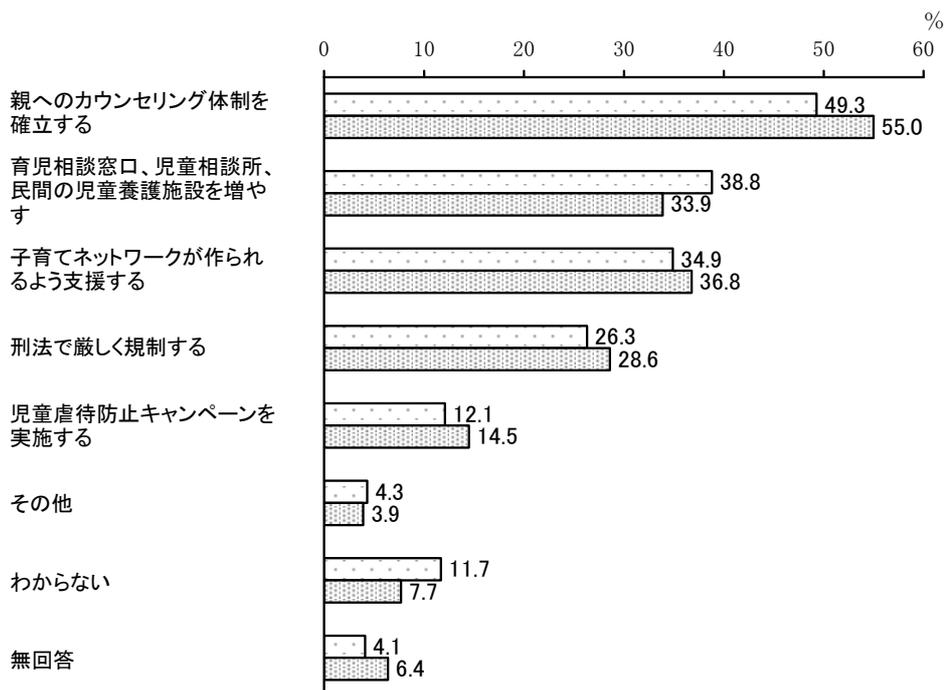
末子学齢別で見ると、大きな差異はみられません。



問 19. 子どもへの虐待を起こさないためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(○印いくつでも)

「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす」の割合が 38.8%、「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が 34.9%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が 5.7 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
男性	568	45.4	33.1	38.9	29.9	12.9	3.5	10.7	3.7
女性	704	52.7	36.4	38.9	23.7	11.8	5.0	11.9	4.4

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、女性の20～39歳で「親へのカウンセリング体制を確立する」の割合が高くなっています。女性の20～39歳、50～69歳で「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の20～29歳で「育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、50～59歳で「刑法で厳しく規制する」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「児童虐待防止キャンペーンを実施する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	66.7	38.9	38.9	44.4	13.9	2.8	8.3	—
30～39歳	75	34.7	37.3	30.7	37.3	6.7	4.0	12.0	4.0
40～49歳	109	49.5	33.9	34.9	31.2	8.3	6.4	11.9	1.8
50～59歳	93	38.7	32.3	35.5	33.3	9.7	6.5	11.8	1.1
60～69歳	122	48.4	32.8	38.5	24.6	13.1	1.6	10.7	4.9
70歳以上	133	44.4	29.3	49.6	23.3	21.8	0.8	9.0	6.8
女性 20～29歳	62	69.4	43.5	48.4	29.0	14.5	4.8	8.1	—
30～39歳	93	60.2	41.9	37.6	25.8	4.3	7.5	11.8	1.1
40～49歳	124	53.2	37.1	35.5	25.0	2.4	10.5	9.7	1.6
50～59歳	93	52.7	41.9	36.6	17.2	9.7	7.5	12.9	2.2
60～69歳	170	49.4	40.6	41.2	29.4	18.2	1.8	9.4	4.7
70歳以上	161	44.7	22.4	37.9	16.8	16.1	1.2	17.4	11.2

【未子学齡別】

未子学齡別で見ると、就学前の子どもがいるで「子育てネットワークが作られるよう支援する」の割合が高くなっています。

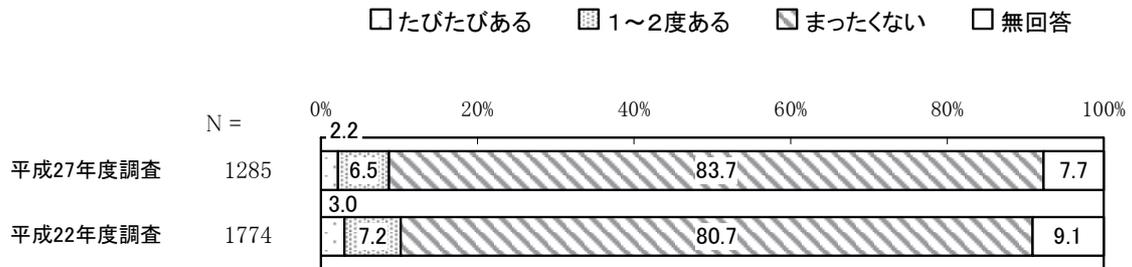
単位：％

区分	有効回答数(件)	親へのカウンセリング体制を確立する	子育てネットワークが作られるよう支援する	育児相談窓口、児童相談所、民間の児童養護施設を増やす	刑法で厳しく規制する	児童虐待防止キャンペーンを実施する	その他	わからない	無回答
就学前の子どもがいる	140	55.7	42.9	38.6	30.0	9.3	8.6	9.3	1.4
小学生の子どもがいる	91	51.6	28.6	40.7	20.9	5.5	7.7	8.8	1.1
中学生の子どもがいる	44	47.7	40.9	25.0	25.0	11.4	6.8	13.6	2.3
高校生以上の子どもがいる	526	50.2	37.6	41.1	27.4	13.9	3.0	10.6	3.4
子どもはいない	140	43.6	30.7	37.9	22.9	15.0	3.6	12.1	6.4

(6) 配偶者等からの暴力について

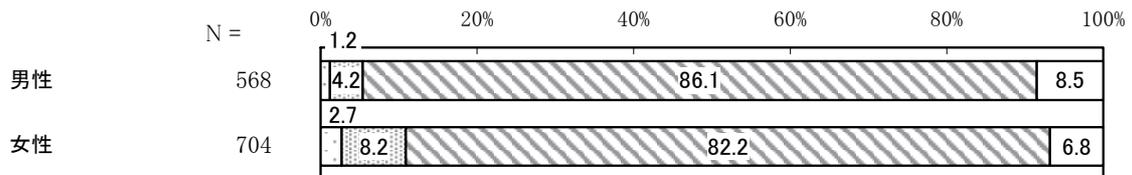
問 20. あなたはこれまでに、DVを受けたことがありますか。(○印1つ)

「たびたびある」と「1～2度ある」をあわせた“ある”の割合が8.7%となっています。
平成22年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



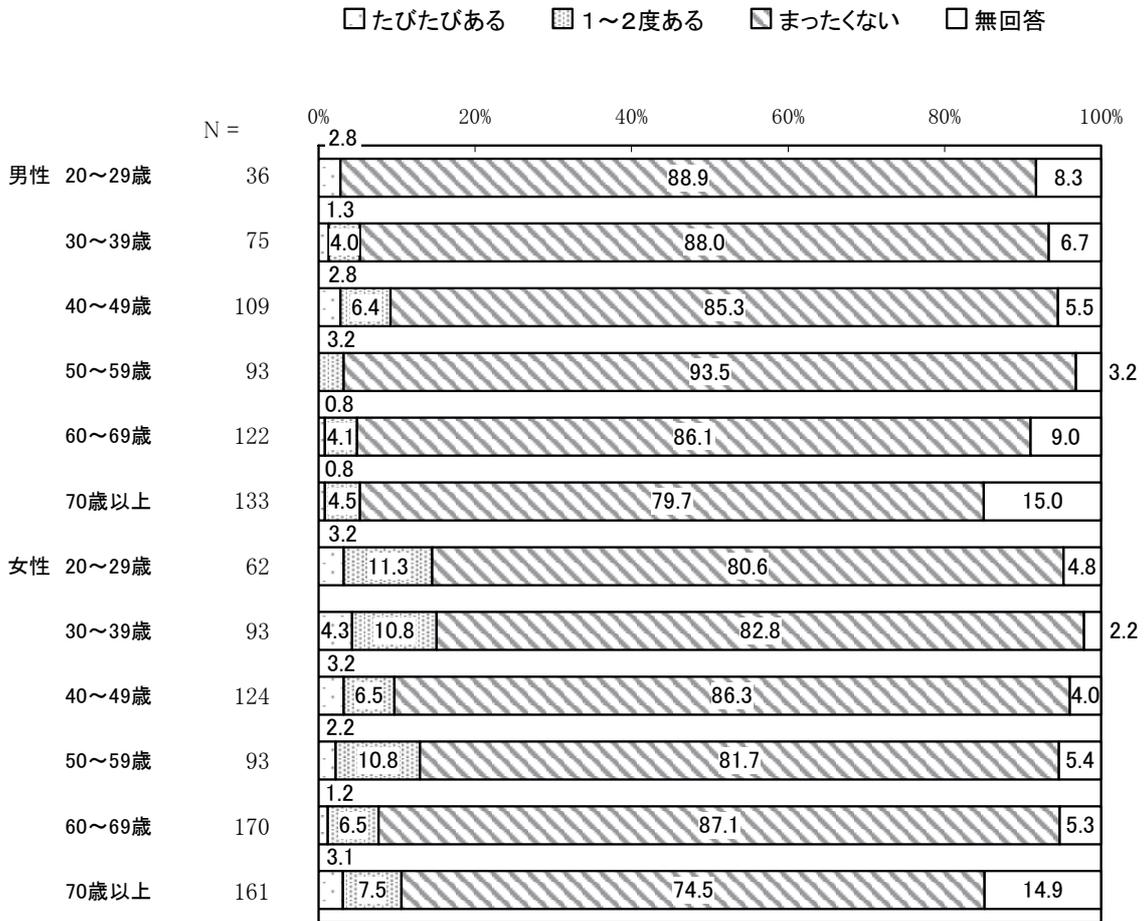
【性別】

性別で見ると、男性に比べ女性で“ある”の割合が高くなっています。



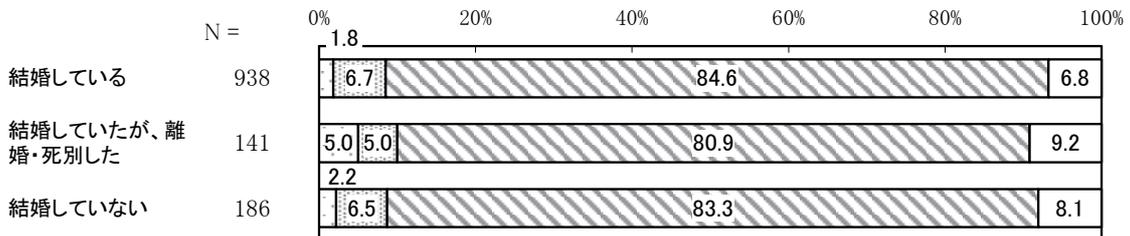
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の20～39歳、50～59歳で“ある”の割合が高くなっています。



【婚姻の有無別】

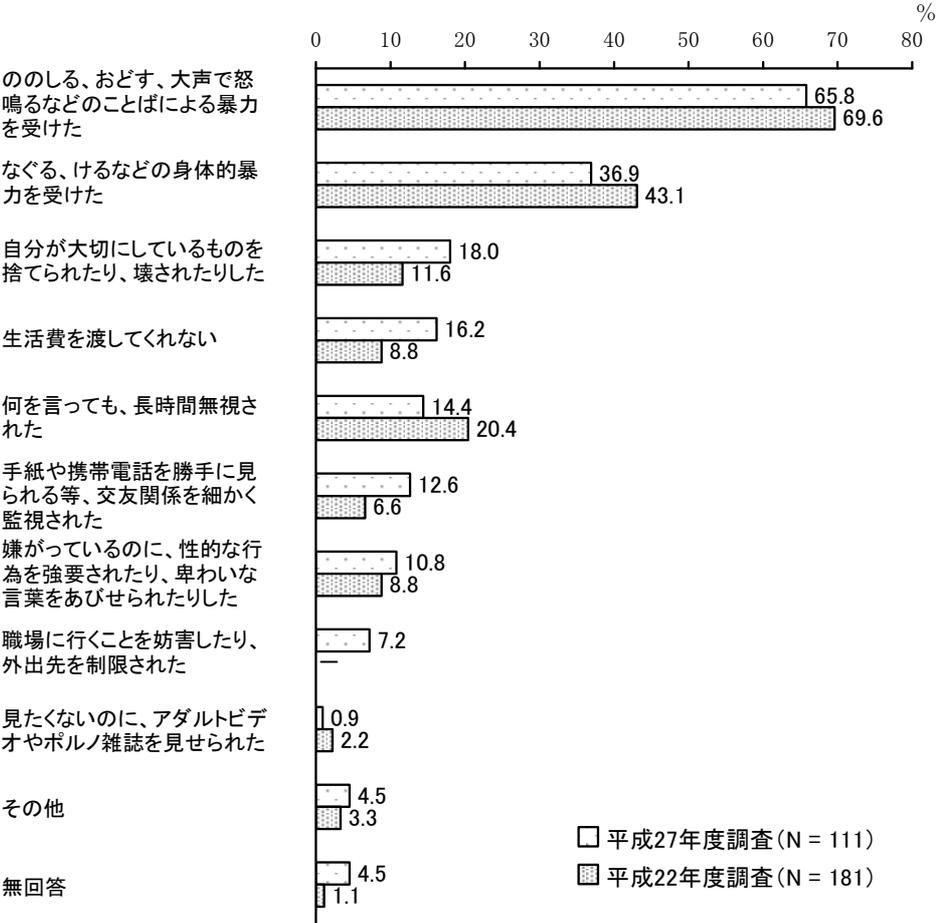
婚姻の有無別で見ると、大きな差異はみられません。



問 21. (問 20 で「1. たびたびある」「2. 1～2度ある」と回答した方に)
 どのようなDVを受けましたか。(〇印いくつでも)

「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が 65.8%と最も高く、次いで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が 36.9%、「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が 18.0%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が 6.4 ポイント、「生活費を渡してくれない」の割合が 7.4 ポイント、「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」の割合が 6.0 ポイント増加しています。一方、「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が 6.2 ポイント、「何を言っても、長時間無視された」の割合が 6.0 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」「生活費を渡してくれない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
男性	31	25.8	74.2	12.9	12.9	6.5	—	3.2	19.4	6.5	—	3.2
女性	77	42.9	63.6	15.6	11.7	11.7	1.3	22.1	16.9	7.8	5.2	5.2

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の20～29歳、60歳以上で「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の30～39歳で「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の40～59歳で「何を言っても、長時間無視された」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の40～49歳で「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」の割合が高くなっています。女性の40～49歳で「嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、50歳以上で「生活費を渡してくれない」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
男性 20～29歳	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	—	—	—	25.0	—	—
40～49歳	10	40.0	90.0	20.0	30.0	10.0	—	10.0	10.0	10.0	—	—
50～59歳	3	33.3	66.7	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—
60～69歳	6	33.3	83.3	16.7	—	—	—	—	33.3	—	—	—
70歳以上	7	—	71.4	—	—	—	—	—	28.6	—	—	14.3
女性 20～29歳	9	55.6	55.6	22.2	22.2	—	—	22.2	11.1	—	11.1	—
30～39歳	14	35.7	85.7	—	21.4	7.1	—	28.6	35.7	14.3	—	—
40～49歳	12	33.3	58.3	33.3	25.0	41.7	—	8.3	8.3	—	8.3	8.3
50～59歳	12	33.3	33.3	25.0	—	—	8.3	25.0	8.3	16.7	16.7	8.3
60～69歳	13	46.2	76.9	7.7	7.7	7.7	—	23.1	30.8	7.7	—	7.7
70歳以上	17	52.9	64.7	11.8	—	11.8	—	23.5	5.9	5.9	—	5.9

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると、結婚していたが、離婚・死別したで「なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた」「ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた」「手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された」「嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした」「生活費を渡してくれない」「自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした」「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された」の割合が高くなっています。

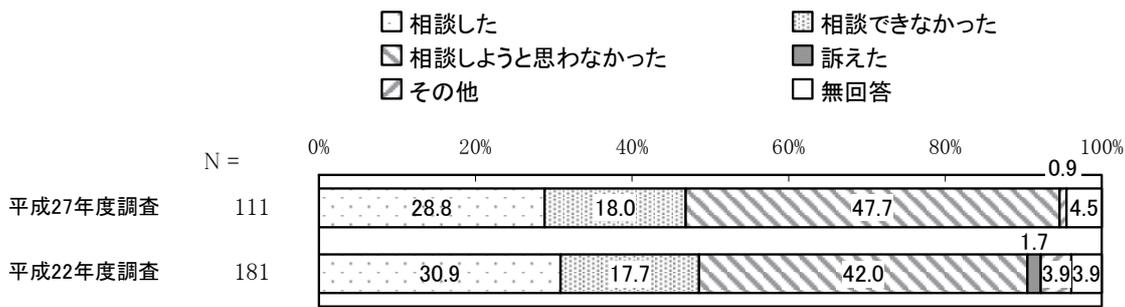
単位：％

区分	有効回答数(件)	なぐる、けるなどの身体的暴力を受けた	ののしる、おどす、大声で怒鳴るなどのことばによる暴力を受けた	何を言っても、長時間無視された	手紙や携帯電話を勝手に見られる等、交友関係を細かく監視された	嫌がっているのに、性的な行為を強要されたり、卑わいな言葉をあびせられたりした	見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた	生活費を渡してくれない	自分が大切にしているものを捨てられたり、壊されたりした	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限された	その他	無回答
結婚している	80	37.5	65.0	12.5	10.0	7.5	1.3	15.0	15.0	5.0	2.5	5.0
結婚していたが、離婚・死別した	14	57.1	85.7	7.1	28.6	28.6	—	35.7	42.9	21.4	7.1	7.1
結婚していない	16	18.8	56.3	25.0	12.5	12.5	—	6.3	12.5	6.3	12.5	—

問 22. (問 20 で「1. たびたびある」「2. 1～2度ある」と回答した方に)
DVを受けた場合に誰かに打ち明けたりしましたか。(○印1つ)

「相談しようと思わなかった」の割合が47.7%と最も高く、次いで「相談した」の割合が28.8%、「相談できなかった」の割合が18.0%となっています。

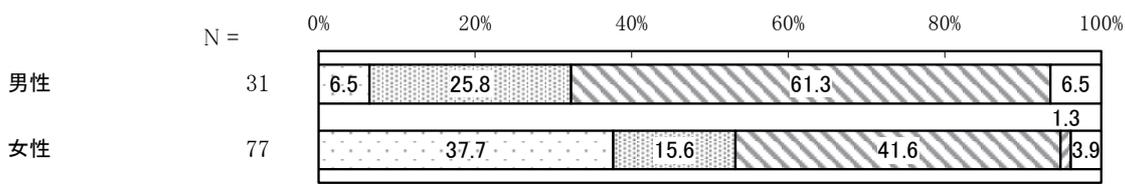
平成22年度調査と比較すると、「相談しようと思わなかった」の割合が5.7ポイント増加しています。



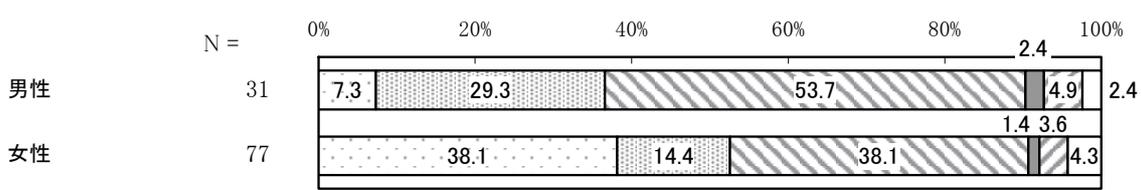
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「相談できなかった」「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「相談した」の割合が高くなっています。

平成22年度調査と比較すると、男性で「相談しようと思わなかった」の割合が7.6ポイント増加しています。

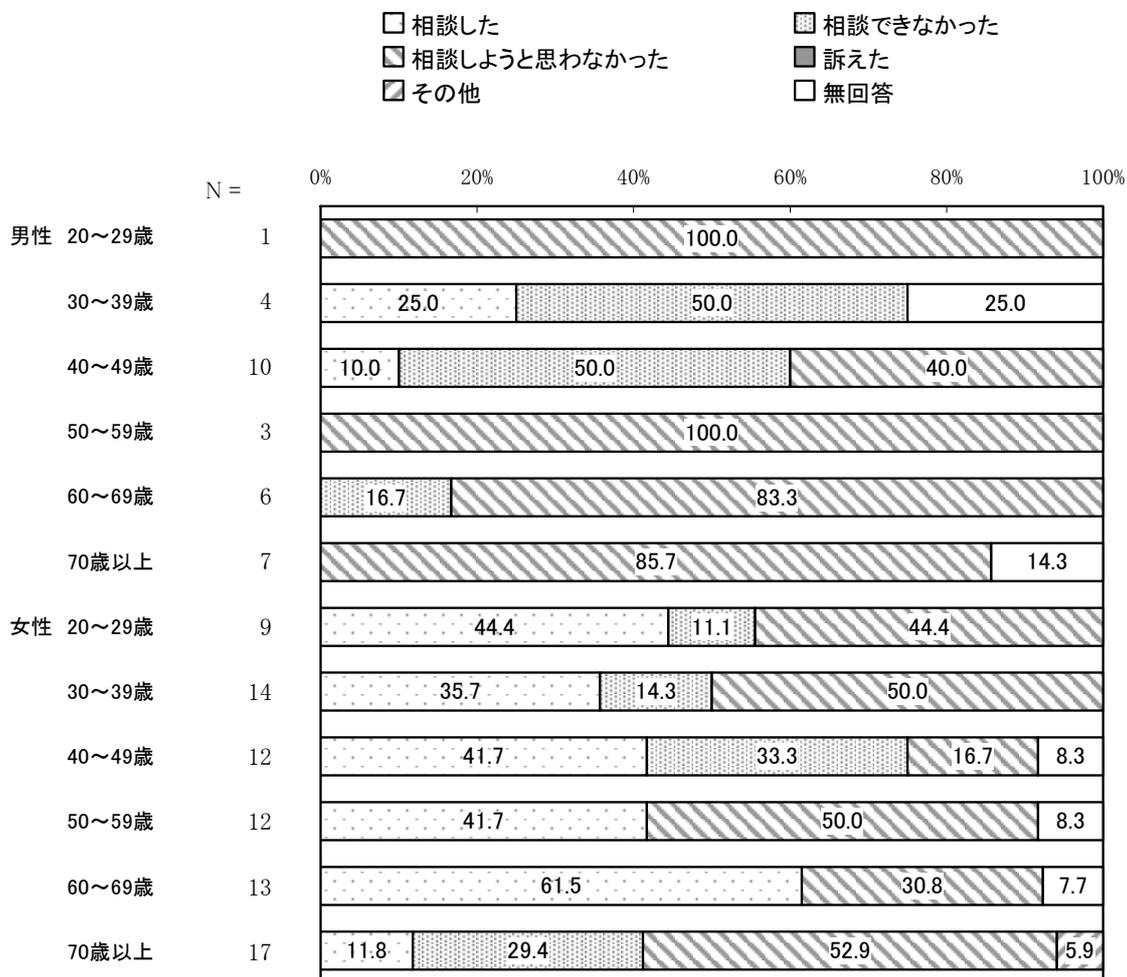


【性別（平成22年度調査）】



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の60～69歳で「相談した」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の40～49歳、70歳以上で「相談できなかった」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、50～59歳、70歳以上で「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。



【婚姻の有無別】

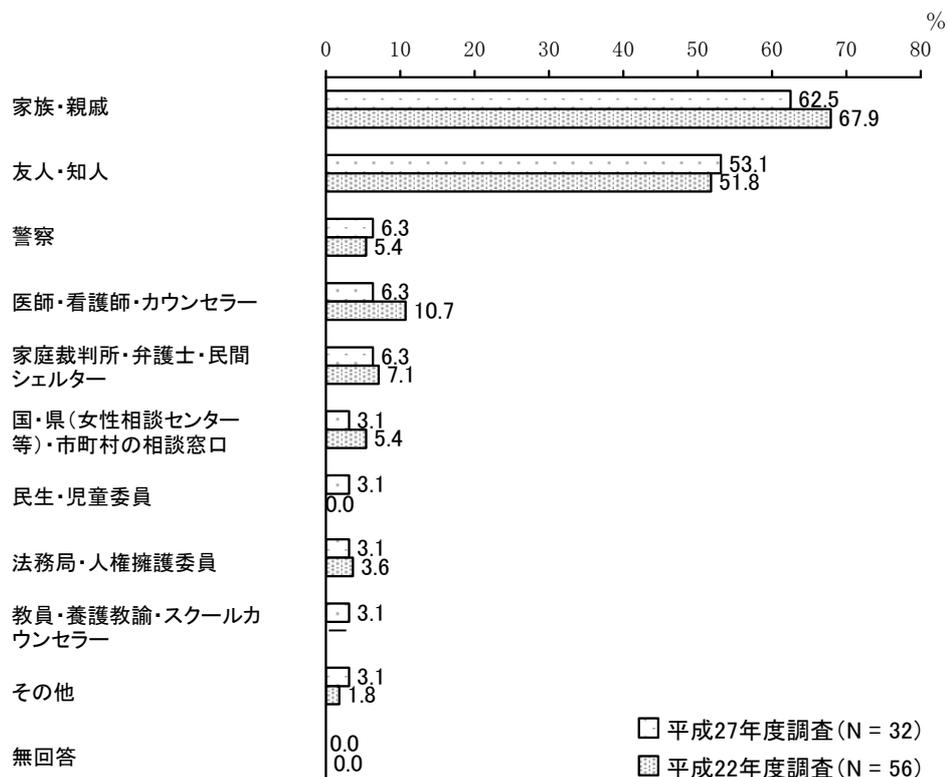
婚姻の有無別で見ると、結婚していたが、離婚・死別したで「相談した」の割合が高くなっています。一方、結婚している、結婚していないで「相談しようと思わなかった」の割合が高くなっています。



問 23. (問 22 で「1. 相談した」と回答した方に)
誰(どこ)に相談しましたか。(〇印いくつでも)

「家族・親戚」の割合が 62.5%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 53.1%となっています。

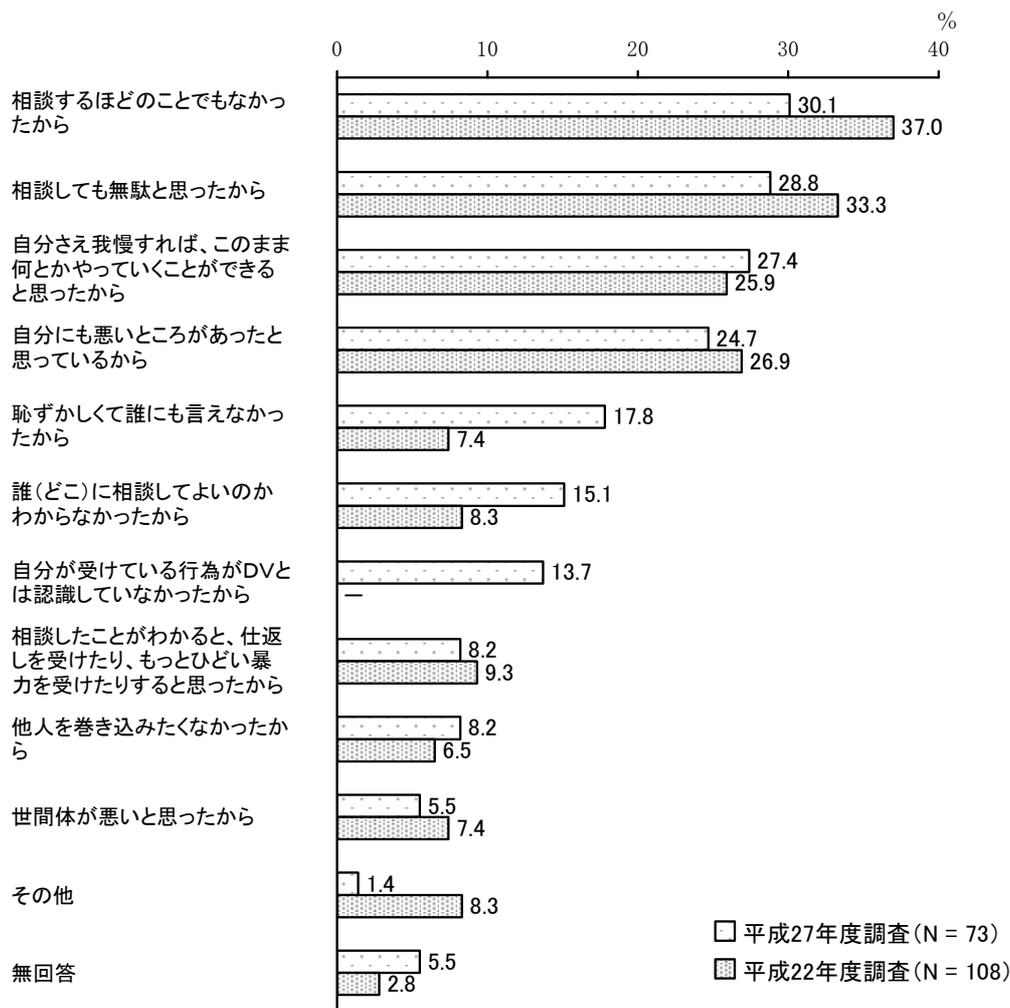
平成 22 年度調査と比較すると、「家族・親戚」の割合が 5.4 ポイント減少しています。「民生・児童委員」が 0%から 3.1%に増加しています。



問 24. (問 21 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようと思わなかった」と回答した方に) その理由はなぜですか。(〇印いくつでも)

「相談するほどのことでもなかったから」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「相談しても無駄と思ったから」の割合が 28.8%、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」の割合が 27.4%となっています。

平成 22 年度調査と比較すると、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」の割合が 10.4 ポイント、「誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから」の割合が 6.8 ポイント増加しています。一方、「相談するほどのことでもなかったから」の割合が 6.9 ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「相談しても無駄と思ったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」「相談するほどのことでもなかったから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあったと思っているから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相談するほどのことでもなかったから	その他	無回答
男性	27	11.1	18.5	33.3	11.1	25.9	3.7	11.1	25.9	18.5	33.3	—	7.4
女性	44	18.2	18.2	27.3	6.8	29.5	6.8	6.8	25.0	11.4	27.3	—	4.5

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別でみると、結婚しているで「相談するほどのことでもなかったから」の割合が高くなっています。また、結婚していないで「相談しても無駄と思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから」「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」「世間体が悪いと思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。

単位：%

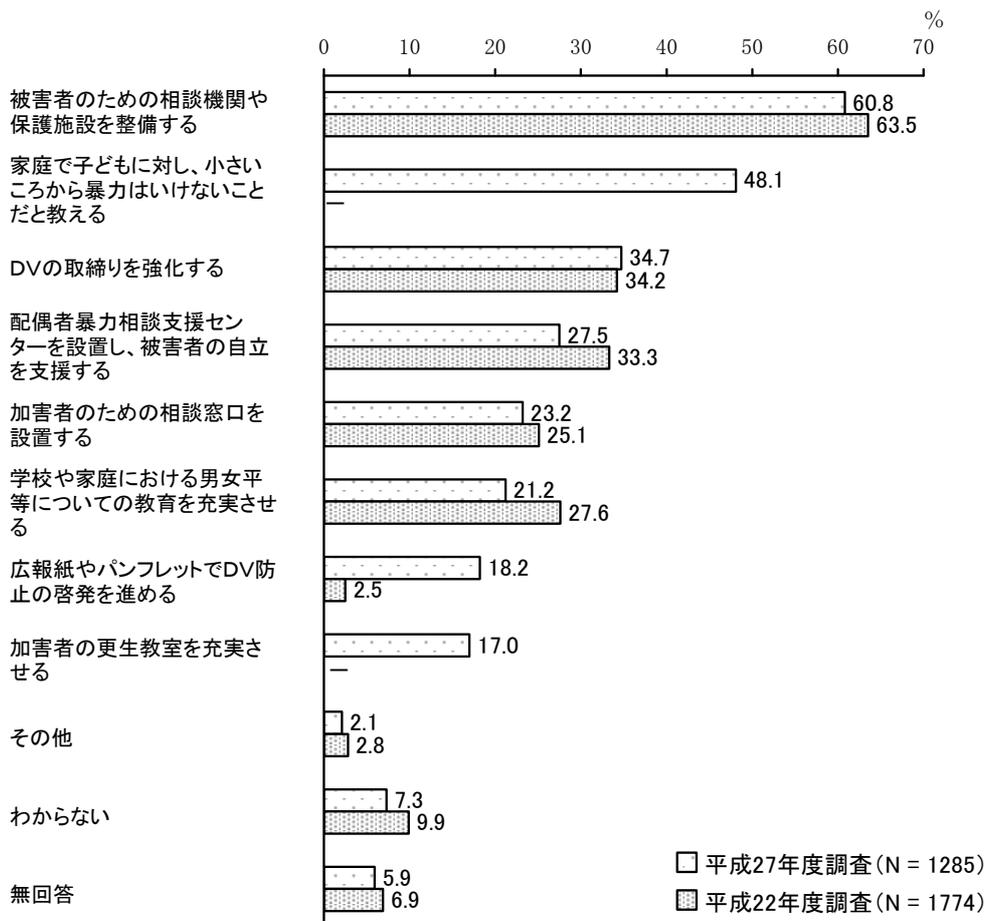
区分	有効回答数(件)	誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄と思ったから	相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから	世間体が悪いと思ったから	他人を巻き込みたくなかったから	自分にも悪いところがあったと思っているから	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから	相談するほどのことでもなかったから	その他	無回答
結婚している	56	14.3	17.9	23.2	3.6	25.0	1.8	3.6	28.6	10.7	33.9	—	5.4
結婚していたが、離婚・死別した	4	—	—	50.0	—	25.0	—	—	—	—	25.0	—	25.0
結婚していない	12	25.0	25.0	41.7	33.3	41.7	25.0	33.3	16.7	33.3	16.7	8.3	—

問 25. すべての方にお聞きします。

DVを防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が60.8%と最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が48.1%、「DVの取締りを強化する」の割合が34.7%となっています。

平成22年度調査と比較すると、「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」の割合が15.7ポイント増加しています。一方、「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」の割合が5.8ポイント、「学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる」の割合が6.4ポイント減少しています。



【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	広報紙やパンフレットの啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
男性	568	21.7	37.5	59.5	22.2	25.0	20.6	44.0	14.6	2.5	5.6	6.7
女性	704	15.2	32.5	62.1	24.1	29.8	21.6	51.1	18.9	1.8	8.7	5.1

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の70歳以上で「広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める」の割合が高くなっています。男性の20～49歳、女性の20～29歳で「DVの取締りを強化する」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～59歳で「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、40～49歳で「加害者のための相談窓口を設置する」の割合が高くなっています。女性の40～49歳、60～69歳で「配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる」の割合が高くなっています。男性の70歳以上、女性の60～69歳で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～49歳で「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
男性 20～29歳	36	22.2	55.6	58.3	27.8	19.4	33.3	41.7	27.8	—	8.3	5.6
30～39歳	75	12.0	45.3	57.3	18.7	17.3	17.3	32.0	18.7	2.7	4.0	5.3
40～49歳	109	22.9	40.4	63.3	25.7	26.6	17.4	35.8	12.8	4.6	7.3	3.7
50～59歳	93	17.2	37.6	63.4	24.7	19.4	12.9	48.4	17.2	2.2	5.4	4.3
60～69歳	122	22.1	31.1	65.6	22.1	27.9	21.3	45.9	9.8	3.3	4.9	6.6
70歳以上	133	28.6	31.6	49.6	18.0	30.8	26.3	53.4	12.8	0.8	5.3	12.0
女性 20～29歳	62	12.9	43.5	71.0	29.0	24.2	25.8	46.8	33.9	8.1	11.3	—
30～39歳	93	8.6	38.7	54.8	19.4	29.0	18.3	52.7	26.9	2.2	9.7	—
40～49歳	124	7.3	39.5	78.2	29.0	35.5	21.8	46.0	26.6	1.6	6.5	1.6
50～59歳	93	12.9	30.1	67.7	26.9	22.6	20.4	48.4	17.2	1.1	6.5	2.2
60～69歳	170	20.6	29.4	65.3	24.7	34.7	22.4	57.6	12.9	0.6	5.9	4.1
70歳以上	161	21.7	23.6	44.1	19.3	27.3	21.7	50.3	9.9	1.2	13.0	15.5

【婚姻の有無別】

婚姻の有無別で見ると、結婚していないで「DVの取締りを強化する」「加害者の更生教室を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：％

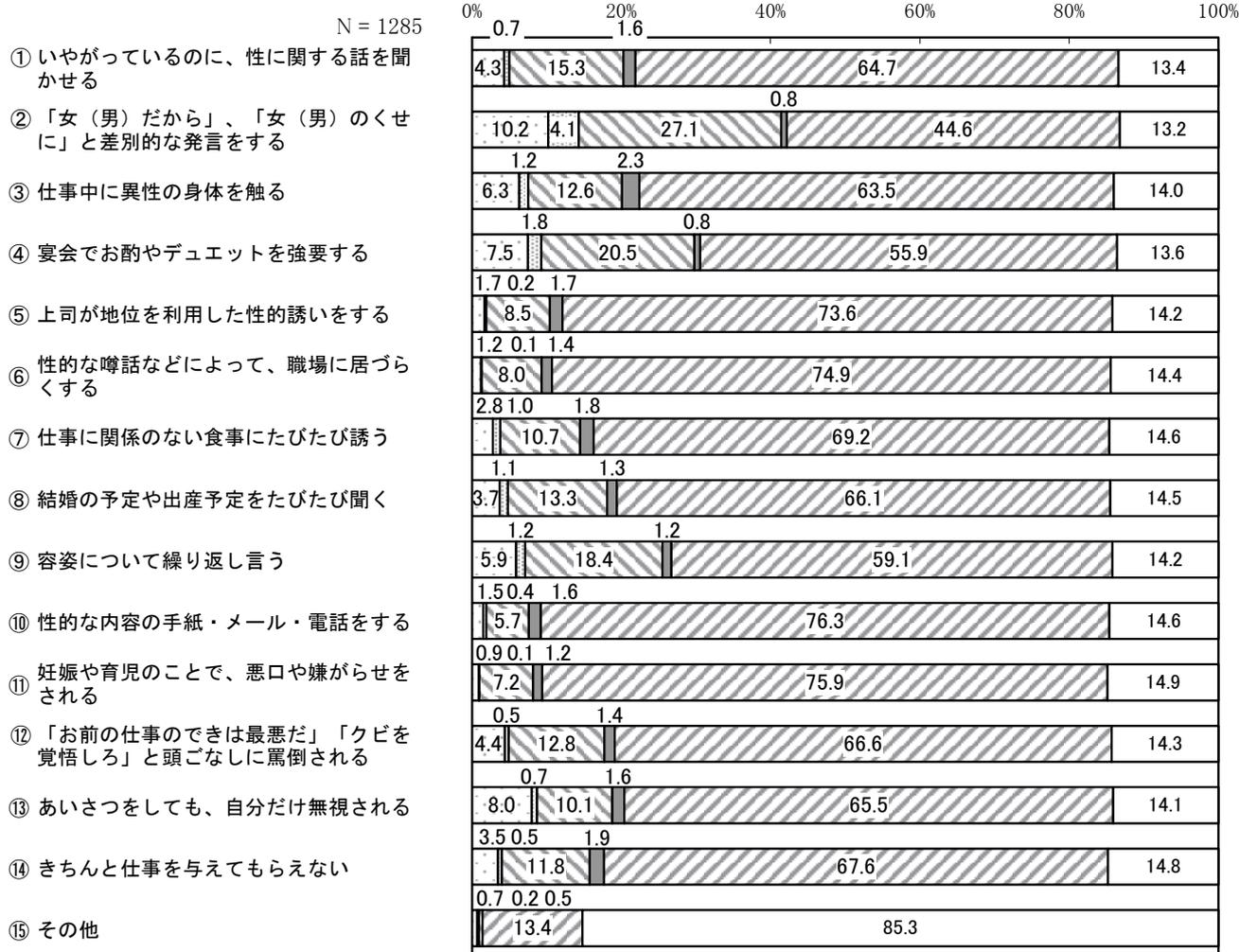
区分	有効回答数（件）	広報紙やパンフレットでDV防止の啓発を進める	DVの取締りを強化する	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	加害者のための相談窓口を設置する	配偶者暴力相談支援センターを設置し、被害者の自立を支援する	学校や家庭における男女平等についての教育を充実させる	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	加害者の更生教室を充実させる	その他	わからない	無回答
結婚している	938	18.9	33.3	62.4	23.0	29.5	21.7	50.1	17.3	1.9	6.4	5.2
結婚していたが、離婚・死別した	141	17.0	34.8	55.3	21.3	27.7	17.7	53.9	9.2	2.1	10.6	7.8
結婚していない	186	16.7	41.9	58.6	24.7	17.7	21.5	36.0	22.6	3.2	9.7	5.9

(7) セクシュアル・ハラスメントについて

問 26. あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。
(○印①～⑮の項目ごとに1つずつ)

「受けたことがある」で「② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」の割合が1割を超えています。「見聞きしたことがある」で「② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする」「④ 宴会でお酌やデュエットを強要する」の割合が2割を超えています。

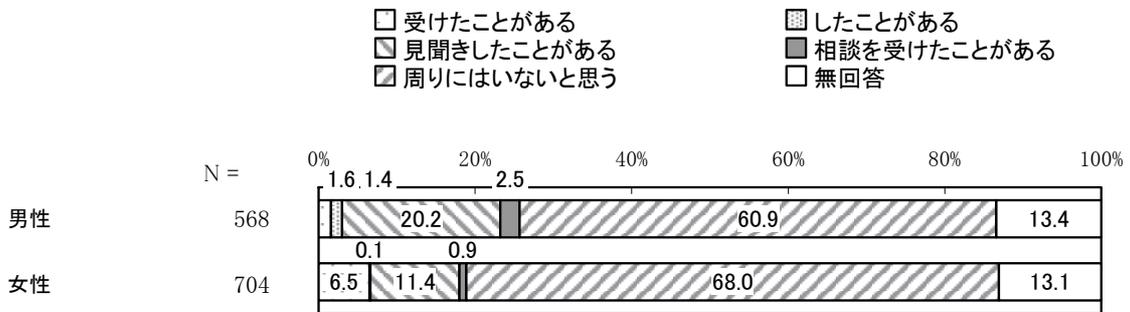
受けたことがある
 見聞きしたことがある
 周りにはいないと思う
 したことがある
 相談を受けたことがある
 無回答



① いやがっているのに、性に関する話を聞かせる

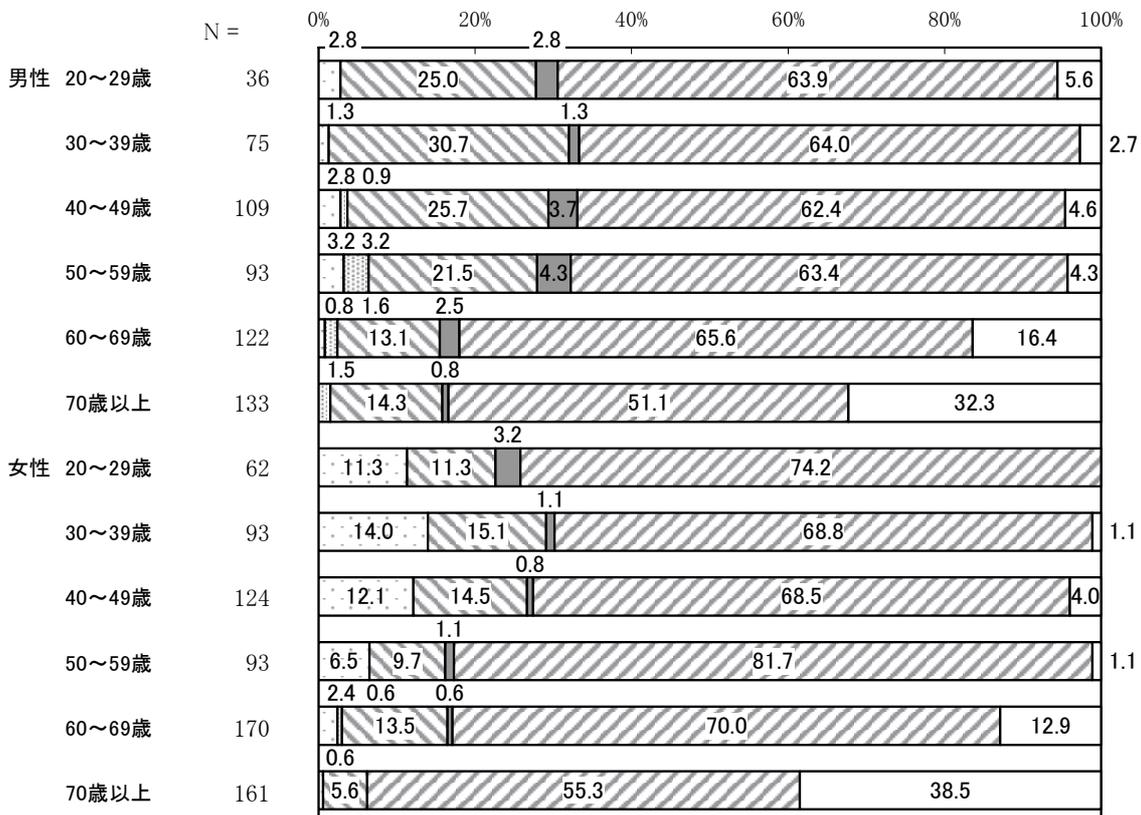
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

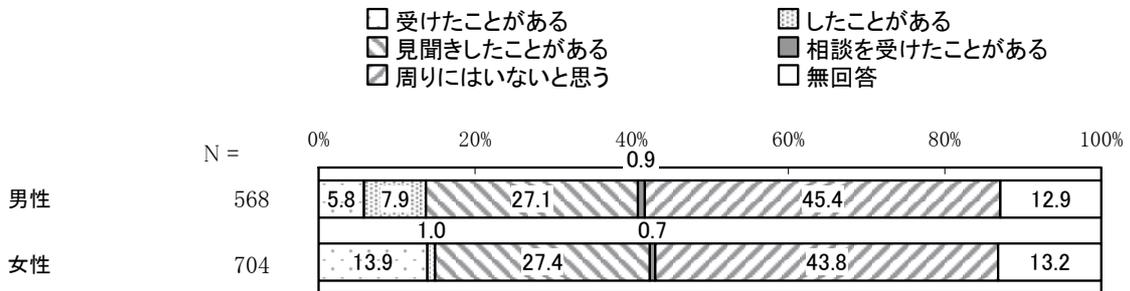
性・年齢別でみると、女性の20～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳、50～59歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



② 「女（男）だから」、「女（男）のくせに」と差別的な発言をする

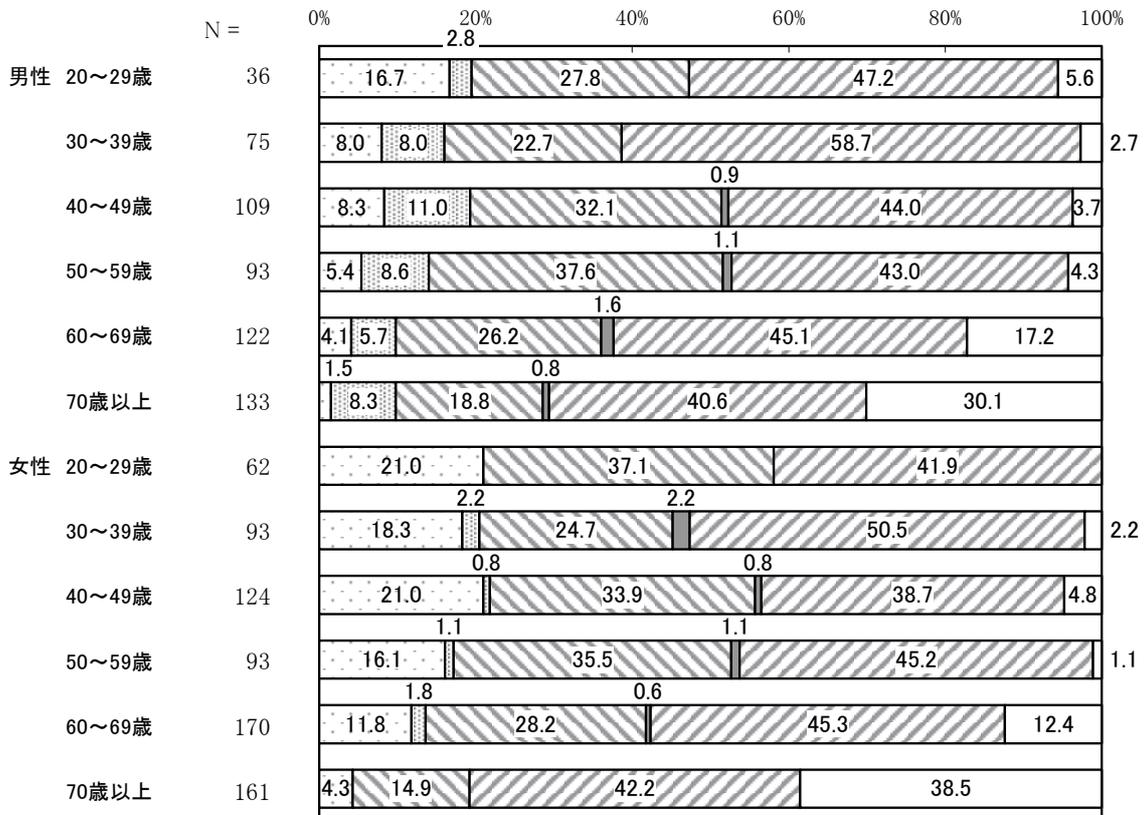
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

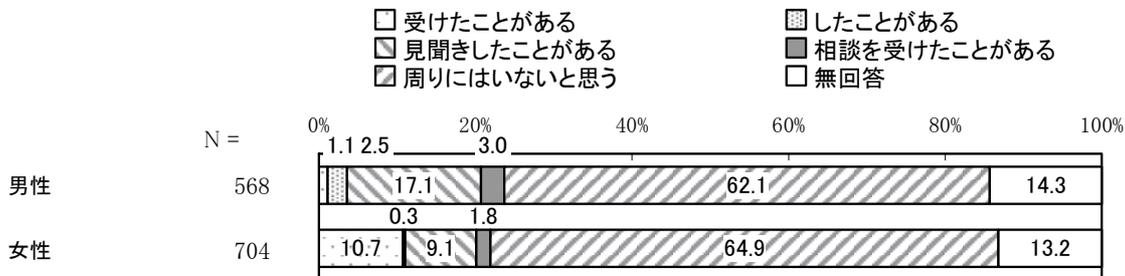
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「したことがある」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の20～29歳、40～59歳で「聞いたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の30～39歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



③ 仕事中に異性の身体を触る

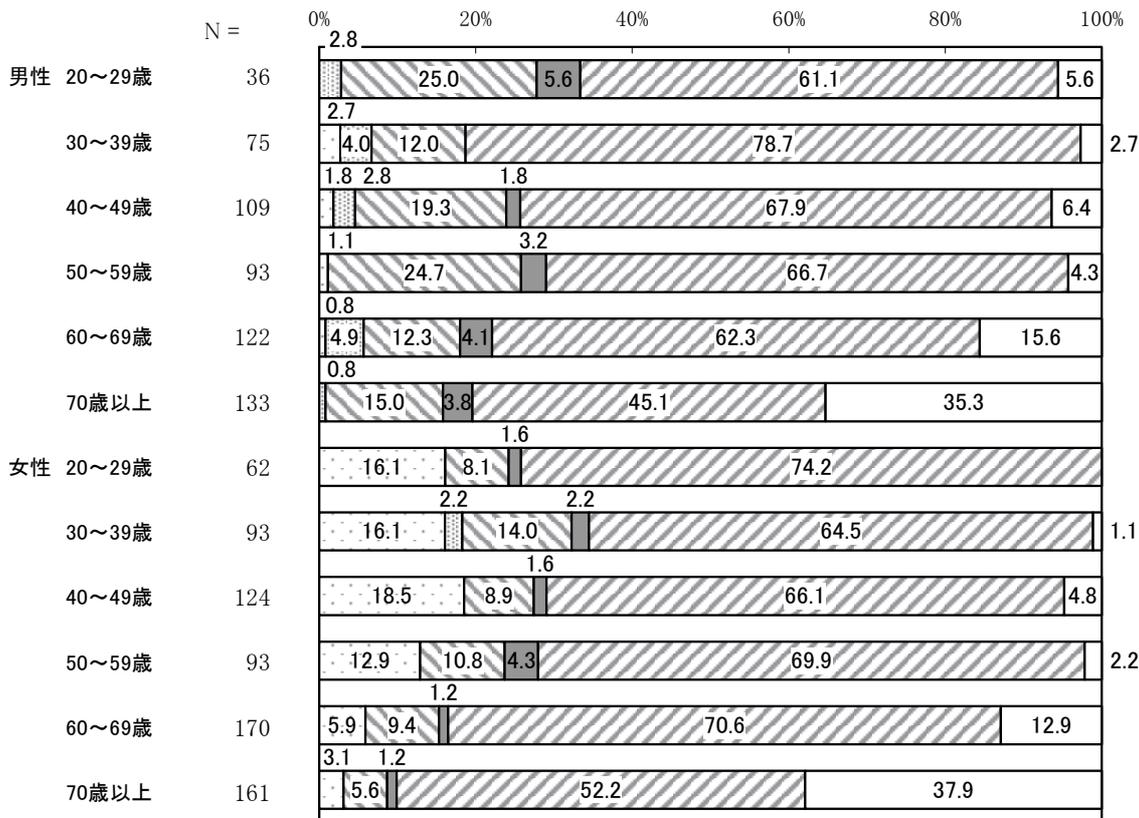
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

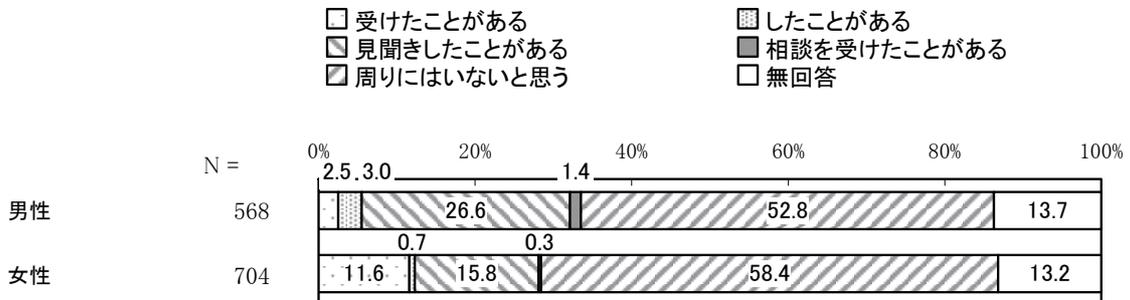
性・年齢別でみると、女性の20～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～29歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



④ 宴会でお酌やデュエットを強要する

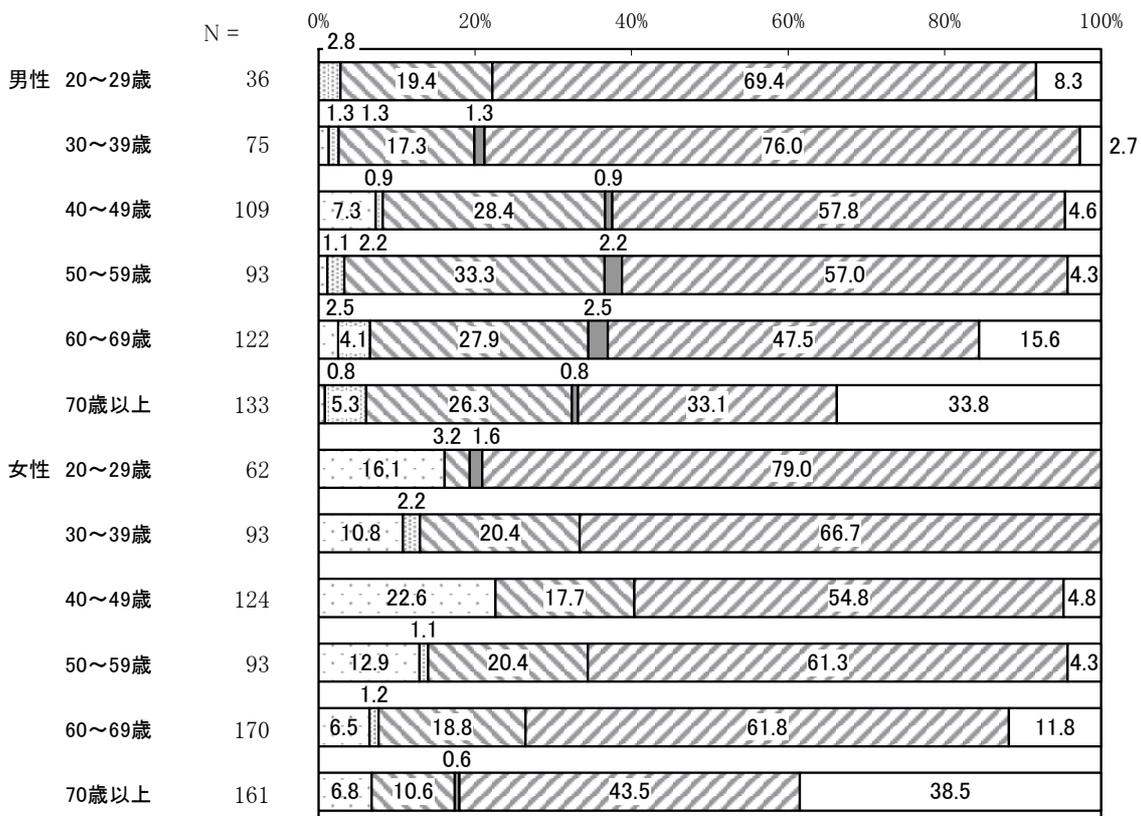
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

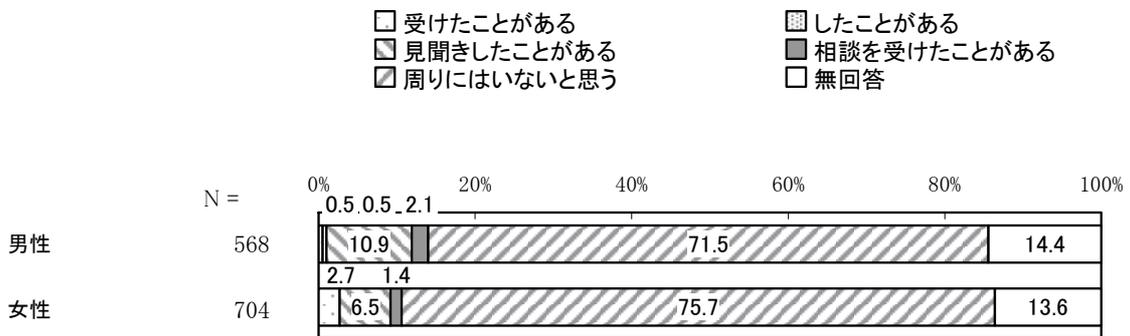
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～59歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の40歳以上で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、女性の20～39歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑤ 上司が地位を利用した性的誘いをする

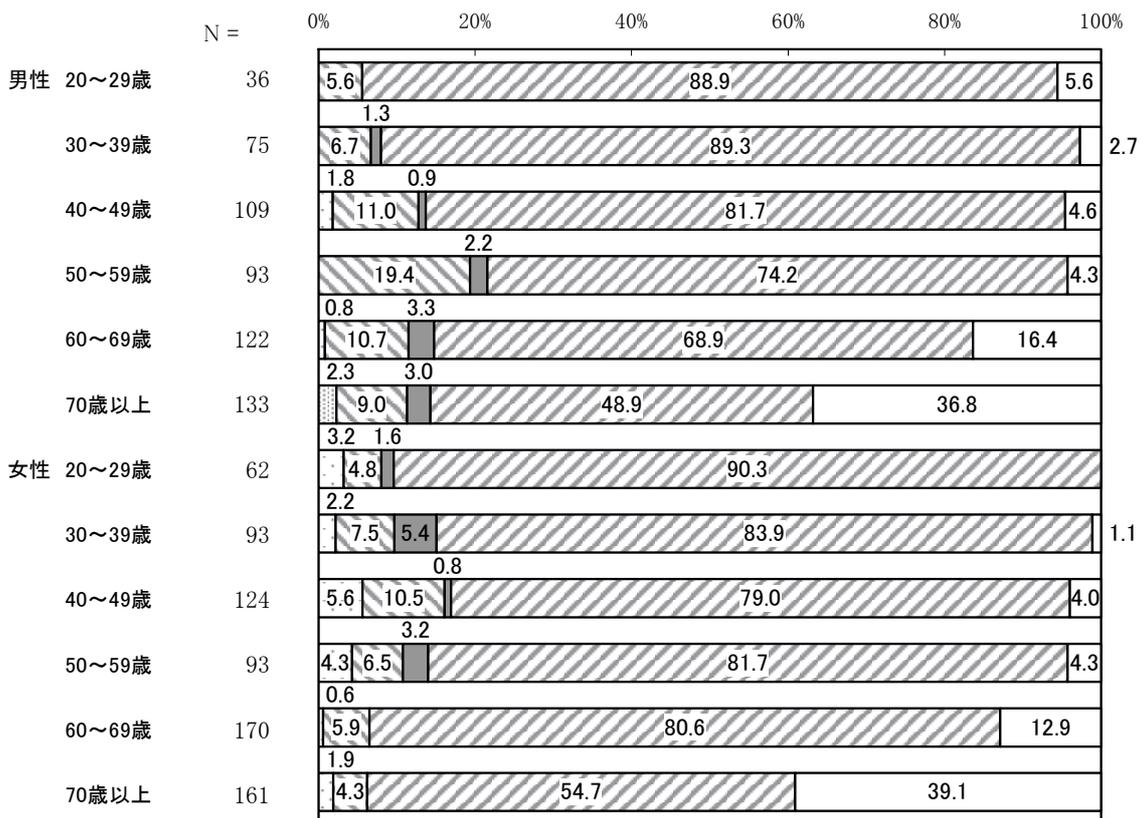
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

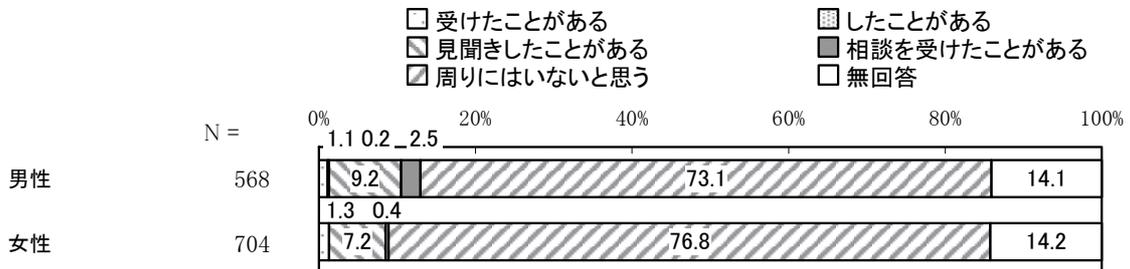
性・年齢別でみると、男性の 50～59 歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の 20～49 歳、女性の 20～69 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑥ 性的な噂話などによって、職場に居づらくする

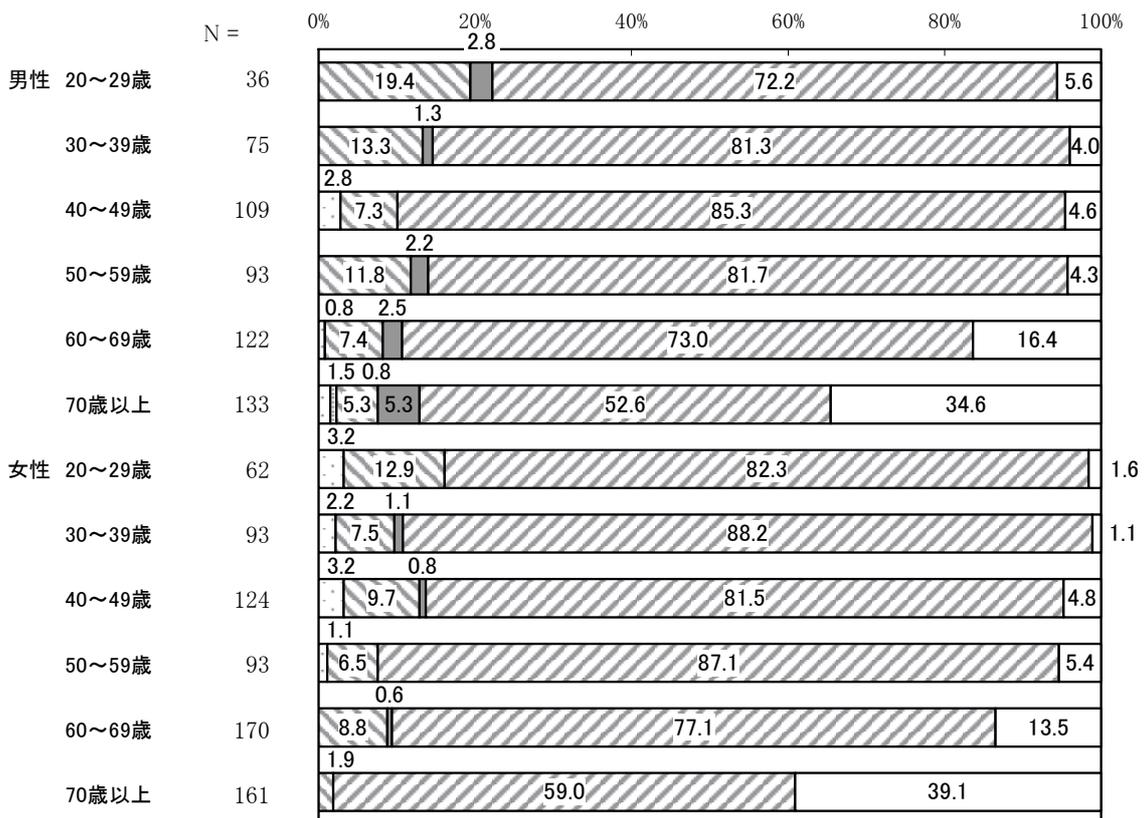
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

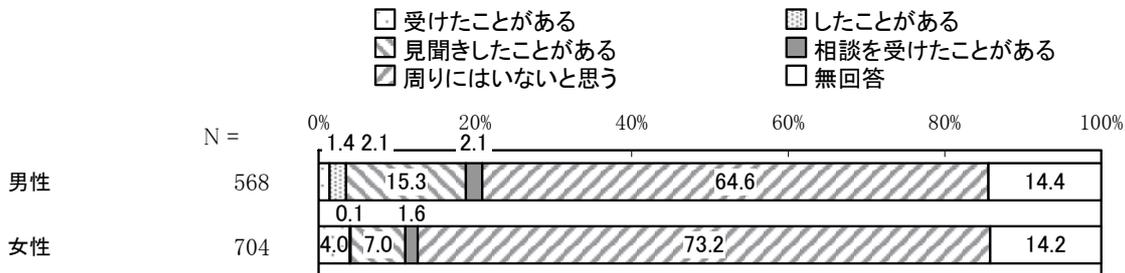
性・年齢別でみると、男性の20～39歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～59歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑦ 仕事に関係のない食事にたびたび誘う

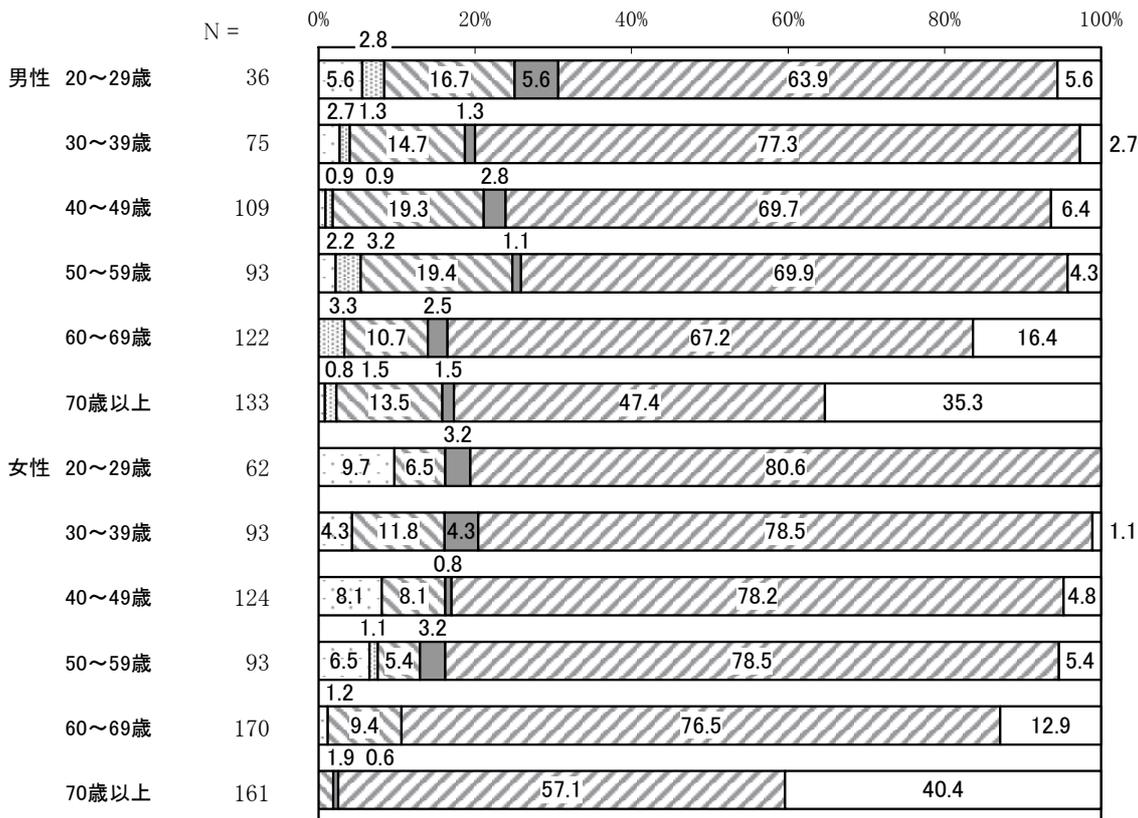
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

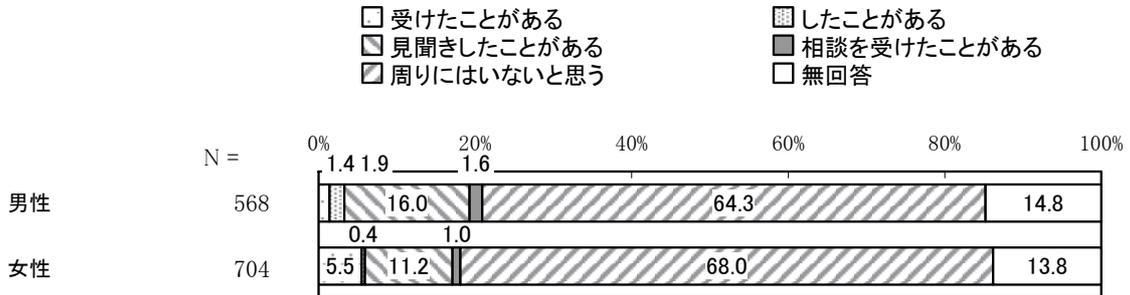
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、40～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の20～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑧ 結婚の予定や出産予定をたびたび聞く

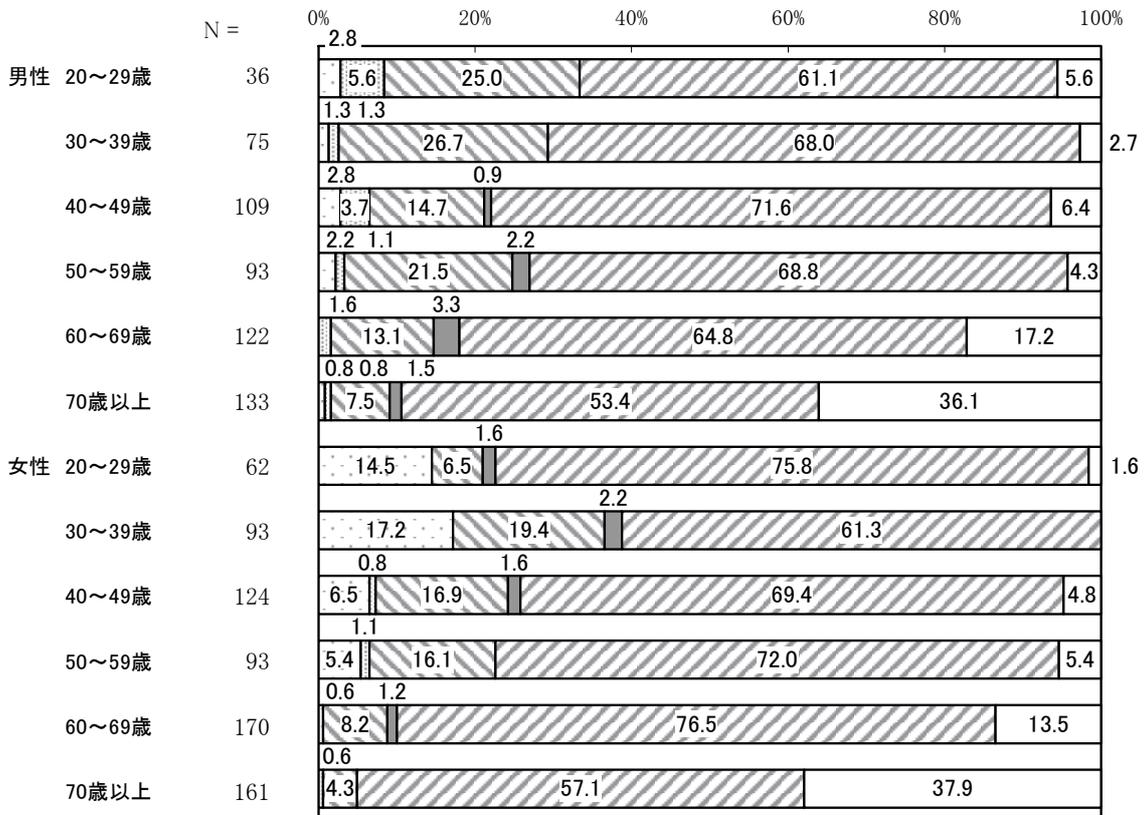
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

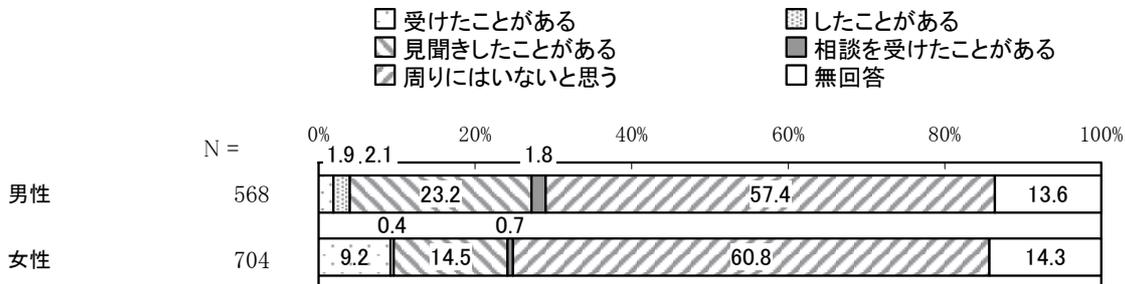
性・年齢別でみると、女性の20～39歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、50～59歳、女性の30～39歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の20～29歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑨ 容姿について繰り返し言う

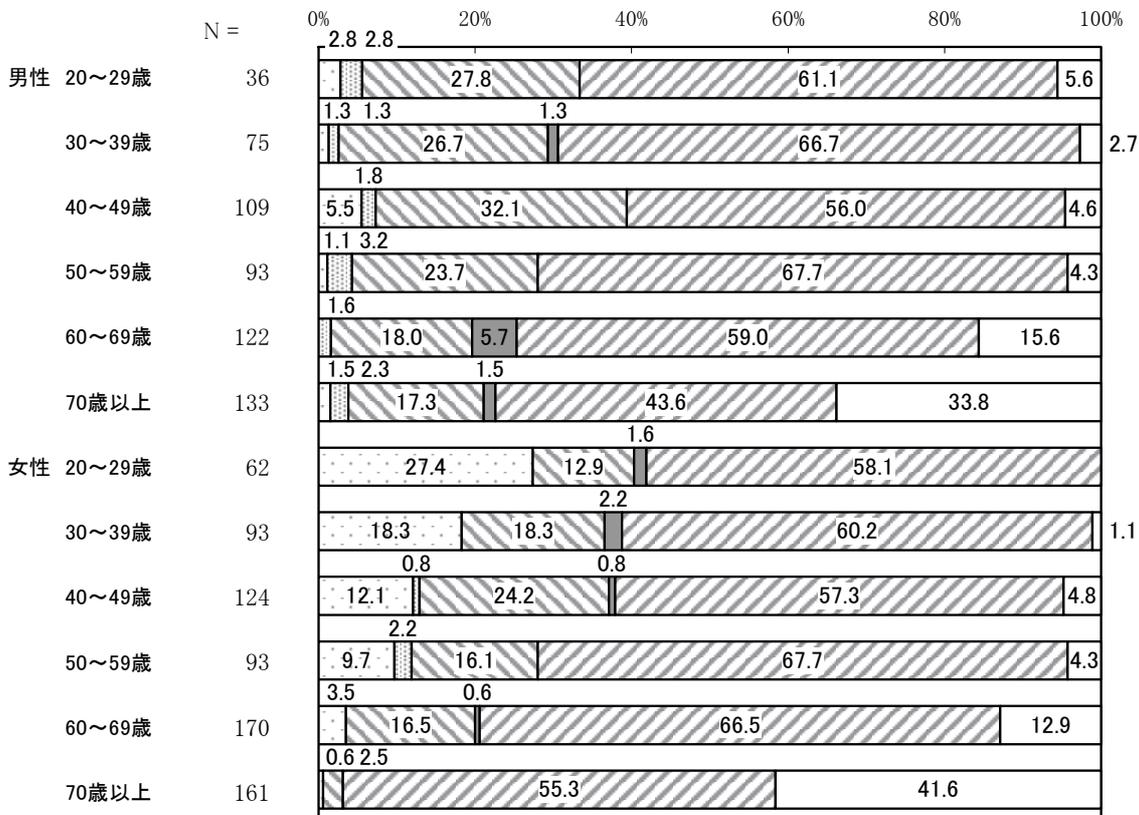
【性別】

性別でみると、女性に比べ男性で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「受けたことがある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

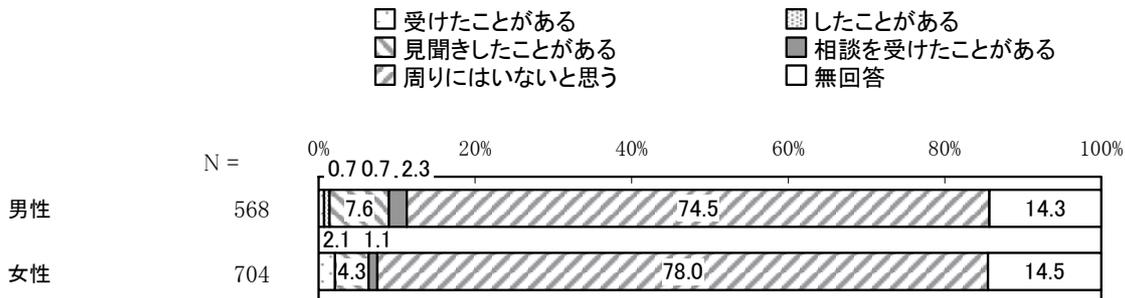
性・年齢別でみると、女性の20～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の40～49歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、50～59歳、女性の50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑩ 性的な内容の手紙・メール・電話をする

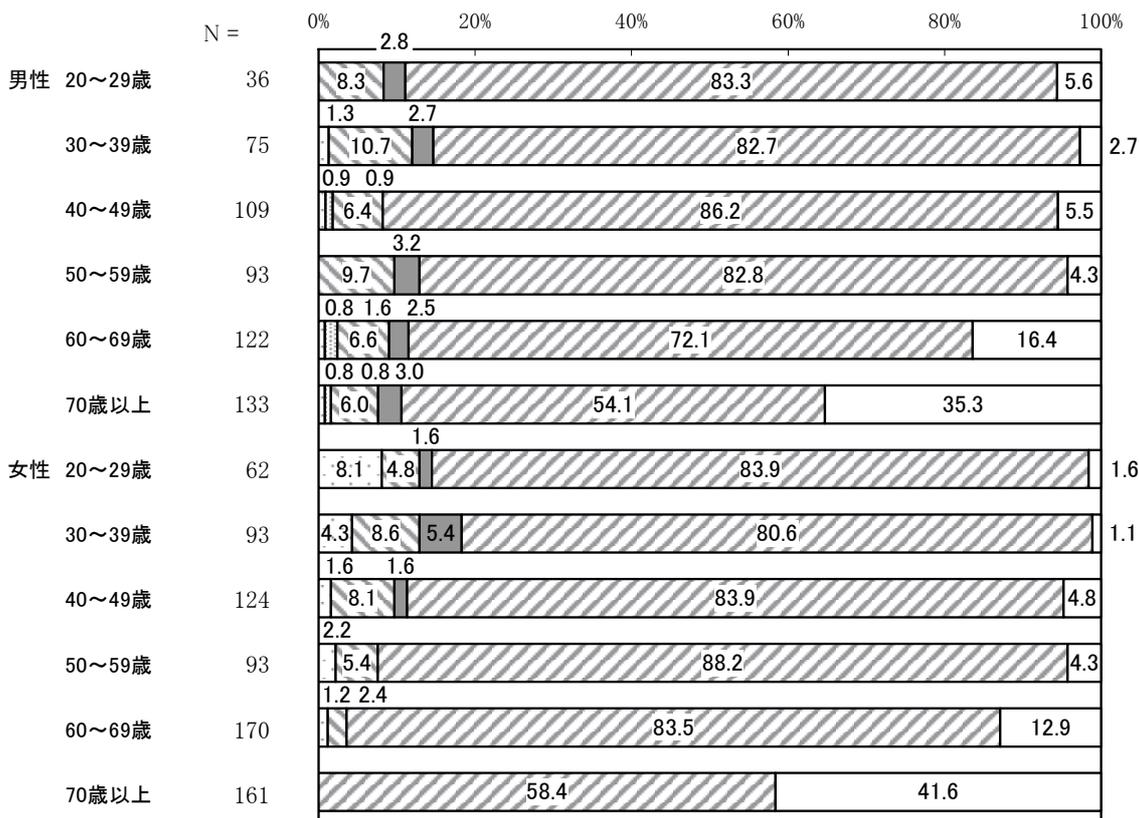
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

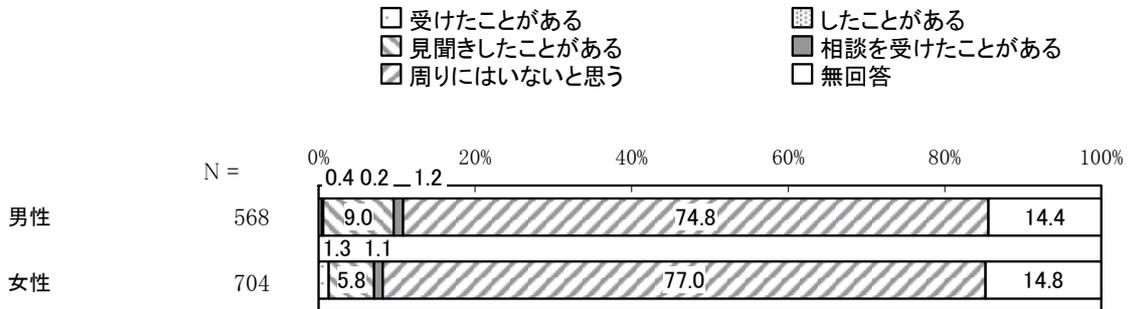
性・年齢別でみると、女性の20～29歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の20～29歳、40～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑪ 妊娠や育児のことで、悪口や嫌がらせをされる

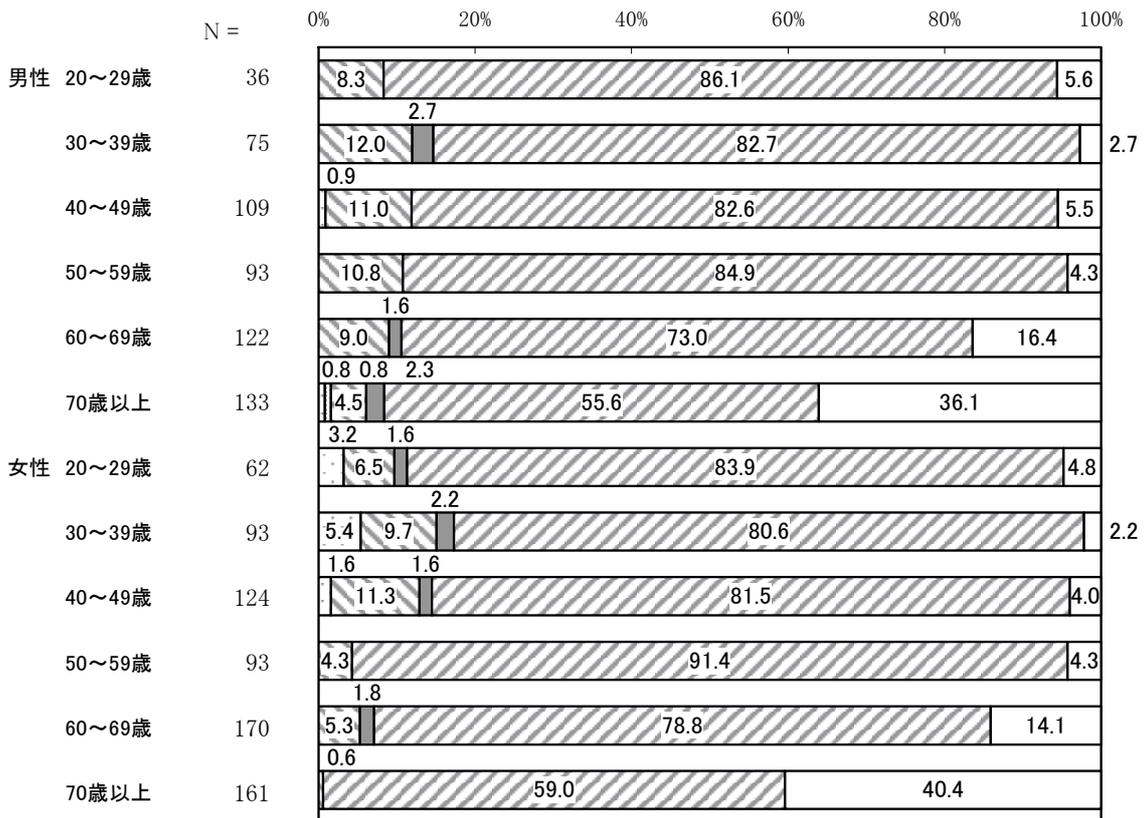
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

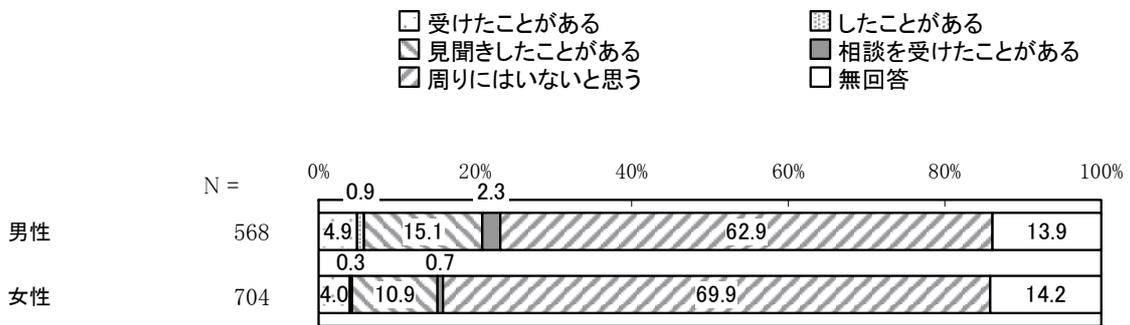
性・年齢別でみると、男性の20～59歳、女性の20～29歳、40～59歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑫ 「お前の仕事のできは最悪だ」「クビを覚悟しろ」と頭ごなしに罵倒される

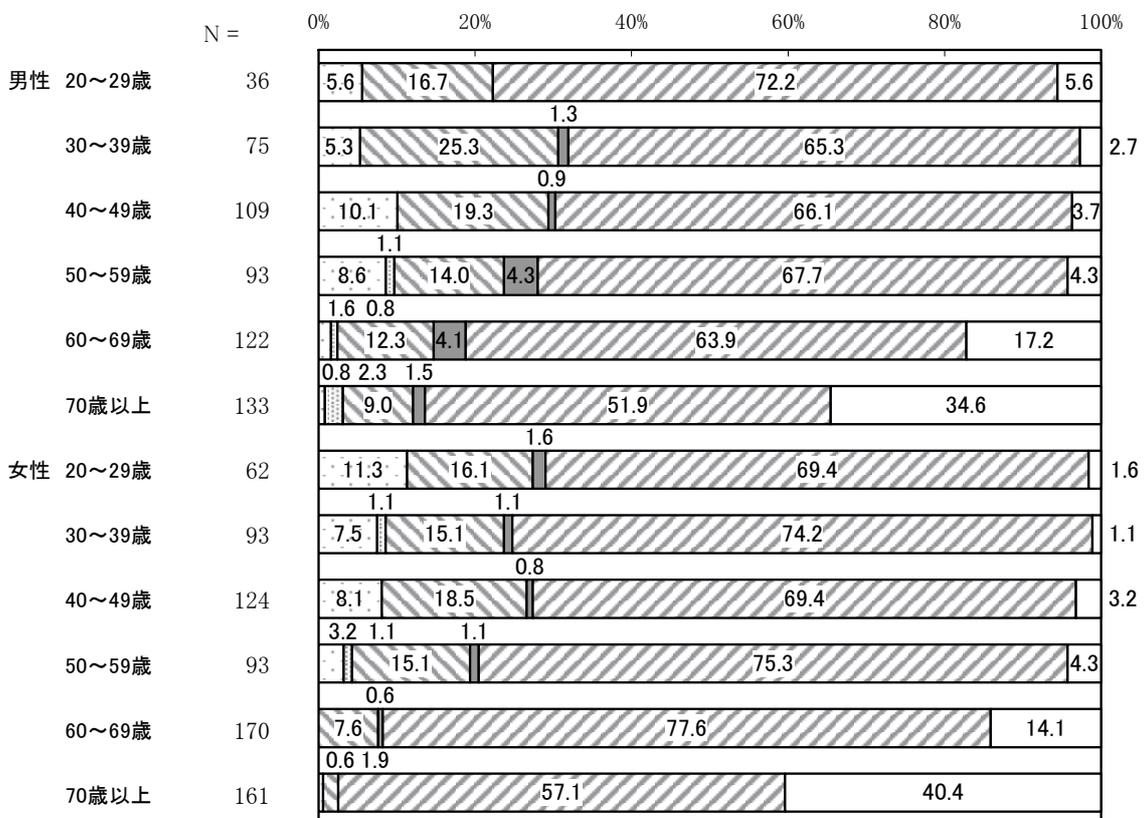
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

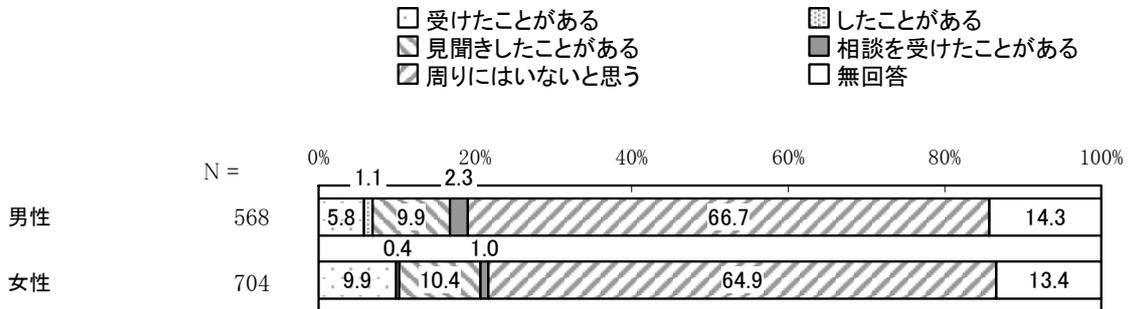
性・年齢別でみると、男性の40～49歳、女性の20～29歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、女性の40～49歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の30～39歳、50～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑬ あいさつをしても、自分だけ無視される

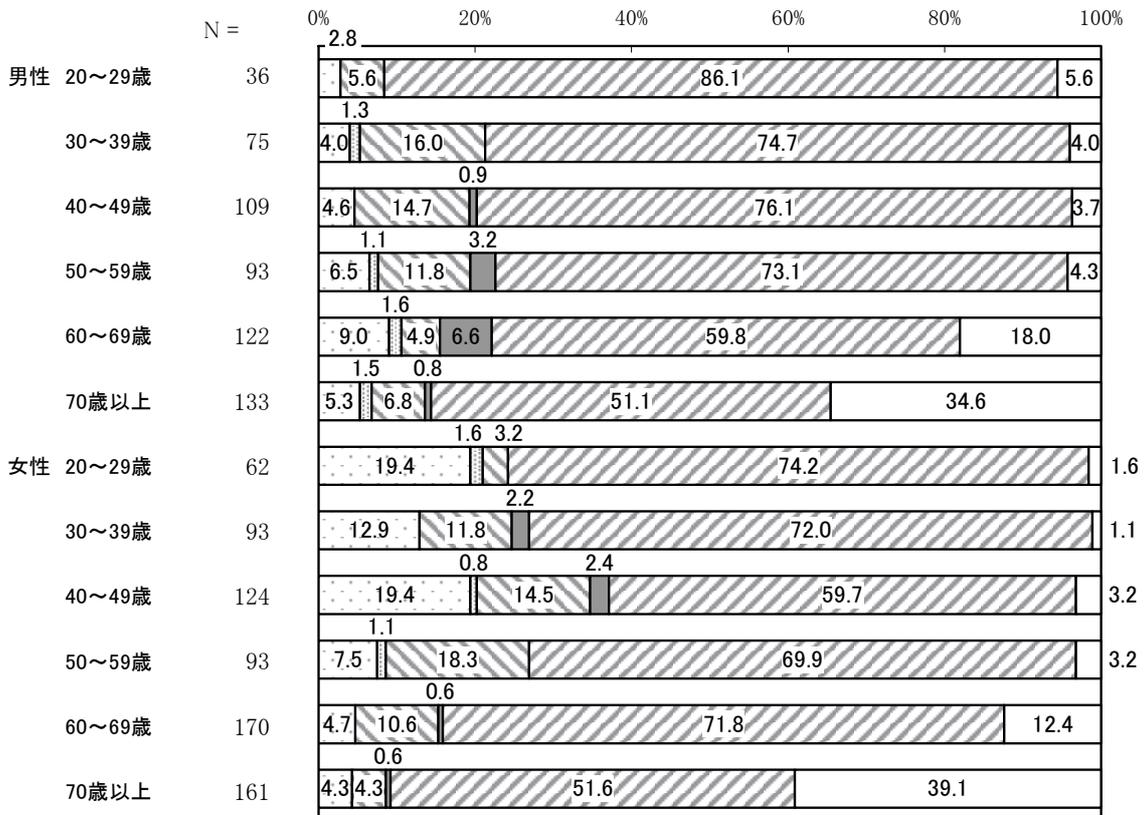
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

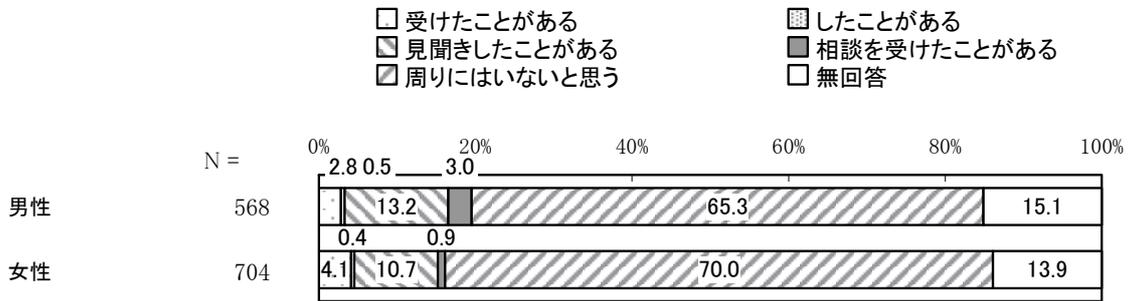
性・年齢別でみると、女性の20～29歳、40～49歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の30～39歳、女性の50～59歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の60～69歳で「相談を受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の20～39歳、60～69歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑭ きちんと仕事を与えてもらえない

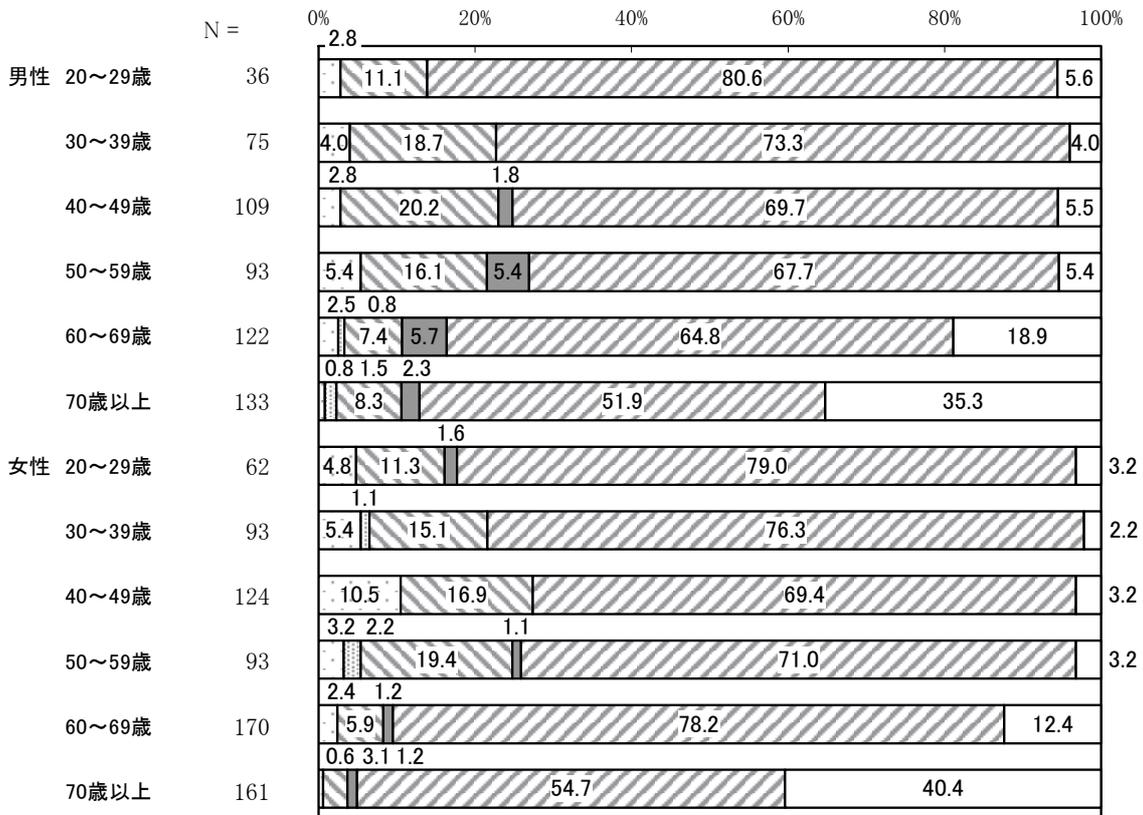
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

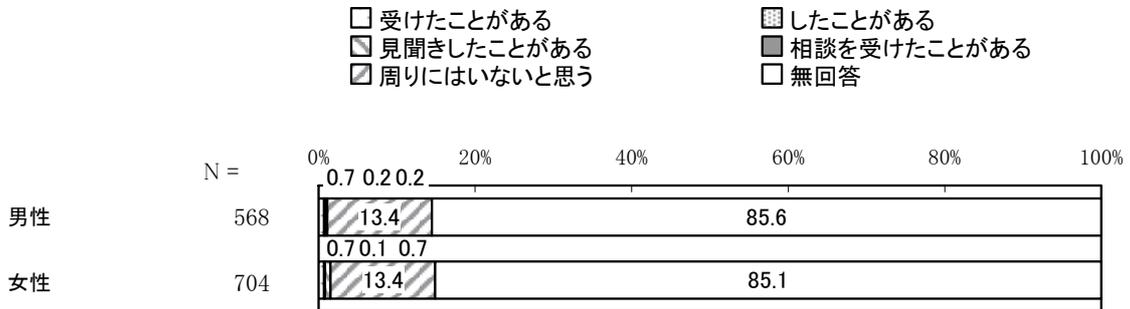
性・年齢別でみると、女性の 40～49 歳で「受けたことがある」の割合が高くなっています。男性の 30～49 歳、女性の 40～59 歳で「見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。男性の 20～39 歳、女性の 20～39 歳、60～69 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



⑮ その他

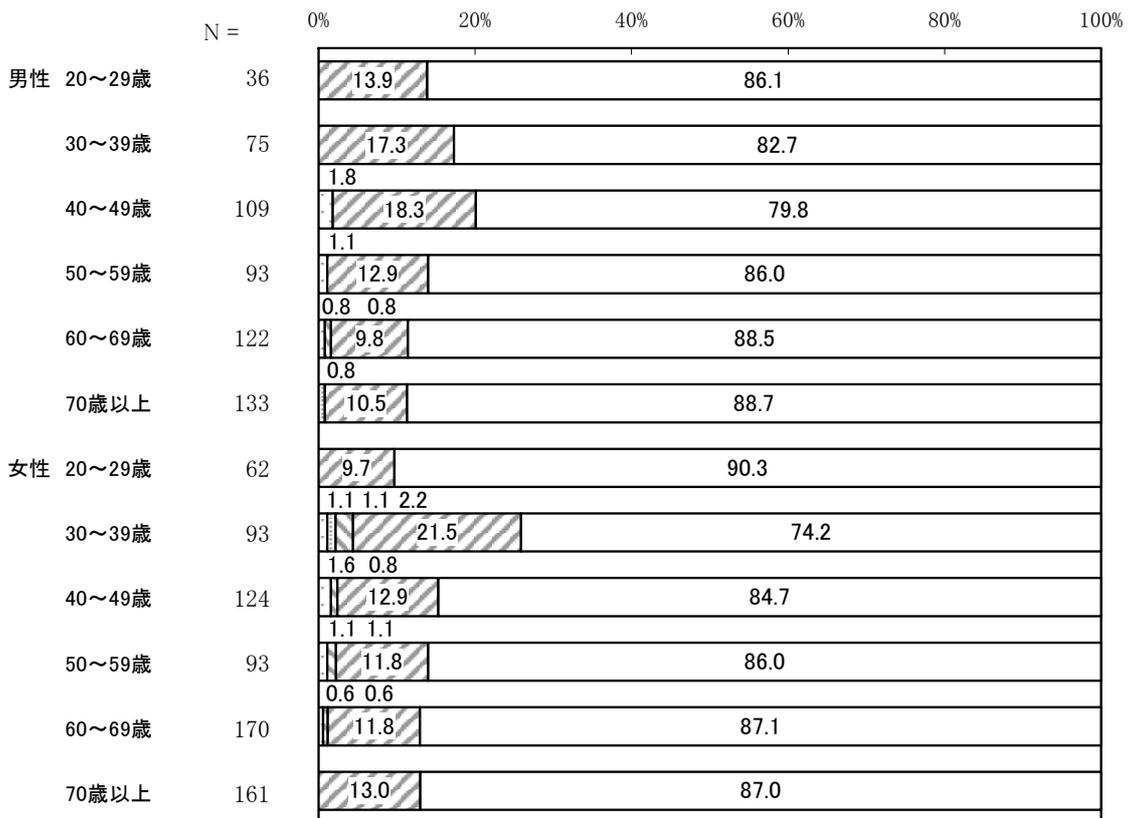
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

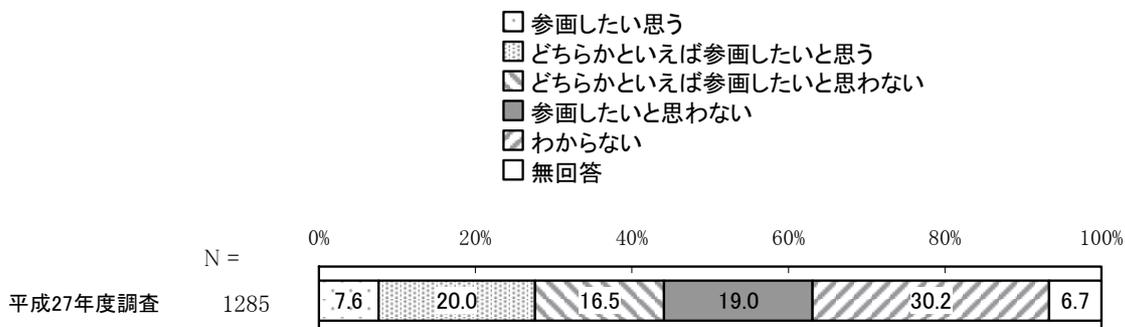
性・年齢別でみると、女性の 30～39 歳で「周りにはいないと思う」の割合が高くなっています。



(8) 社会参画について

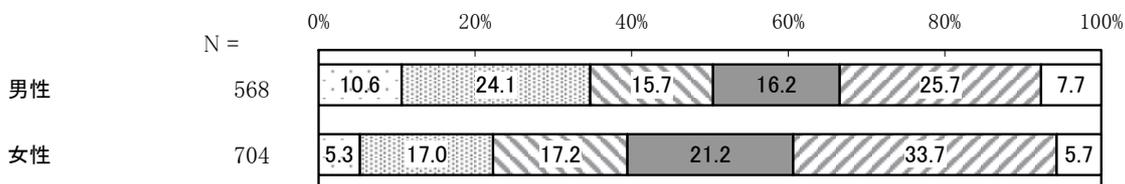
問 27. あなたは、地域・職場などにおいて、方針決定の場へ参画したいと思いますか。
(○印は1つ)

「わからない」の割合が30.2%と最も高く、次いで「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が20.0%、「参画したいと思わない」の割合が19.0%となっています。



【性別】

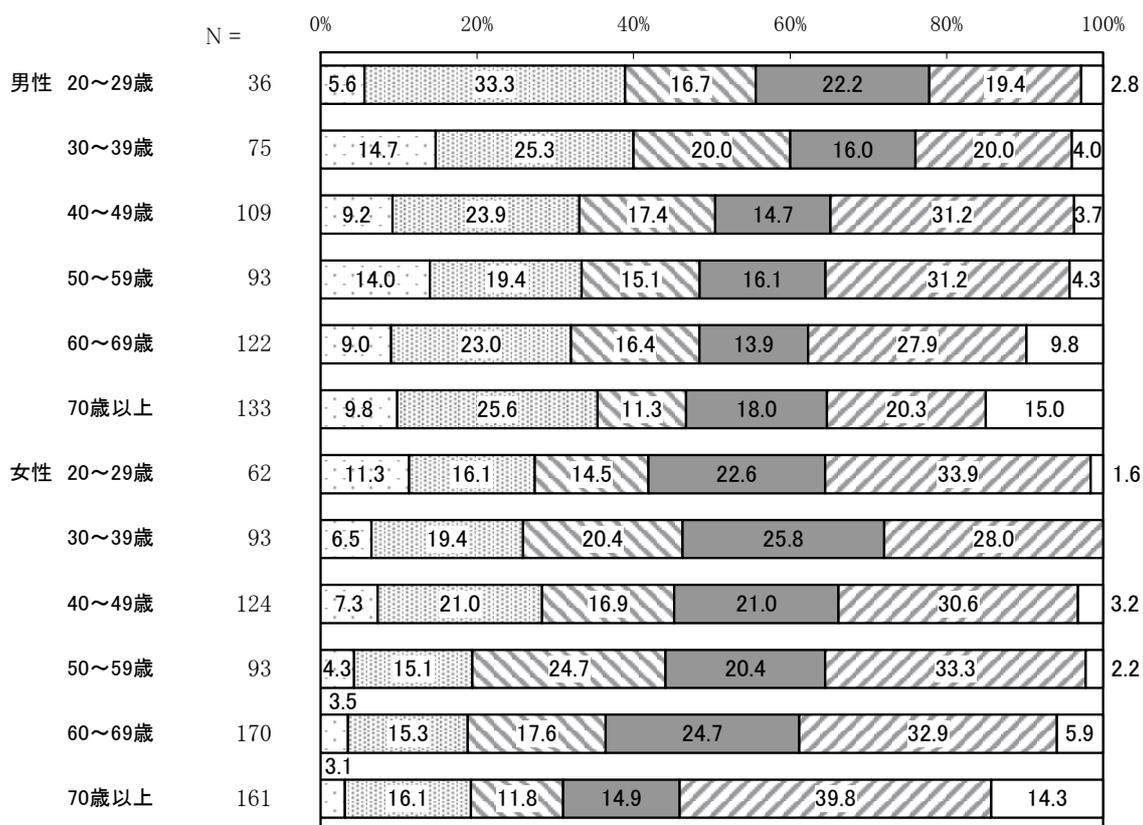
性別でみると、女性に比べ男性で「参画したいと思う」「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「参画したいと思わない」「わからない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の30～39歳、50～59歳で「参画したい思う」の割合が高くなっています。男性の20～39歳、70歳以上で「どちらかといえば参画したいと思う」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「どちらかといえば参画したいと思わない」の割合が高くなっています。女性の30～39歳、60～69歳で「参画したいと思わない」の割合が高くなっています。

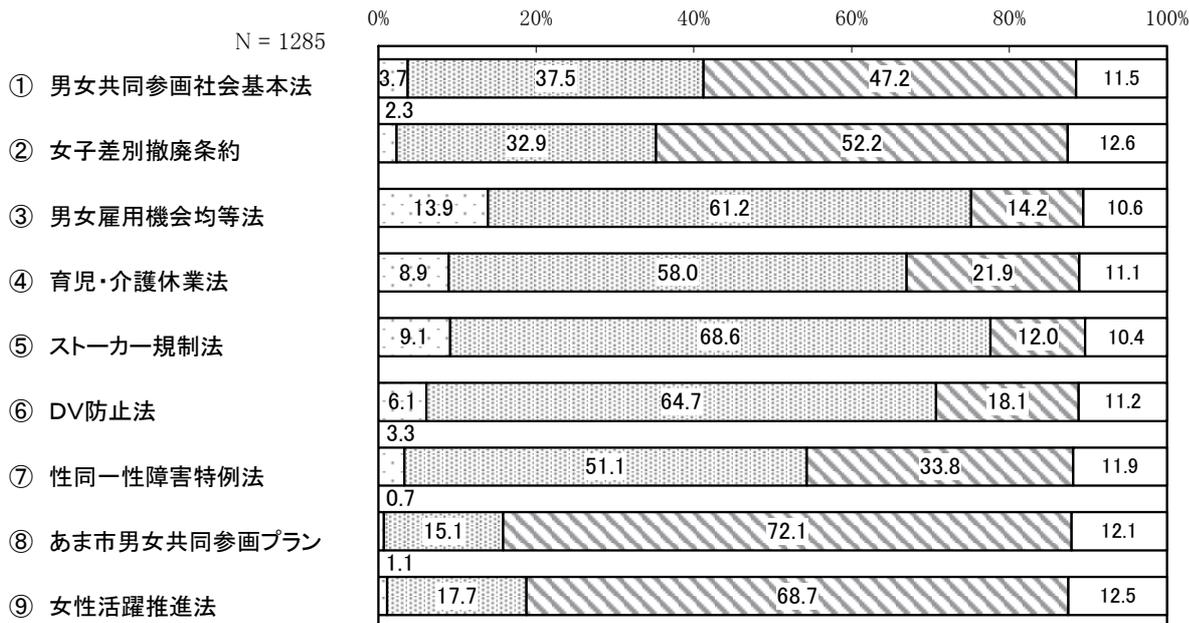
- 参画したい思う
- ▨ どちらかといえば参画したいと思う
- ▩ どちらかといえば参画したいと思わない
- 参画したいと思わない
- ▧ わからない
- 無回答



問 28. 現在、男女平等参画社会の実現に向けて、法律や制度等の整備が進んでいます。
 あなたは、次のような法律等についてご存じですか。
 (○印①～⑨の項目ごとに1つずつ)

「知らない」の割合が、①男女共同参画社会基本法で47.2%、②女子差別撤廃条約で52.2%、
 ⑧あま市男女共同参画プランで72.1%、⑨女性活躍推進法で68.7%となっています。

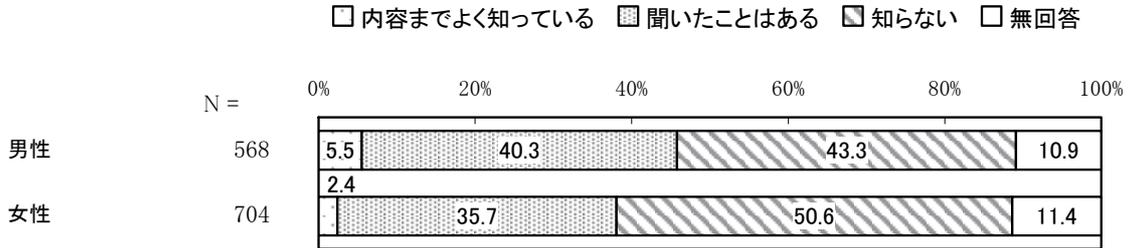
□ 内容までよく知っている □ 聞いたことはある □ 知らない □ 無回答



① 男女共同参画社会基本法

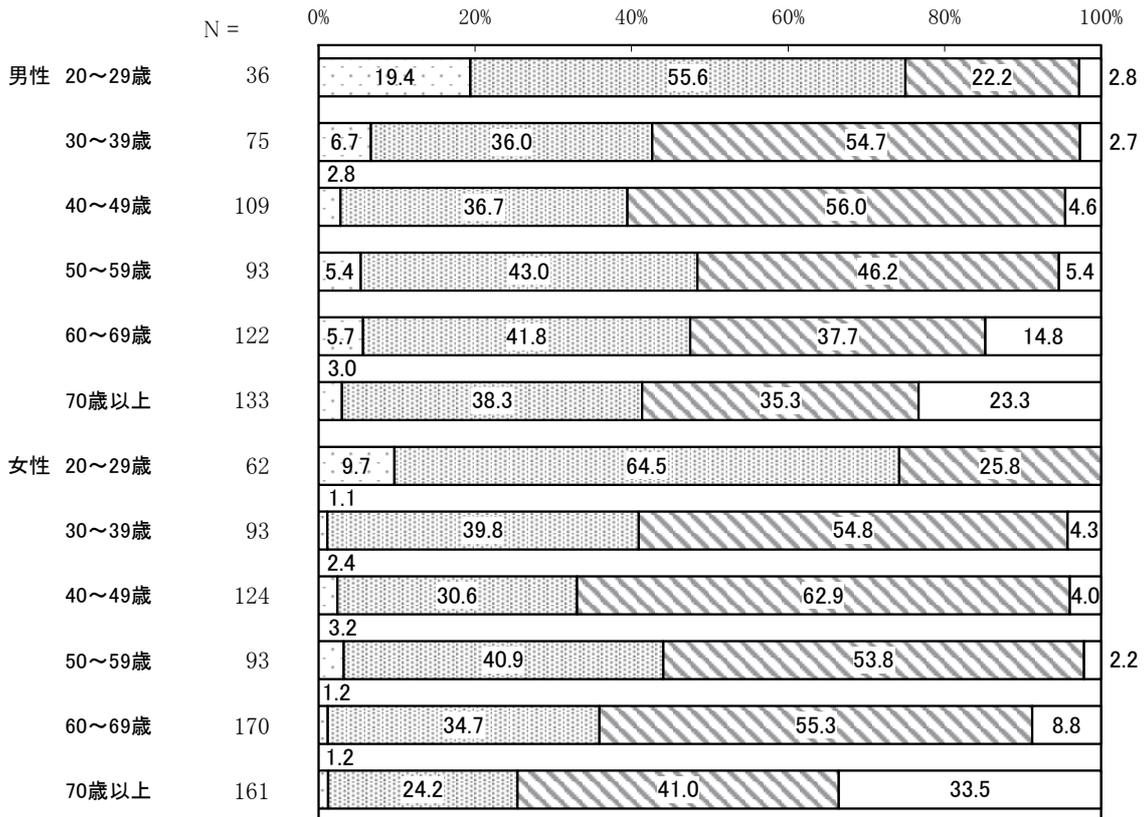
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「知らない」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

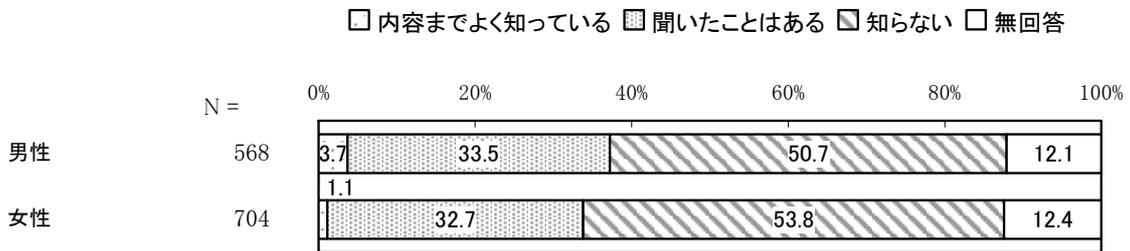
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の20～29歳、女性の20～29歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の30～49歳、女性の30～69歳で「知らない」の割合が高くなっています。



② 女子差別撤廃条約

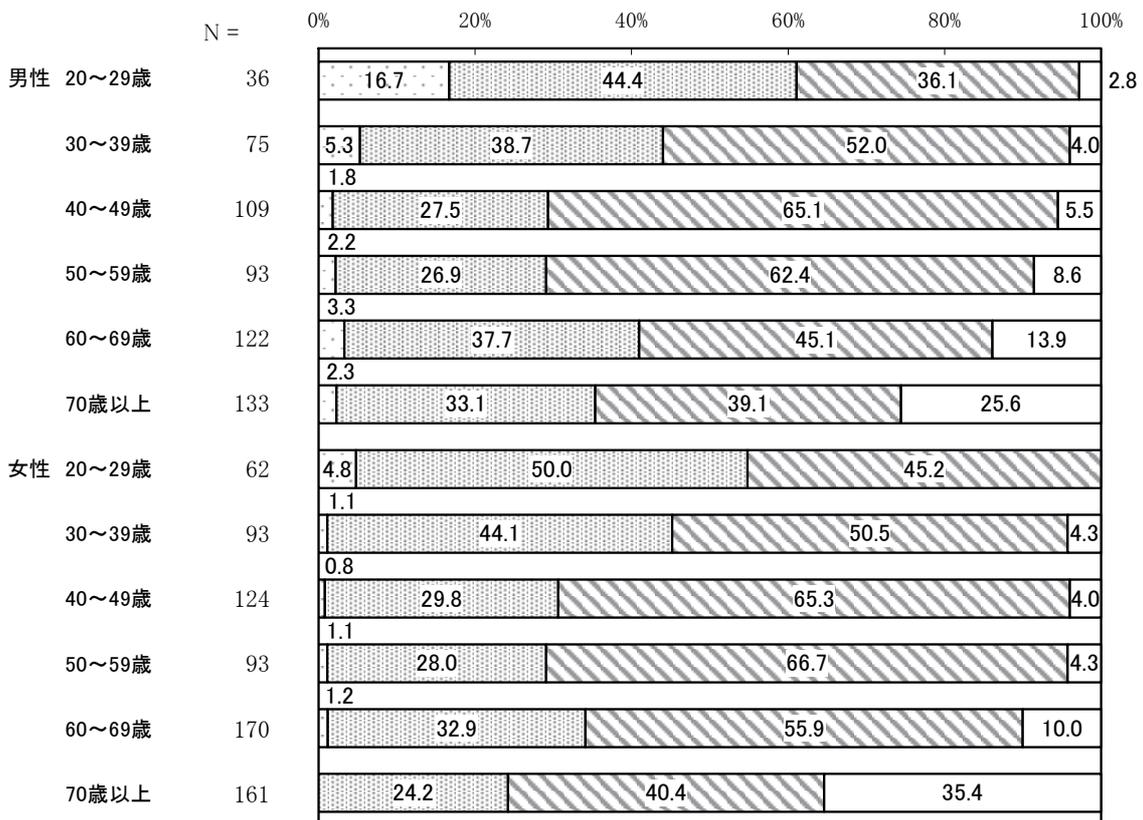
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

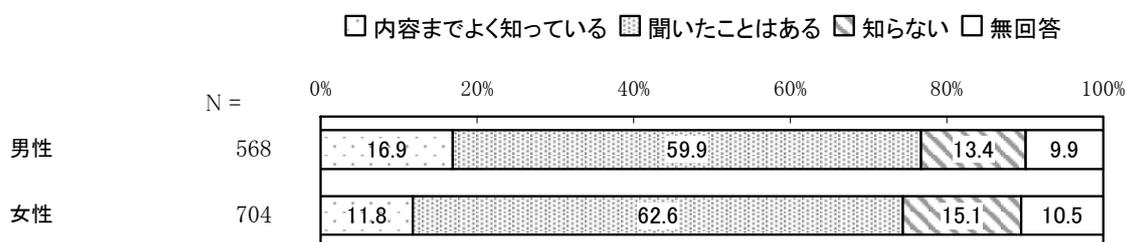
性・年齢別でみると、男性の 20～29 歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の 20～39 歳、女性の 20～39 歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の 40～59 歳、女性の 40～59 歳で「知らない」の割合が高くなっています。



③ 男女雇用機会均等法

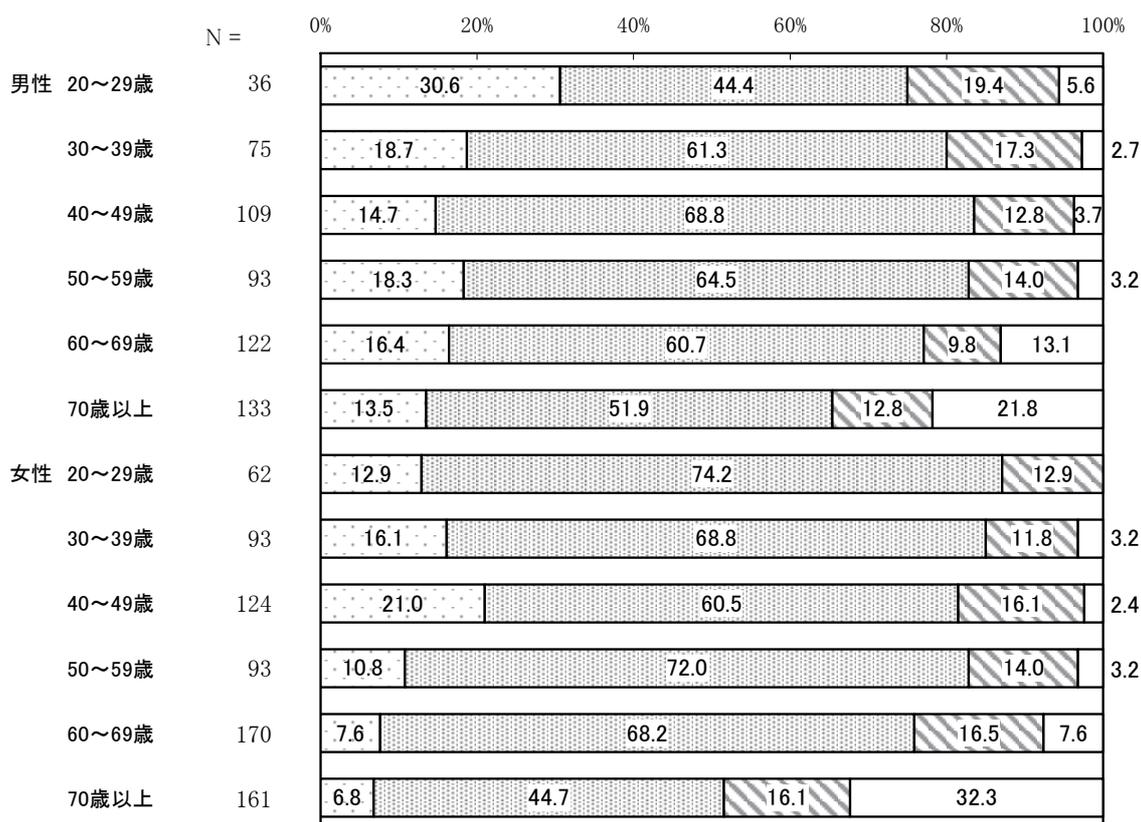
【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

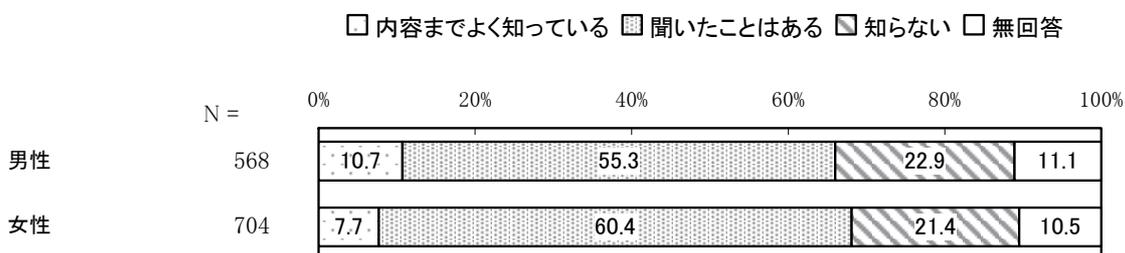
性・年齢別で見ると、男性の20～29歳、女性の40～49歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の40～49歳、女性の20～39歳、50～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



④ 育児・介護休業法

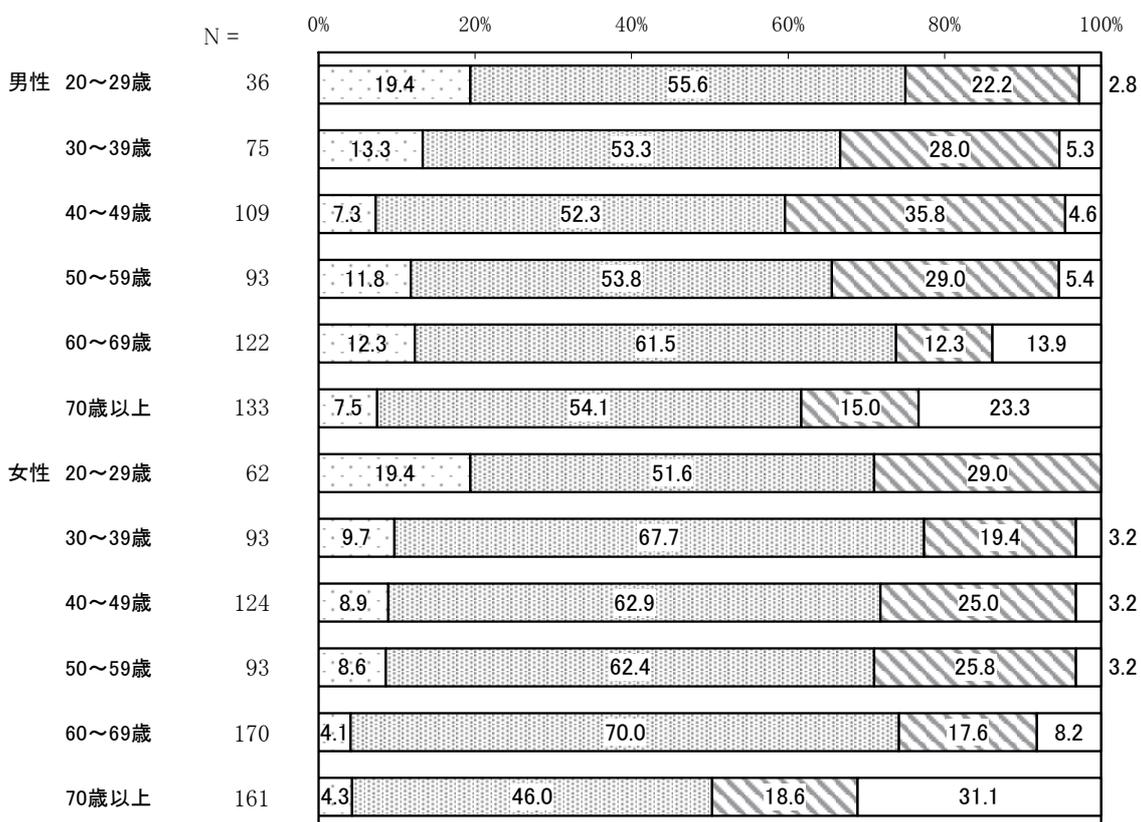
【性別】

性別でみると、男性に比べ女性で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

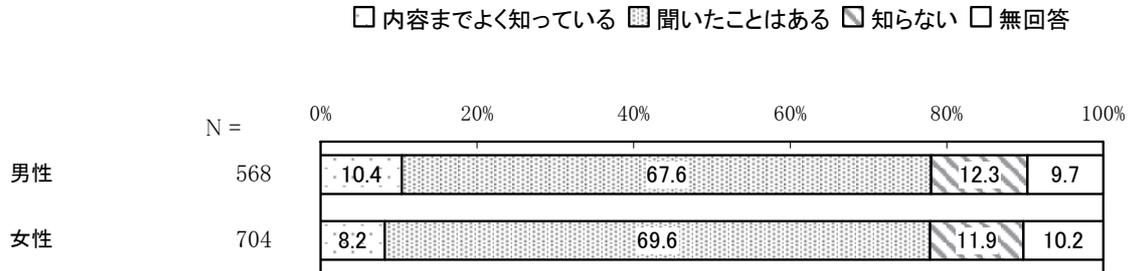
性・年齢別でみると、男性の20～29歳、女性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。女性の60～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑤ ストーカー規制法

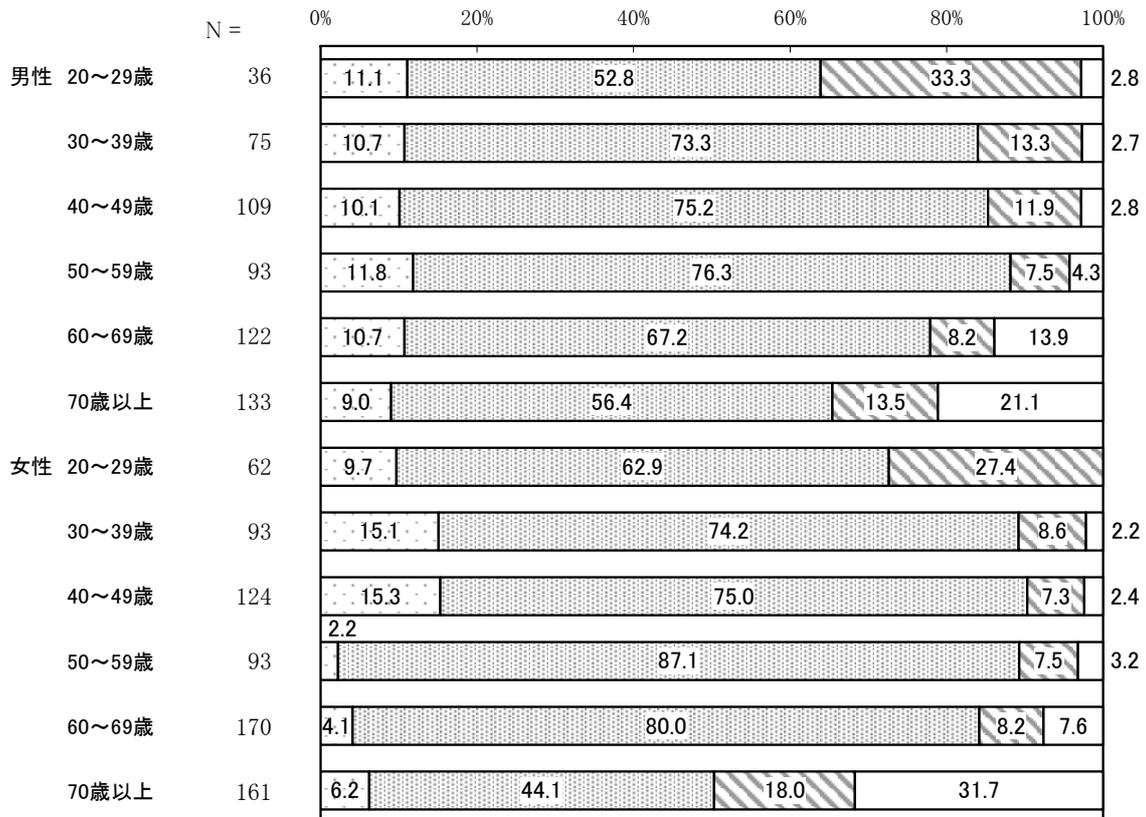
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

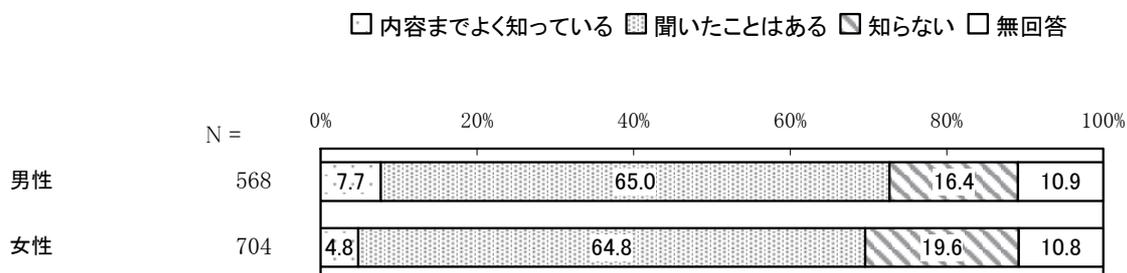
性・年齢別でみると、女性の 30～49 歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の 30～59 歳、女性の 30～69 歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の 20～29 歳、女性の 20～29 歳、70 歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。



⑥ DV防止法

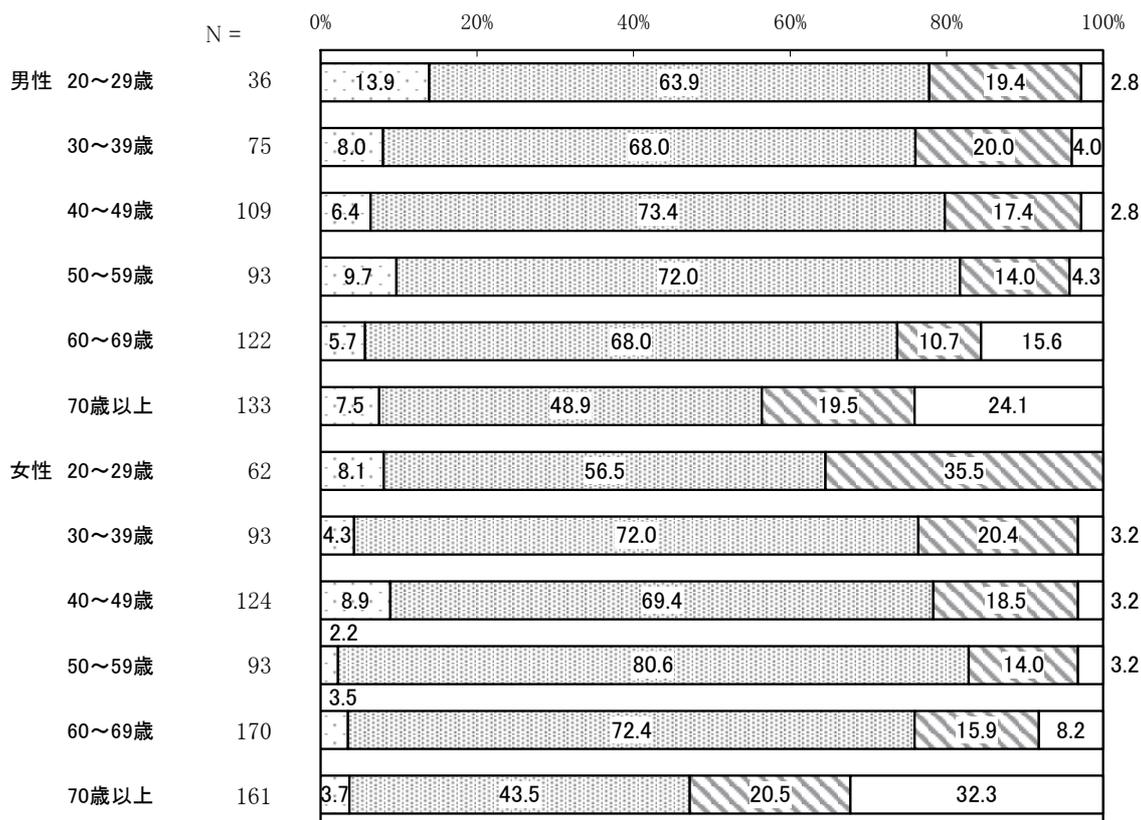
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

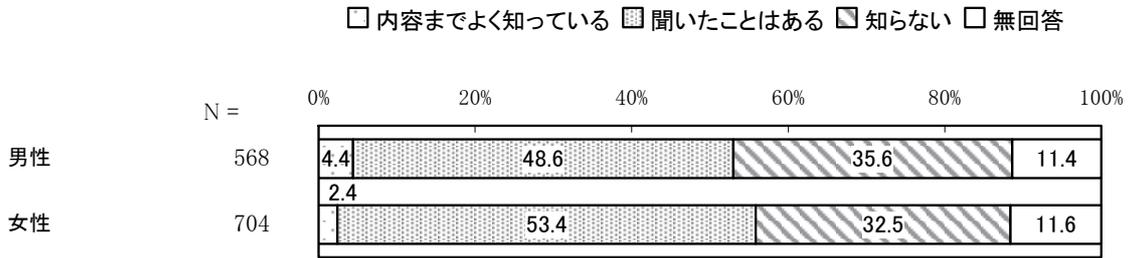
性・年齢別でみると、男性の20～29歳で「内容までよく知っている」の割合が高くなっています。男性の40～59歳、女性の30～39歳、50～69歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。女性の20～29歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑦ 性同一性障害特例法

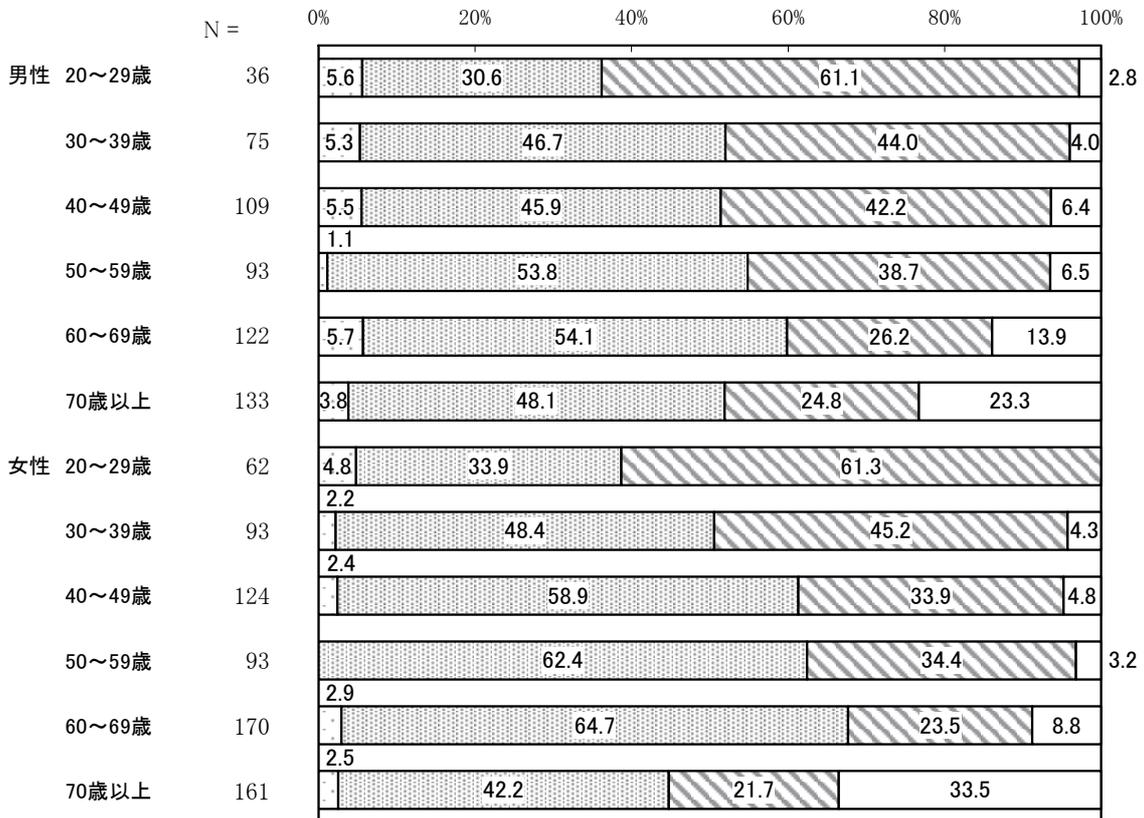
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

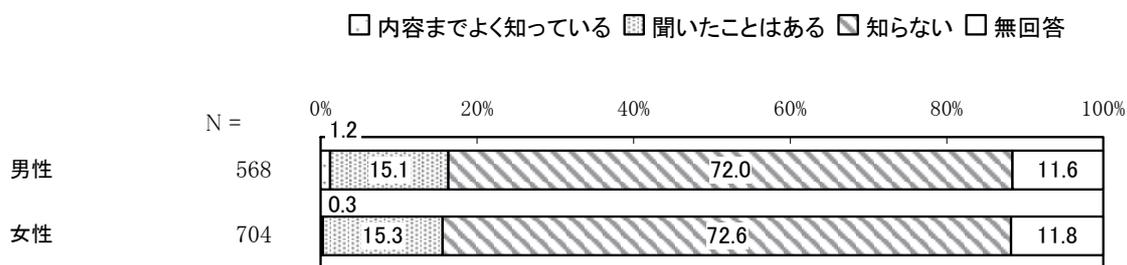
性・年齢別でみると、女性の 40～69 歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の 20～49 歳、女性の 20～39 歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑧ あま市男女共同参画プラン

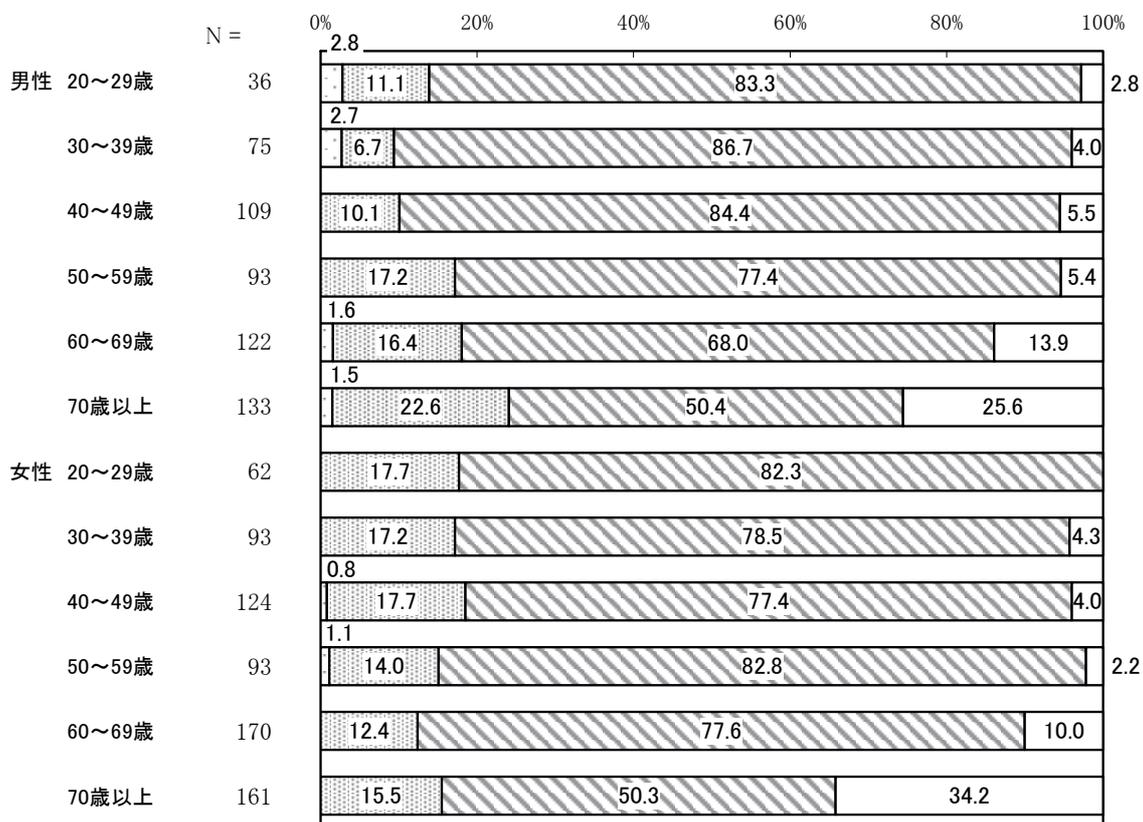
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【性・年齢別】

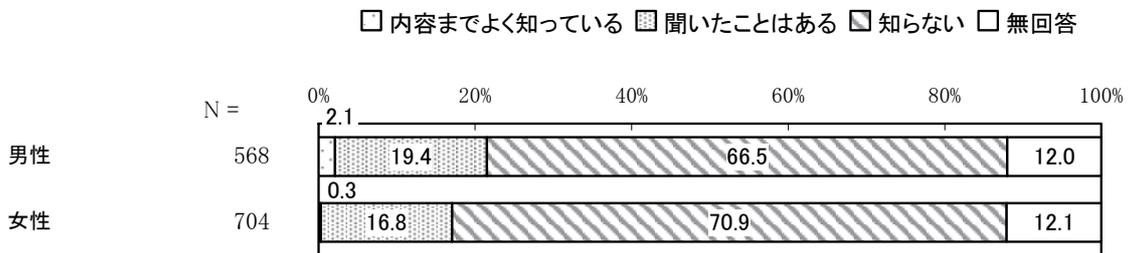
性・年齢別でみると、男性の70歳以上で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の20～59歳、女性の20～69歳で「知らない」の割合が高くなっています。



⑨ 女性活躍推進法

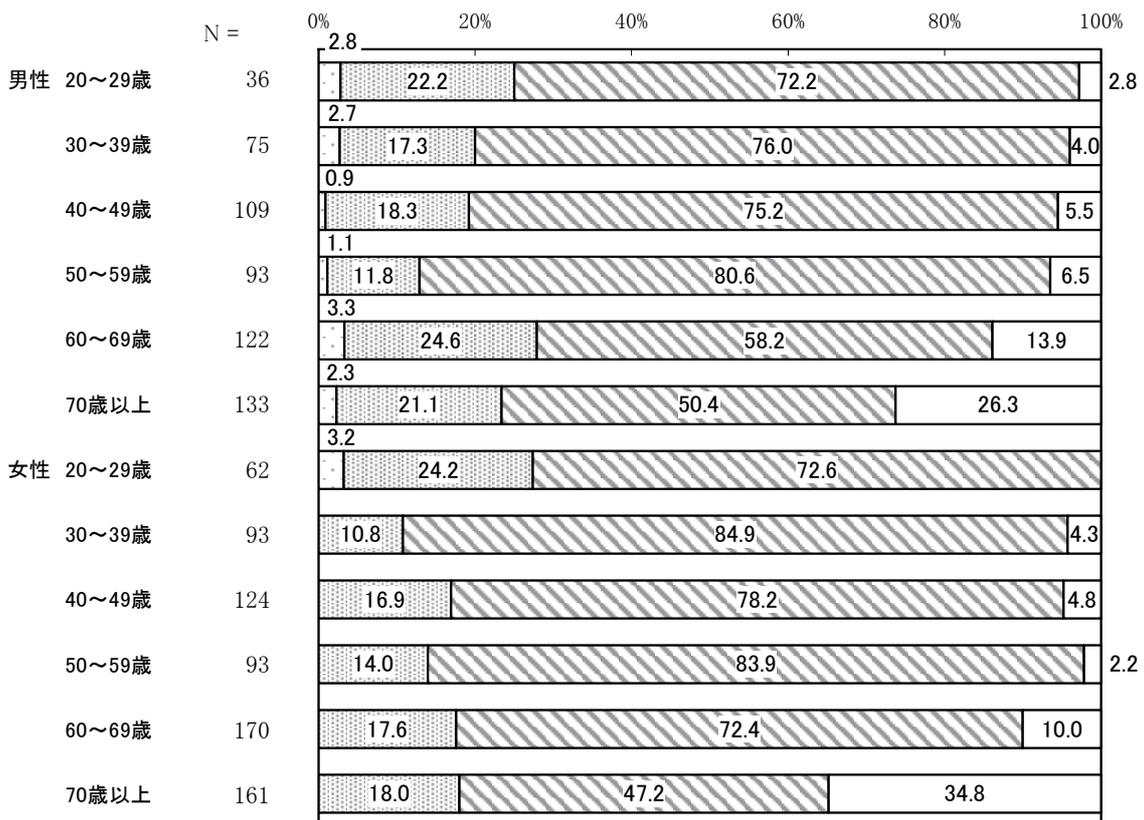
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



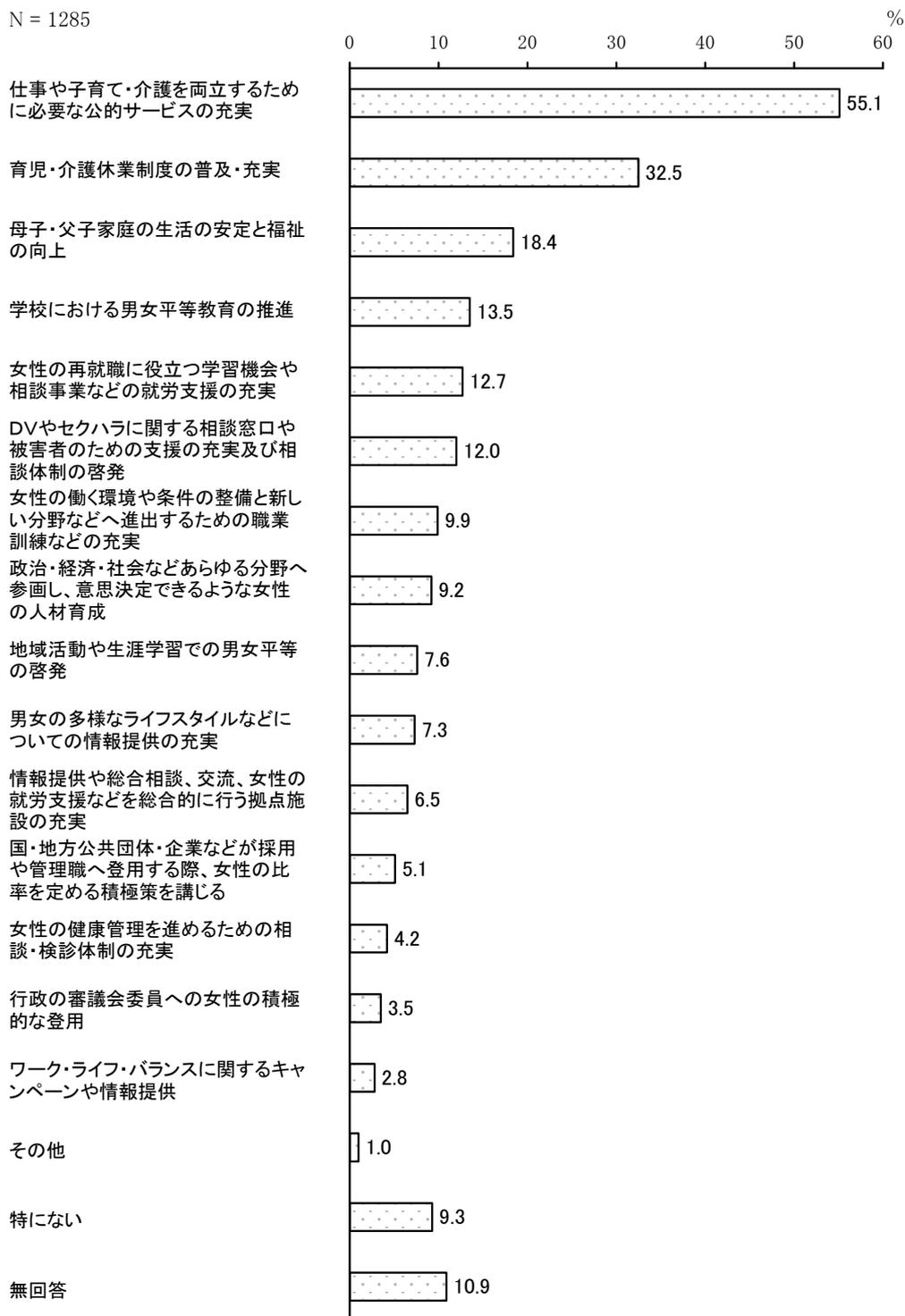
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の60～69歳、女性の20～29歳で「聞いたことはある」の割合が高くなっています。男性の30～59歳、女性の30～59歳で「知らない」の割合が高くなっています。



問 29. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取組みが必要だと思われますか。(〇印3つまで)

「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が 32.5%、「母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上」の割合が 18.4%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性に比べ男性で「DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ女性で「女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実」「女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	育児・介護休業制度の普及・充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発	母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上	地域活動や生涯学習での男女平等の啓発	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実	や情報提供	進出するための職業訓練などの充実	ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーン	国・地方公共団体・企業などが採用や管理職へ登用する際、女性の比率を定める積極策を講じる	政治・経済・社会などあらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成	行政の審議会委員への女性の積極的な登用	学校における男女平等教育の推進	女性の健康管理を進めるための相談・検診体制の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報を総合的に行う拠点施設の充実	情報提供や総合相談、交流、女性の就労支援などを総論的に行う拠点施設の充実	その他	特になし	無回答
男性	568	53.5	30.5	14.8	19.2	9.2	9.5	4.2	6.5	5.6	9.5	3.7	16.0	2.8	8.1	7.0	1.6	8.5	10.9	
女性	704	56.8	34.4	9.8	17.8	6.5	15.2	1.7	12.6	4.8	9.1	3.4	11.6	5.3	6.5	6.3	0.6	9.8	10.4	

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の20～29歳、50～59歳で「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が高くなっています。男性の70歳以上で「地域活動や生涯学習での男女平等の啓発」の割合が高くなっています。女性の20～49歳で「女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実」の割合が高くなっています。女性の40～49歳、60～69歳で「女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実」の割合が高くなっています。男性の40～49歳で「学校における男女平等教育の推進」の割合が高くなっています。女性の50～59歳で「男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実	育児・介護休業制度の普及・充実	DVやセクハラに関する相談窓口や被害者のための支援の充実及び相談体制の啓発	母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上	地域活動や生涯学習での男女平等の啓発	女性の再就職に役立つ学習機会や相談事業などの就労支援の充実	や情報提供	ワーク・ライフ・バランスに関するキャンペーン	女性の働く環境や条件の整備と新しい分野などへ進出するための職業訓練などの充実	国・地方公共団体・企業などが採用や管理職へ登用する際、女性の比率を定める積極策を講じる	政治・経済・社会などあらゆる分野へ参画し、意思決定できるような女性の人材育成	行政の審議会委員への女性の積極的な登用	学校における男女平等教育の推進	女性の健康管理を進めるための相談・検診体制の充実	男女の多様なライフスタイルなどについての情報提供の充実	情報提供や総合相談、交流、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の充実	その他	特になし	無回答
男性 20～29歳	36	55.6	36.1	19.4	25.0	2.8	5.6	8.3	5.6	5.6	16.7	2.8	13.9	5.6	8.3	—	—	11.1	11.1	
30～39歳	75	49.3	30.7	16.0	26.7	2.7	9.3	4.0	10.7	8.0	9.3	5.3	13.3	4.0	10.7	4.0	2.7	6.7	4.0	
40～49歳	109	56.9	37.6	15.6	20.2	8.3	11.0	3.7	10.1	3.7	5.5	0.9	22.9	—	6.4	1.8	4.6	7.3	5.5	
50～59歳	93	53.8	26.9	15.1	16.1	9.7	8.6	6.5	3.2	5.4	9.7	3.2	17.2	2.2	9.7	9.7	2.2	10.8	9.7	
60～69歳	122	52.5	27.9	12.3	23.0	8.2	9.0	4.1	4.9	6.6	9.0	3.3	18.9	2.5	9.0	10.7	—	9.8	11.5	
70歳以上	133	53.4	27.8	14.3	11.3	15.8	10.5	2.3	5.3	5.3	11.3	6.0	9.0	4.5	6.0	9.8	—	6.8	19.5	
女性 20～29歳	62	71.0	53.2	12.9	16.1	4.8	19.4	1.6	14.5	4.8	6.5	—	11.3	4.8	9.7	6.5	—	8.1	1.6	
30～39歳	93	57.0	39.8	14.0	11.8	—	18.3	4.3	12.9	5.4	3.2	4.3	4.3	6.5	7.5	5.4	—	11.8	8.6	
40～49歳	124	58.1	37.9	12.1	13.7	7.3	19.4	2.4	15.3	5.6	11.3	3.2	13.7	4.0	6.5	10.5	0.8	7.3	5.6	
50～59歳	93	65.6	29.0	8.6	11.8	6.5	17.2	4.3	7.5	4.3	11.8	2.2	15.1	5.4	14.0	6.5	—	9.7	4.3	
60～69歳	170	58.2	37.6	10.6	23.5	7.1	14.1	—	16.5	6.5	11.8	2.4	17.1	2.4	5.3	3.5	0.6	7.1	10.0	
70歳以上	161	44.1	21.1	4.3	22.4	9.9	8.7	—	8.7	2.5	7.5	6.2	6.8	8.7	1.9	6.2	1.2	13.7	22.4	

あま市人権に関する市民意識調査
調査結果報告書

平成28年3月

発行：あま市 企画財政部 人権推進課
〒490-1292

愛知県 あま市木田戌亥 18 番地 1

TEL 052-444-0398

FAX 052-441-8330

URL <http://www.city.ama.aichi.jp/>